

清須市男女共同参画に関する
市民意識調査
【結果報告書】

平成 25 年 12 月
清須市

【目次】

I 調査概要	1
1. 調査目的	2
2. 調査の概要	2
3. 報告書の見方	3
II 結果概要	5
III 調査結果	9
1 あなた自身について	10
2 男女の平等感について	12
3 仕事と家庭生活、地域生活について	29
4 女性の社会進出について	51
5 配偶者や恋人からの暴力について	55
6 男女共同参画全般について	62
IV 自由回答	67
V 調査票	80

I 調査概要

1. 調査目的

本調査は、平成 19 年度に策定した「清須市男女共同参画プラン」見直しの基礎資料とするため実施しました。

2. 調査の概要

- ・調査地域 : 清須市全域
- ・調査対象者 : 2,000 人
- ・抽出方法 : 満 20 歳以上の男女
- ・調査期間 : 平成 25 年 7 月 5 日～8 月 2 日
- ・調査方法 : 郵送配布・回収
- ・調査実施機関 : (株) ジャパンインターナショナル総合研究所
- ・回収結果 : 下表参照

配布数 (A)	回収数 (= C + D)	有効回収数 (C)	無効回収数 (D)	有効回収率 (= C / A)
2,000	716	716	0	35.8%

3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の読み取り文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- クロス表中において、項目ごとの「グレーの網掛け+太枠」は第一位、「グレーの網掛け」は第二位を表しています。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま、記載しています。

II 結果概要

1 男女の平等感について

(1) 男女の地位の平等感

- 全体では、「家庭生活」「職場」「政治の場」「法律や制度の上」「社会通念・習慣・しきたりなど」「社会全体として」で『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合）が高くなっており、特に不平等感が強い分野であるということがうかがえます。一方で、「学校教育の場」では『平等』が 51.0%となっており、比較的、性別による平等・不平等の感じ方の差が少ない分野であるといえます。
- 男女別では、「職場」を除いた分野で、女性の方が男性と比較して『男性優遇』と回答している割合が高くなっており、ほとんどの分野で不平等を感じている女性が多いことがうかがえます。特に「家庭生活」では、『男性優遇』と感じる差が 23.3 ポイントと、全分野の中でも男女の差が最も大きくなっています。
- 年齢別では、40 代の「家庭生活」「職場」「法律や制度の上」「社会通念・習慣・しきたりなど」で「男性の方が非常に優遇されている」が特に高くなっています。
- 県及び国調査と比較すると、すべての分野において『平等』が国調査より低くなっており、「学校教育の場」「地域活動の場」「法律や制度の上」については、県調査も下回っています。

2 仕事と家庭生活、地域生活について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方

- 全体では『賛成する』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合）が『反対する』（「どちらかといえば反対」と「反対」合わせた割合）を上回っています。また、男性と比較して女性で『反対』が 7.1 ポイント上回っています。
- 国及び県調査と比較すると、『賛成』の割合は低くなっているものの、「わからない」と回答している割合も多く、男女共同参画の認識が十分に根づいていない現状がうかがえます。

(2) 地域活動への参加状況

- 地域活動への参加状況については、「している」が全体の 3 割程度となっており、性別でほぼ差はみられません。年代別では 20 代、30 代の若い世代では「していない」が特に高くなっています。
- 地域活動の中での男女の不平等感については、男性の「仕事を持つ男性の地域活動への参画が少ない」が女性を 16.5 ポイント上回っており、地域活動に参加していない理由についても、男性の「時間に余裕がない」が女性を 11.6 ポイント上回っているなど、仕事などで忙しいために地域活動に参加できない男性が多いことがうかがえます。
- 地域活動の中での男女の不平等感については「女性のみがお茶くみや片づけなどの雑務をしている」で女性が男性を 23.5 ポイント上回っており、性別により感じ方に差があることがうかがえます。

(3) 生活の中での優先度の理想と現実

- 生活の中での実際の優先度、理想の優先度については、男女ともに「家庭生活」が最も高くなっています。
- 理想と現実の差をみると、男女ともに「仕事」で現実が理想を上回っており、「家庭生活」「個人の生活」で理想が現実を上回っています。特に男性では「仕事」で現実が理想を大幅に上回っており、仕事が忙しいことで理想通りの生活を送れていない人が多いことがうかがえます。

(4) 仕事と家庭生活を両立するための制度の認知度

- 制度の認知度については、「育児休業制度」で「内容を知っている」が全体の4割と比較的高くなっているものの、その他の「子の看護休暇制度」「介護休業制度」「介護休暇制度」では「内容を知っている」は1割程度に留まっています。
- 制度を使った休暇等の取得について、すべての項目で「取ったことがある」は1割に満たない状況となっています。しかし「取りたかったが、取ったことはない」についてもすべての項目で一定程度見受けられるため、潜在的なニーズがあることがうかがえます。
- 育児休業制度は、「取得した」が女性で11.6%に対して、男性では0.5%となっており、特に男女の差が大きくなっているものの、「取りたかったが、取ったことはない」が男性で13.0%みられるなど、取得希望はあっても、取得しづらい状況にあることがうかがえます。

3 女性の社会進出について

(1) 女性が職業（仕事）をもつことについて

- 男女ともに「子どもができたらずやめ、その後、子どもが大きくなったら再びもつ方がよい」という『再就職型』が最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい」という『就労継続型』が高くなっています。
- 年代別では、30代～50代の働き盛りの世代で『再就職型』『就労継続型』がほぼ回答を二分しています。一方で、60代以上の世代に加え、20代の若い世代でも『就労継続型』が低くなっています。
- 国及び県調査と比較すると、男女ともに、国・県と比較して『就労継続型』が低くなっています。

(2) 女性の職場環境

- 女性が安心して働き続けるために必要なことについて、「夫や家族が理解し協力する」が最も高くなっています。一方で職場からの支援、休暇制度の定着などといった項目についても6割を超えて高くなっており、女性の働きやすい職場づくりに向けては多方面からの働きかけが必要なことがうかがえます。

4 配偶者や恋人からの暴力について

(1) DVに関する認知度などについて

○DVについては、「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる『ドメスティック・バイオレンス』と呼ぶこと」「DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」といったことで男女ともに認知度が高くなっています。一方で、「DVを受けている者を発見した者は、配偶者暴力相談支援センターまたは警察に通報するように努めなければならないこと」については認知度が低くなっています。

○DVについての相談窓口については男女ともに6割の認知度となっており、その内容については「警察署」が大半を占めています。

(2) DVの経験について

○DVの被害者は、女性で7.9%、男性で1.4%であり、年代別では、70歳以上で高くなっています。

○DV被害の相談先については、「家族や親戚などの身内」「友人・知人」が多く、身近な人に相談する人が多いことがうかがえます。

○DV被害については「誰にも相談しなかった」人が約半数を占めており、被害が潜在化する傾向にあることがうかがえます。

5 男女共同参画全般について

(1) 男女共同参画に関する言葉の認知度

○男女ともに「男女雇用機会均等法」が最も高く、約7割を占めています。次いで「男女共同参画社会基本法」が約2割となっています。

○その他の項目はすべて1割未満に留まっており、「見たり聞いたりしたものはない」が2割となっているなど、男女共同参画に関する用語の周知度が十分でない状況がうかがえます。

(2) 男女共同参画実現のために市に望む施策

○「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する」などが高く、また、これらの項目で、女性が男性を大きく上回っています。

Ⅲ 調査結果

1 あなた自身について

(1) 性別

〈単数回答〉

全体	716 人	(100.0 %)
女性	390 人	(54.5 %)
男性	294 人	(41.1 %)
不明・無回答	32 人	(4.5 %)

(2) 年齢

〈単数回答〉

全体	716 人	(100.0 %)
20代	82 人	(11.5 %)
30代	111 人	(15.5 %)
40代	113 人	(15.8 %)
50代	106 人	(14.8 %)
60代	137 人	(19.1 %)
70歳以上	159 人	(22.2 %)
不明・無回答	8 人	(1.1 %)

(3) 職業

〈単数回答〉

全体	716 人	(100.0 %)
会社員・公務員(会社役員等を含む)	214 人	(29.9 %)
派遣・契約社員	16 人	(2.2 %)
パート・アルバイト	108 人	(15.1 %)
自営業・農漁業(家族従業者を含む)	51 人	(7.1 %)
自由業(医師・弁護士・会計士・作家・芸術家など)	7 人	(1.0 %)
家事専業(主婦・主夫など)	133 人	(18.6 %)
無職	150 人	(20.9 %)
学生	14 人	(2.0 %)
その他	17 人	(2.4 %)
不明・無回答	6 人	(0.8 %)

(4) 婚姻状況 〈単数回答〉

全体	716	人	(100.0	%)
既婚(事実婚を含む)	509	人	(71.1	%)
別離(離別・死別)	78	人	(10.9	%)
未婚	109	人	(15.2	%)
不明・無回答	20	人	(2.8	%)

(4-1) 共働きをしているか ※事実婚を含む既婚者のみの回答 〈単数回答〉

全体	509	人	(100.0	%)
している	209	人	(41.1	%)
していない	251	人	(49.3	%)
不明・無回答	49	人	(9.6	%)

(5) 子どもの有無 〈単数回答〉

全体	716	人	(100.0	%)
同居している子どもがいる	394	人	(55.0	%)
子どもはいるが同居していない	147	人	(20.5	%)
子どもはいない	170	人	(23.7	%)
不明・無回答	5	人	(0.7	%)

(6) 家族構成 〈単数回答〉

全体	716	人	(100.0	%)
単身世帯(1人)	41	人	(5.7	%)
1世代世帯(夫婦のみ)	170	人	(23.7	%)
2世代世帯(親と子)	371	人	(51.8	%)
3世代世帯(親と子と孫)	104	人	(14.5	%)
その他	21	人	(2.9	%)
不明・無回答	9	人	(1.3	%)

(7) お住まいの小学校区 〈単数回答〉

全体	716	人	(100.0	%)
西枇杷島小学校区	135	人	(18.9	%)
古城小学校区	56	人	(7.8	%)
清洲小学校区	152	人	(21.2	%)
清洲東小学校区	69	人	(9.6	%)
新川小学校区	88	人	(12.3	%)
星の宮小学校区	45	人	(6.3	%)
桃栄小学校区	66	人	(9.2	%)
春日小学校区	68	人	(9.5	%)
不明	32	人	(4.5	%)
不明・無回答	5	人	(0.7	%)

2 男女の平等感について

【問8】あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

- * 『男性優遇』 = 「男性の方が非常に優遇されている」 + 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」
- * 『平等』 = 「平等である」
- * 『女性優遇』 = 「女性の方が非常に優遇されている」 + 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

(A) 家庭生活

男女の地位が平等になっていると思うか

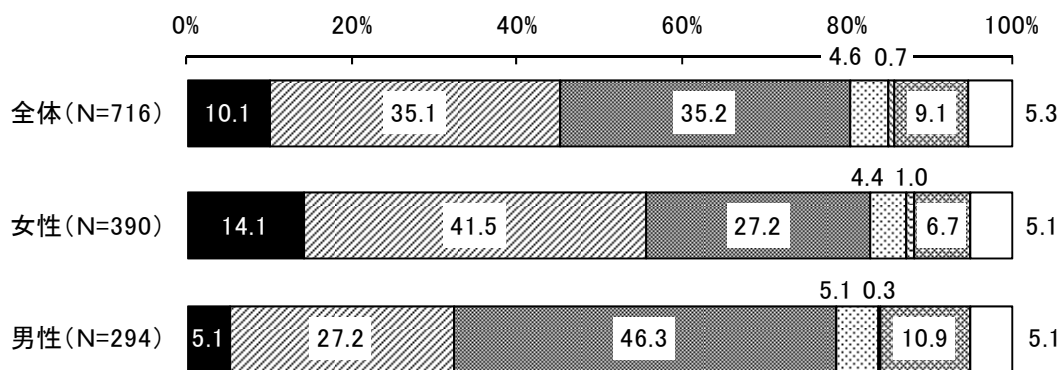
家庭生活での地位について、全体では『男性優遇』が45.2%と最も高く、次いで『平等』が35.2%となっています。

男女別では、『男性優遇』が女性で55.6%と、男性の32.3%を23.3ポイント上回っています。また、『平等』が男性で46.3%と、女性の27.2%を19.1ポイント上回っており、男女間で認識の差がみられます。

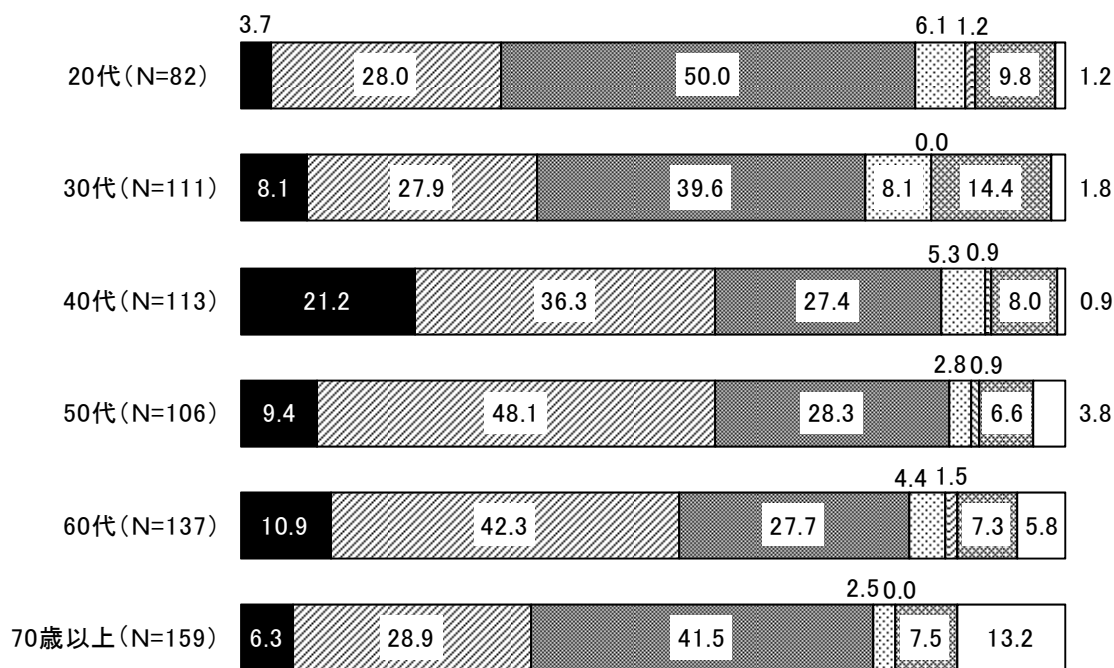
年齢別では、40代～60代で『男性優遇』が高くなっています。

〈単数回答〉

※グラフは次ページに掲載



【年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

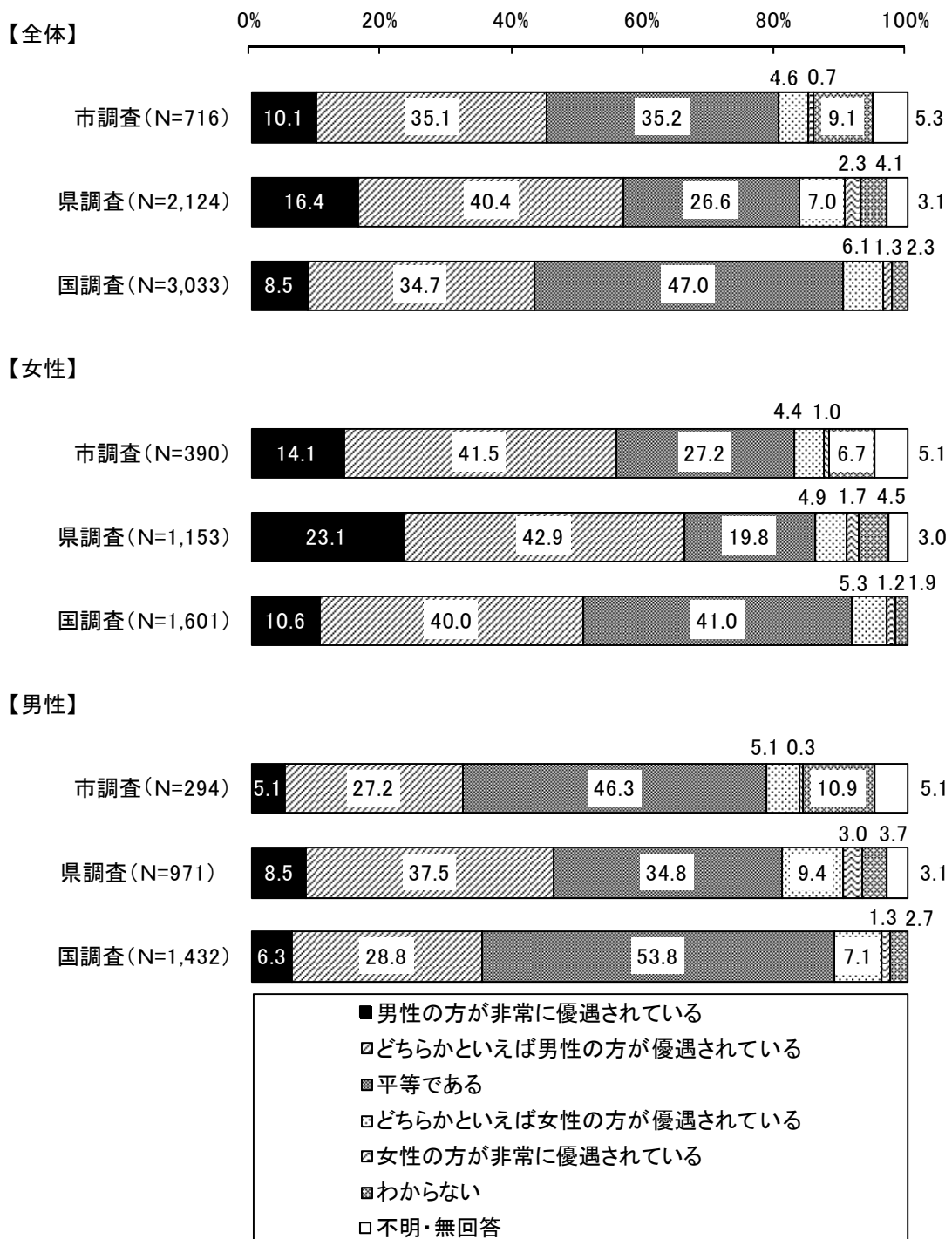
県調査及び国調査との比較

(A)家庭生活

県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は全体、女性及び男性いずれも低くなっています。一方、全体、女性及び男性いずれも『平等』は市調査が高くなっており、特に男性で11.5ポイント差となっています。

国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は男性が高くなっています。一方、全体、女性及び男性いずれも『平等』は市調査が低くなっています。

〈単数回答〉



※国調査は、不明・無回答なし

(B) 職場

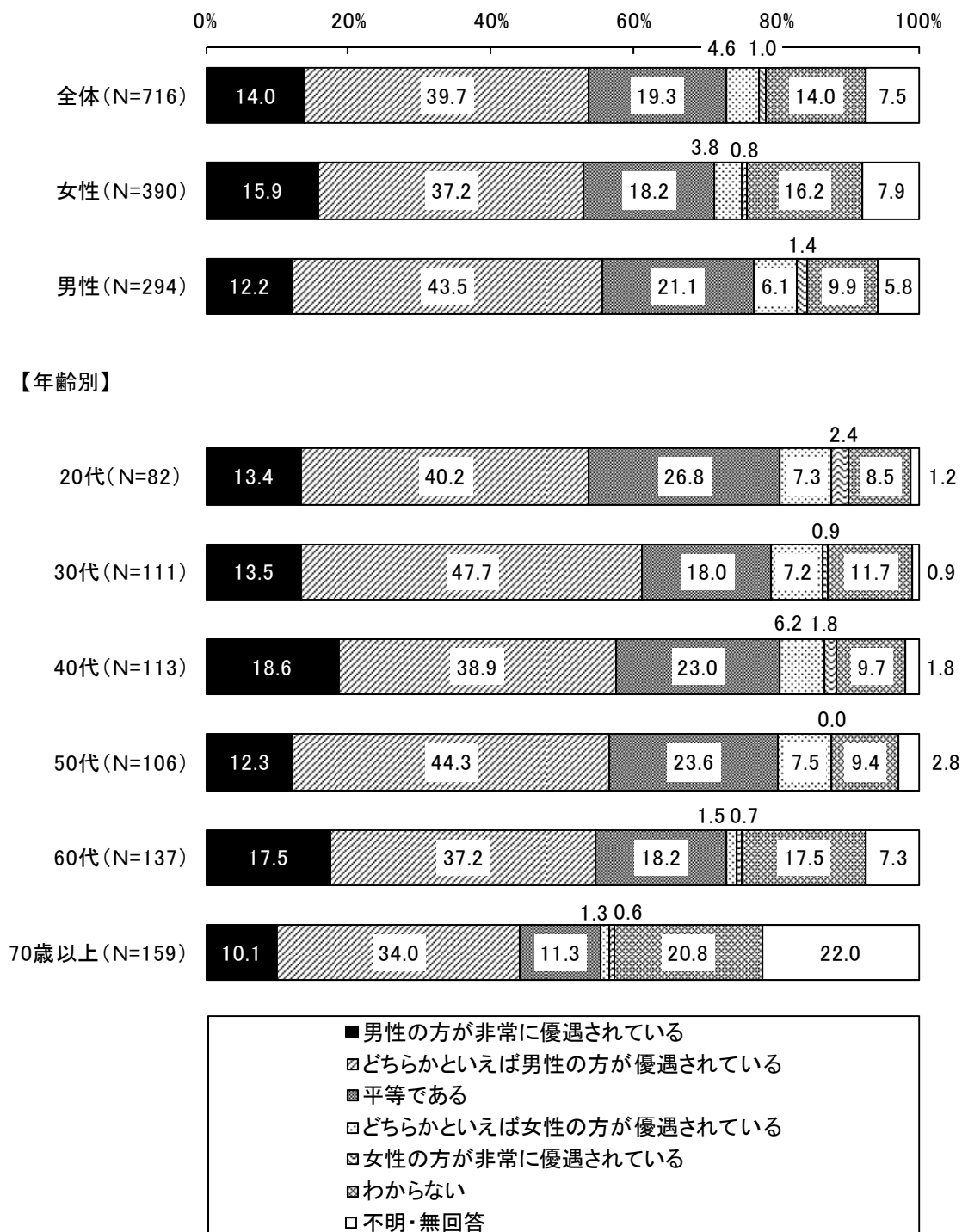
男女の地位が平等になっていると思うか

職場のでの地位について、全体では『男性優遇』が53.7%と最も高くなっています。

男女別では、男女ともに『男性優遇』が女性で53.1%、男性で55.7%と最も高くなっています。

年齢別では、特に30代で『男性優遇』が61.2%と高くなっています。

〈単数回答〉

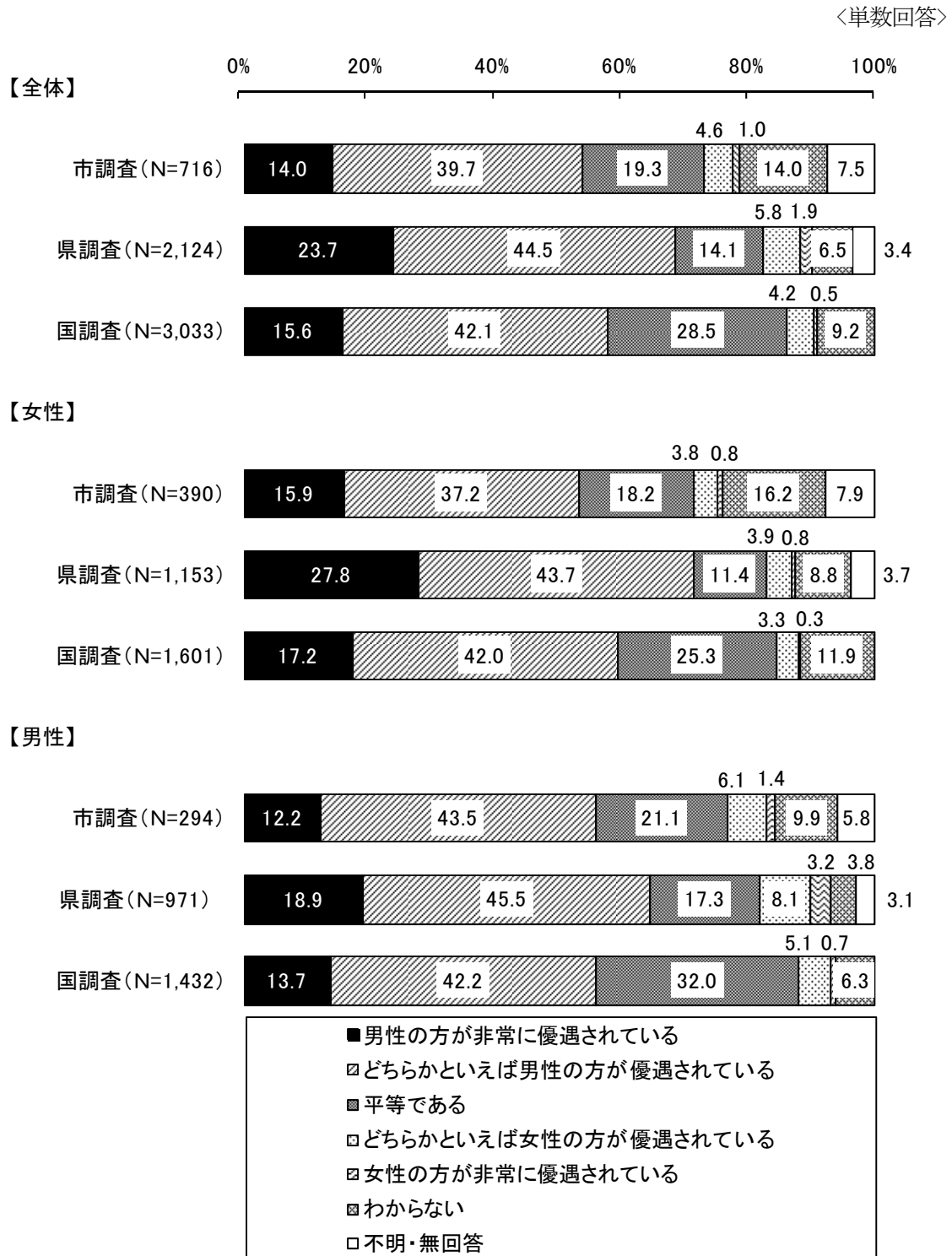


県調査及び国調査との比較

(B)職場

県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は全体、女性及び男性いずれも低く、特に女性で18.4ポイント差となっています。一方、全体、女性及び男性いずれも『平等』は市調査が高くなっています。

国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は全体、女性及び男性いずれも低くなっています。全体、女性及び男性いずれも『平等』は市調査が低くなっており、特に男性で10.9ポイント差となっています。



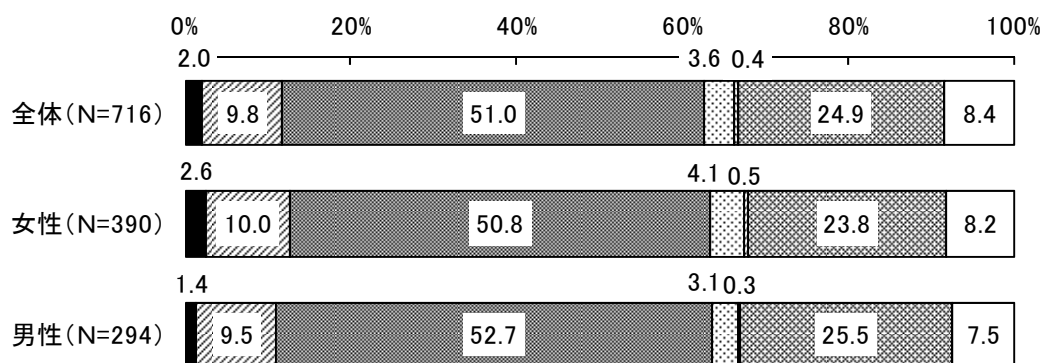
※国調査は、不明・無回答なし

(C) 学校教育の場

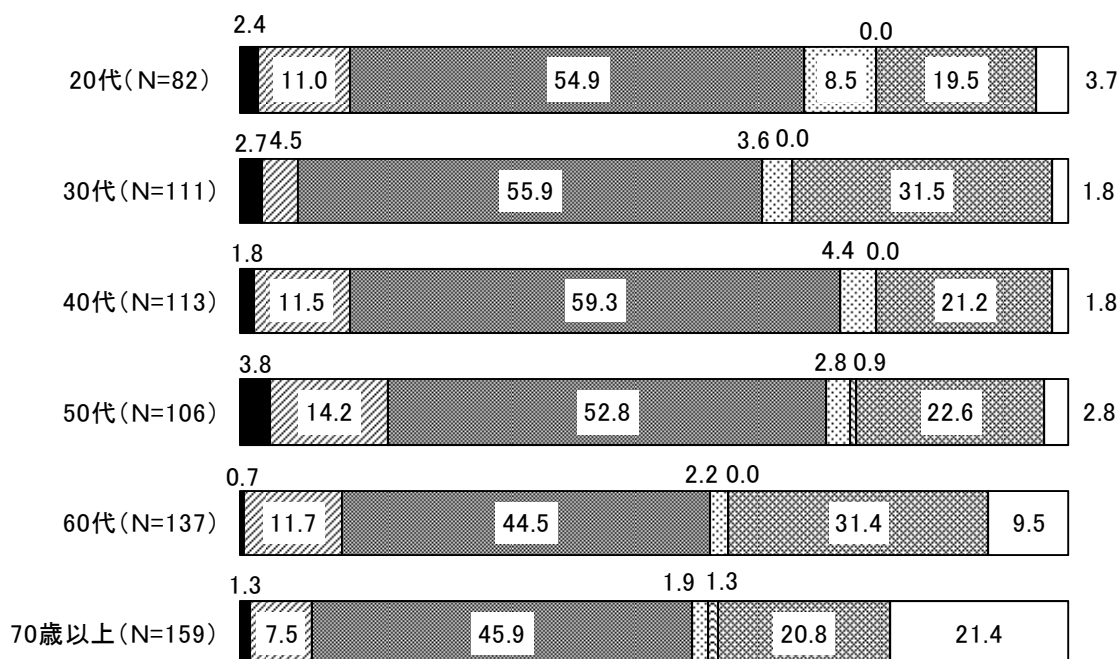
男女の地位が平等になっていると思うか

学校教育の場での地位について、全体では『平等』が51.0%と最も高くなっています。
男女別では、男女ともに『平等』が女性で50.8%、男性で52.7%と最も高くなっています。
年齢別では、いずれの年代でも『平等』が高くなっています。

<単数回答>



【年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▣ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▣ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▣ 女性の方が非常に優遇されている
- ▣ わからない
- 不明・無回答

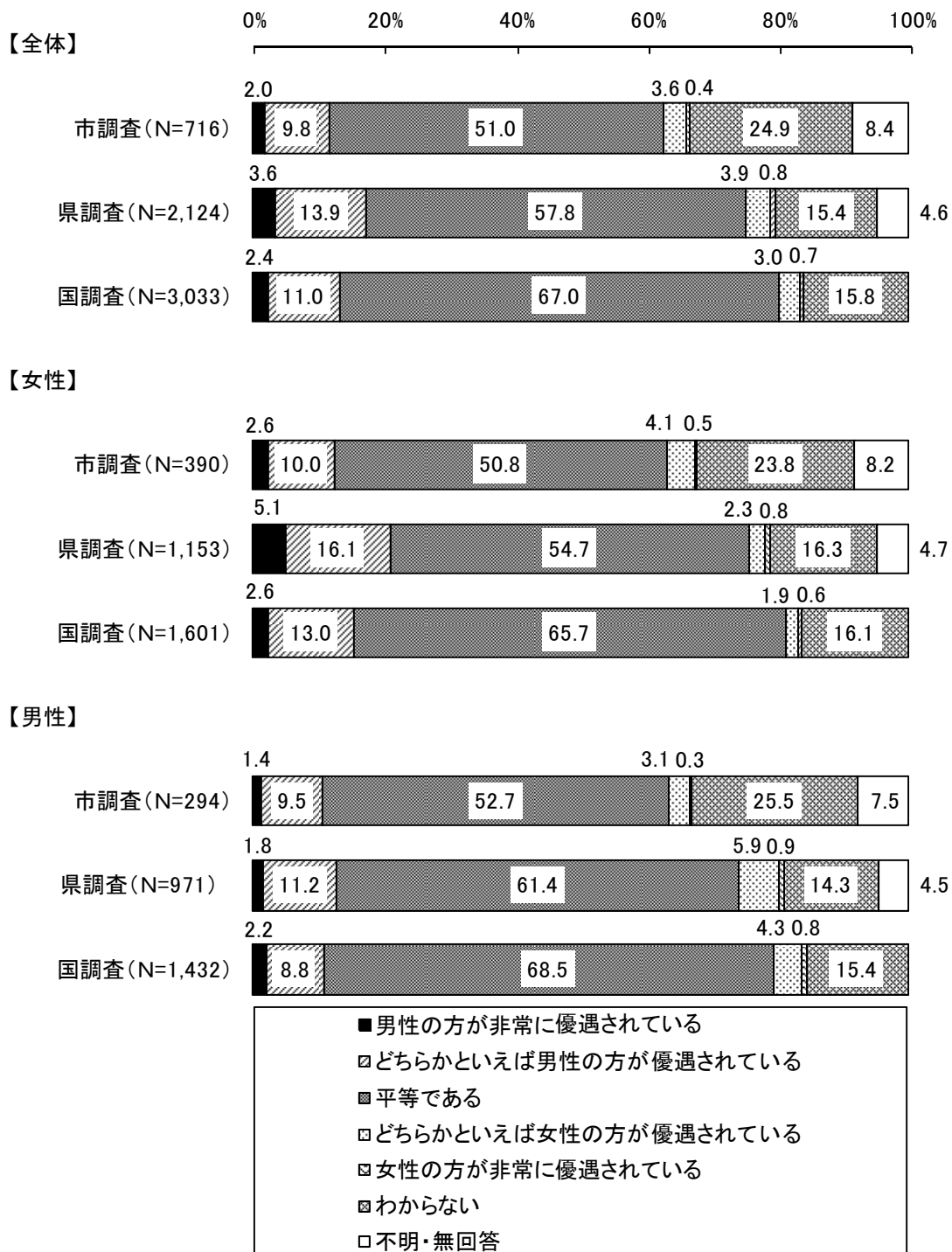
県調査及び国調査との比較

(C) 学校教育の場

県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は全体、女性及び男性いずれも低くなっています。また、全体、女性及び男性いずれも『平等』は市調査が低くなっており、特に男性で8.7ポイント差となっています。

国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』、『平等』は全体、女性及び男性いずれも低くなっており、『平等』は特に全体で16.0ポイント差となっています。

〈単数回答〉



※国調査は、不明・無回答なし

(D) 地域活動の場

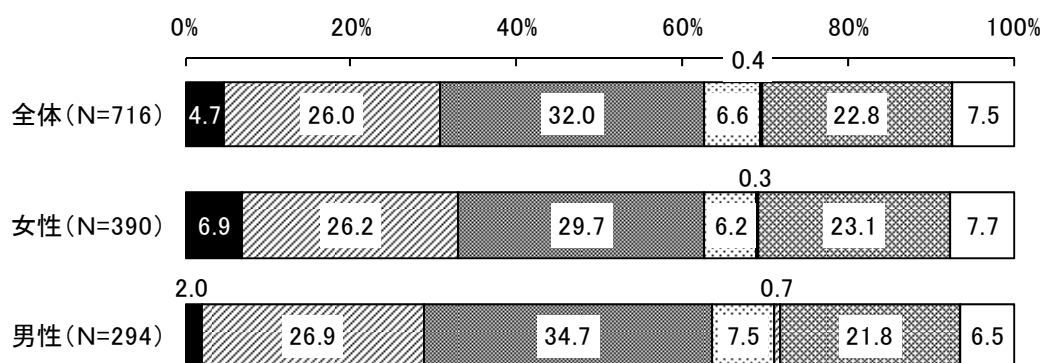
男女の地位が平等になっていると思うか

地域活動の場での地位について、全体では『平等』が 32.0%と最も高く、次いで『男性優遇』が 30.7%となっています。

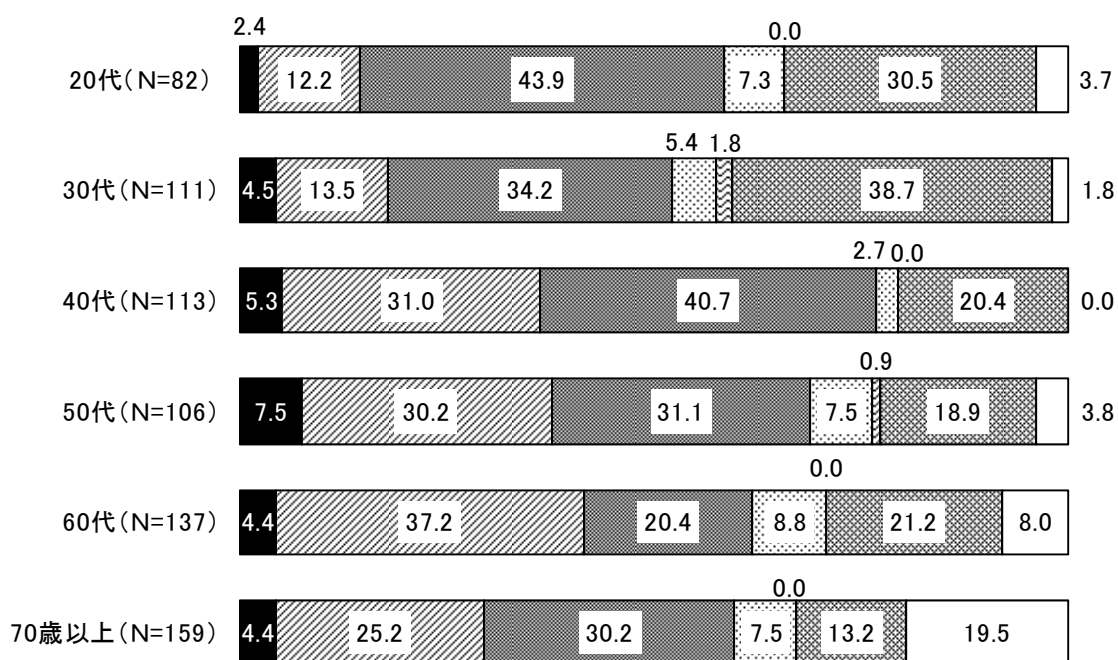
男女別では、『男性優遇』が女性で 33.1%、男性で『平等』が 34.7%と最も高くなっています。

年齢別では、特に 20代で『平等』が、40代、60代で『男性優遇』が高くなっています。

〈単数回答〉



【年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- ▨ わからない
- 不明・無回答

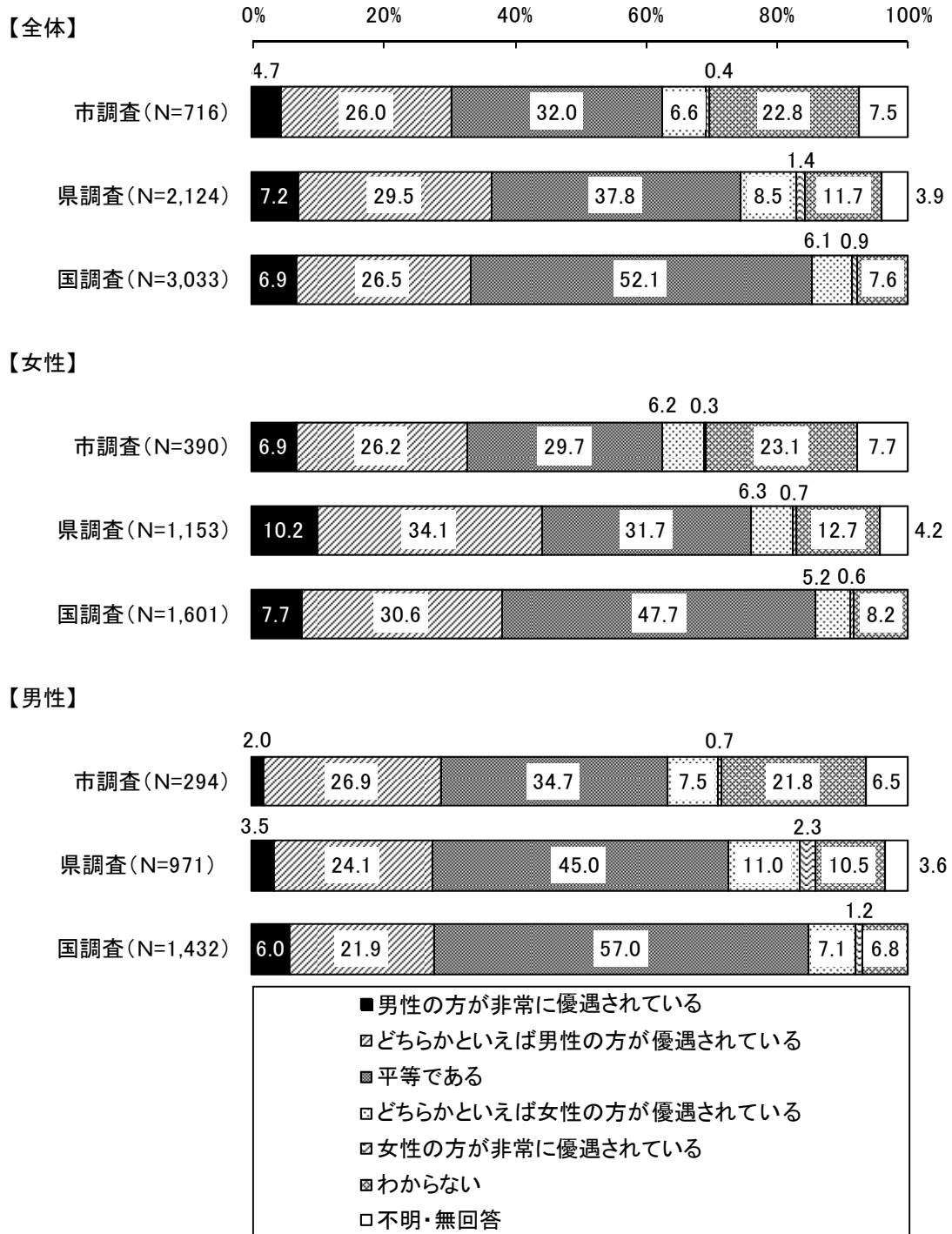
県調査及び国調査との比較

(D) 地域活動の場

県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は全体及と女性で低くなっています。また、全体、女性及び男性いずれも『平等』は市調査が低くなっており、特に男性で10.3ポイント差となっています。

国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は男性で高くなっています。『平等』は全体、女性及び男性いずれも低くなっています。

〈単数回答〉



※国調査は、不明・無回答なし

(E) 政治の場

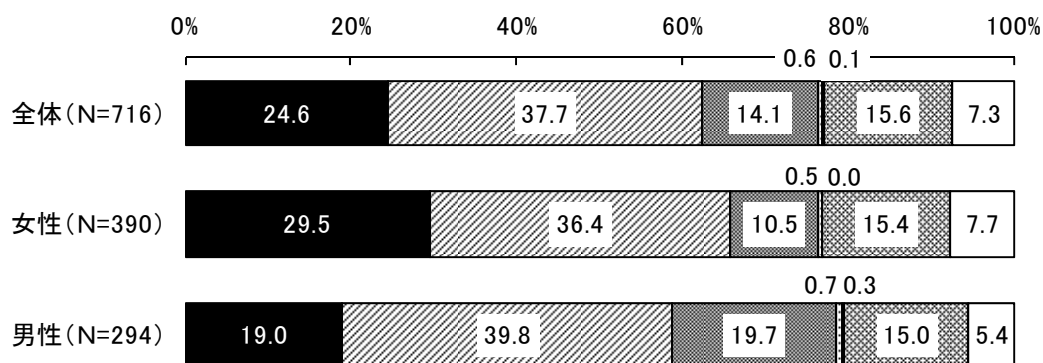
男女の地位が平等になっていると思うか

政治の場での地位について、全体では『男性優遇』が62.3%と最も高くなっています。

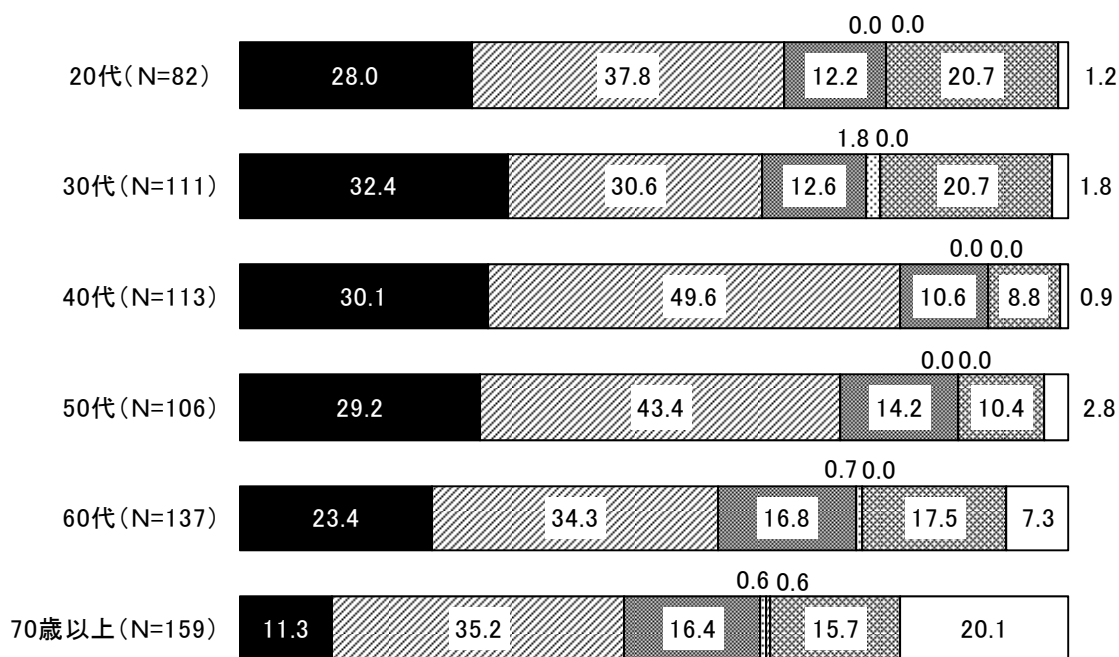
男女別では、男女ともに『男性優遇』が女性で65.9%、男性で58.8%と最も高くなっています。

年齢別では、特に40代、50代で『男性優遇』が高くなっています。

<単数回答>



【年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- ▨ わからない
- 不明・無回答

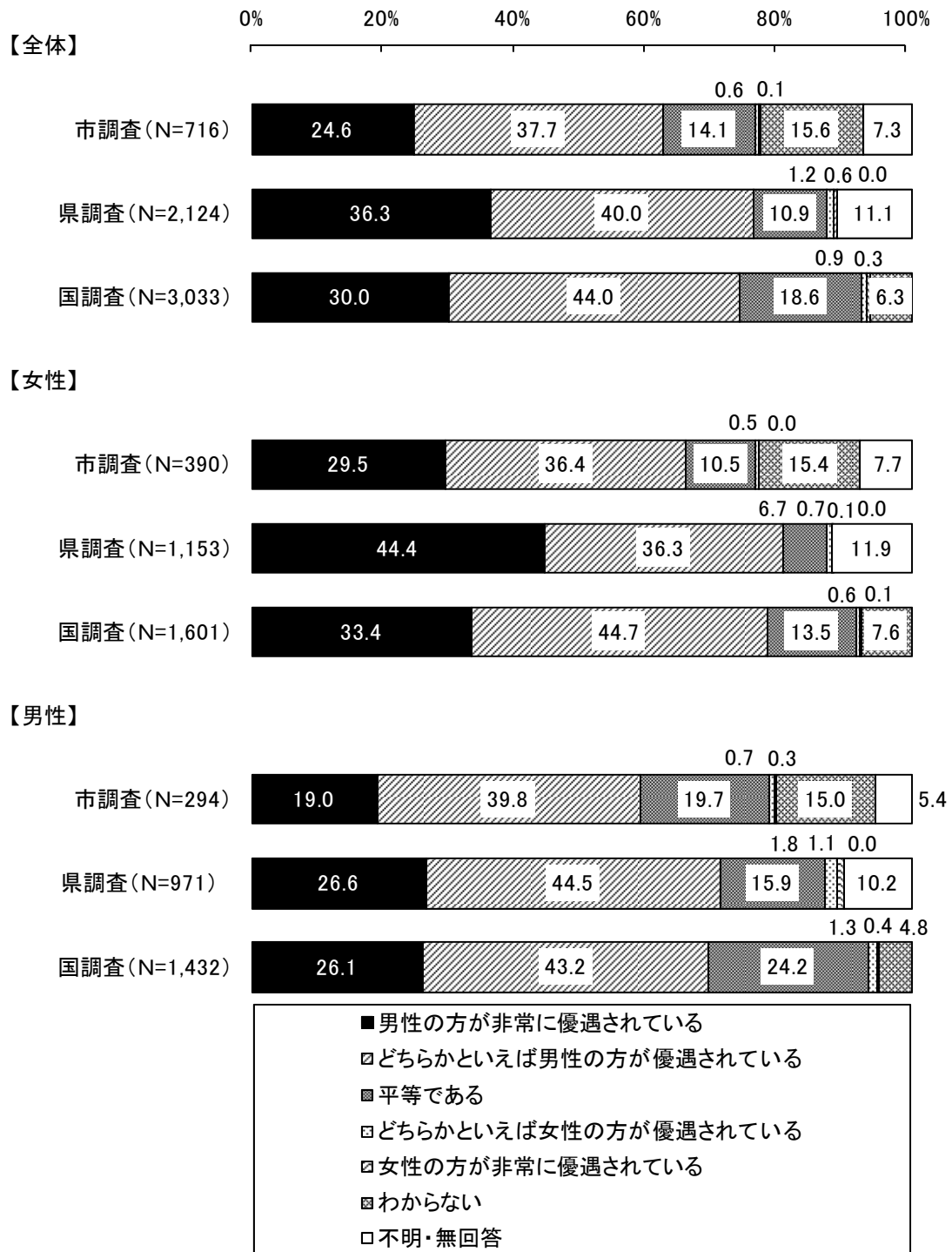
県調査及び国調査との比較

(E) 政治の場

県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は全体、女性及び男性いずれも低くなっており、特に女性で14.9ポイント差となっています。また、全体と男性で『平等』は市調査が低くなっています。

国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』、『平等』は全体、女性及び男性いずれも低くなっており、特に女性で8.3ポイント差となっています。

〈単数回答〉



※国調査は、不明・無回答なし

(F) 法律や制度の上

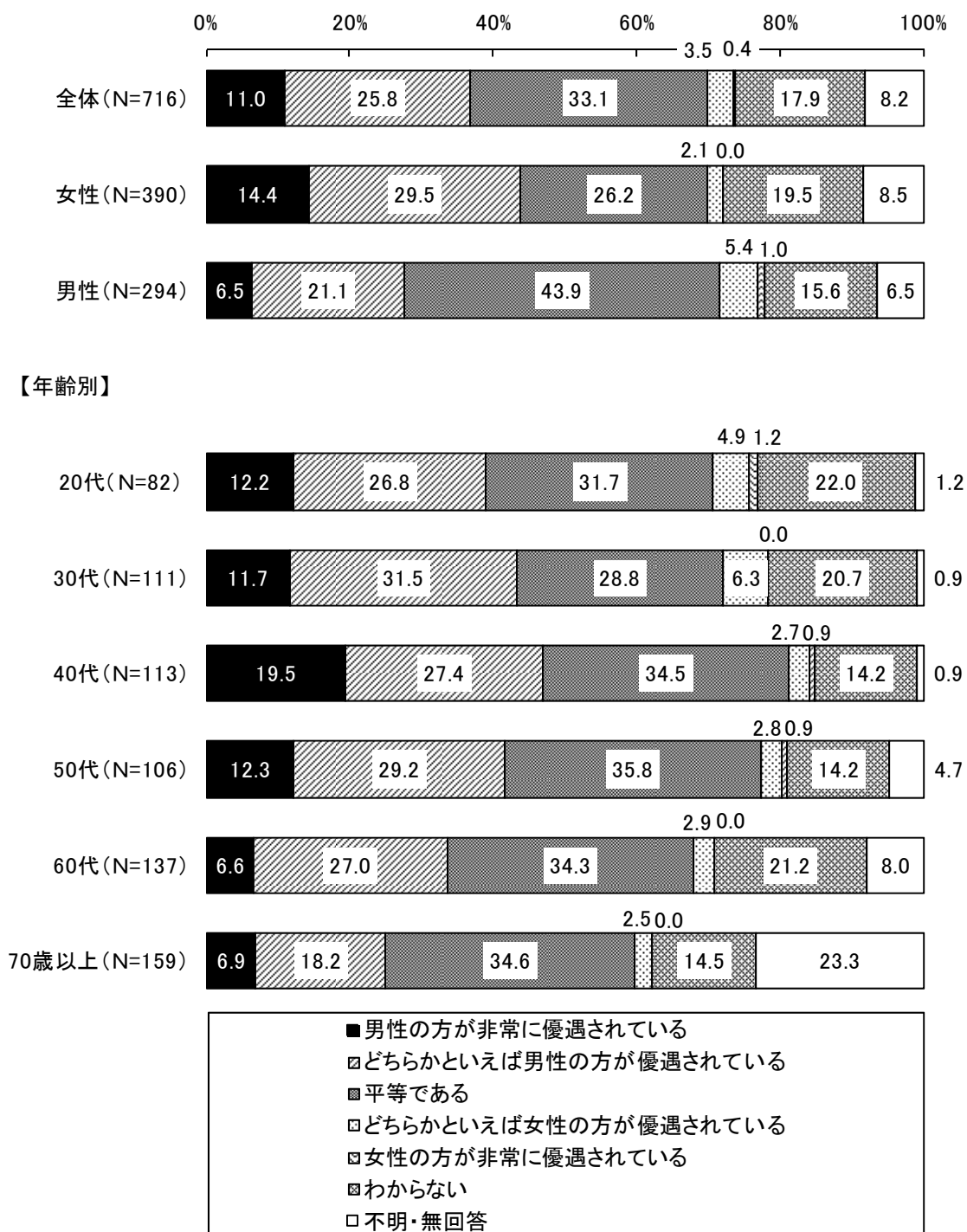
男女の地位が平等になっていると思うか

法律や制度上での地位について、全体では『男性優遇』が36.8%と最も高く、次いで『平等』が33.1%となっています。

男女別では、『男性優遇』が女性で43.9%と最も高く、男性の27.6%を16.3ポイント上回っています。また、『平等』が男性で43.9%と最も高く、女性の26.2%を17.7ポイント上回っています。

年齢別では、40代で『男性優遇』が46.9%と高くなっています。

<単数回答>



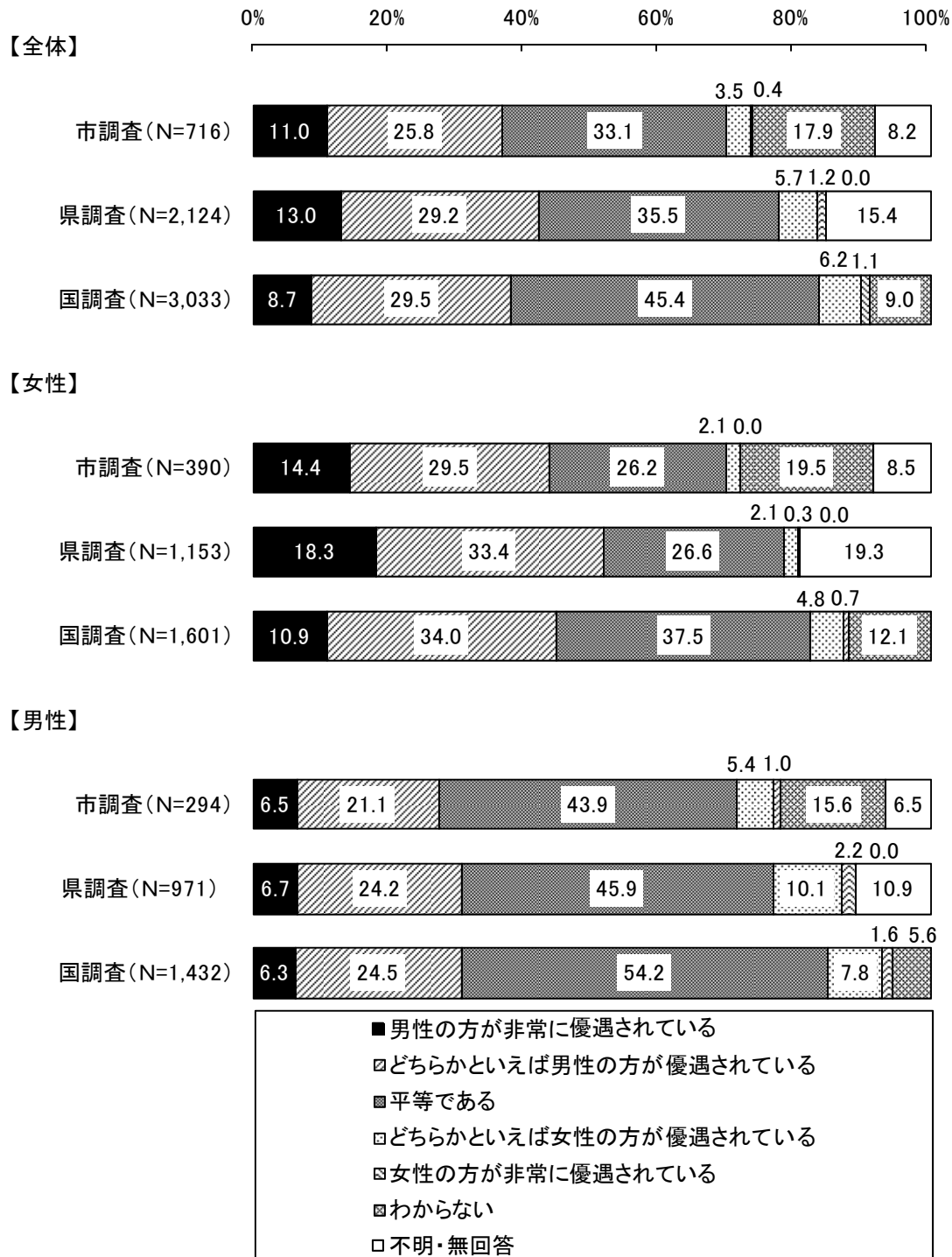
県調査及び国調査との比較

(F) 法律や制度上で

県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』、『平等』は全体、女性及び男性いずれも低くなっています。

国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』、『平等』は全体、女性及び男性いずれも低くなっており、特に全体で12.3ポイント差となっています。

〈単数回答〉



※国調査は、不明・無回答なし

(G) 社会通念・慣習・しきたりなど

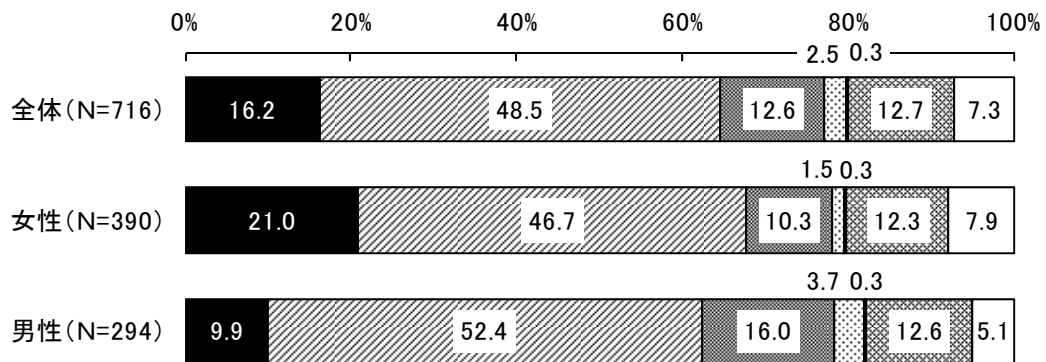
男女の地位が平等になっていると思うか

社会通念・慣習・しきたりなどでの地位について、全体では『男性優遇』が64.7%と最も高くなっています。

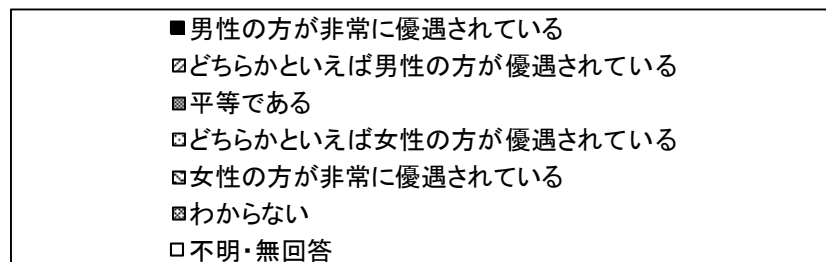
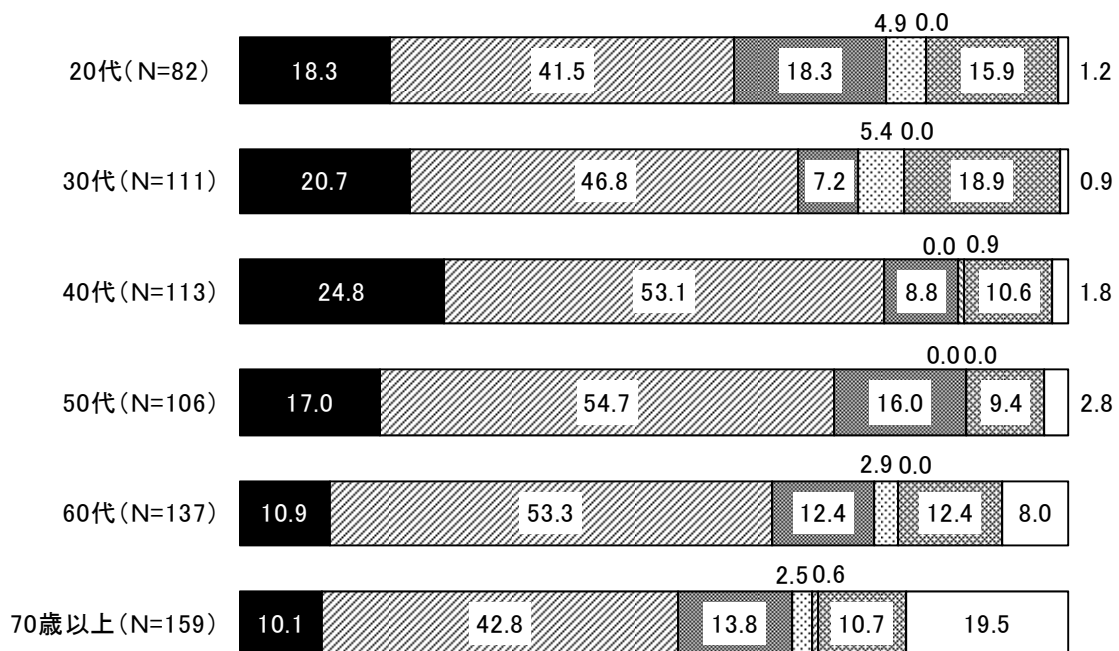
男女別では、男女ともに『男性優遇』が女性で67.7%、男性で62.3%と最も高くなっています。

年齢別では、特に40代で『男性優遇』が77.9%と高くなっています。

〈単数回答〉



【年齢別】



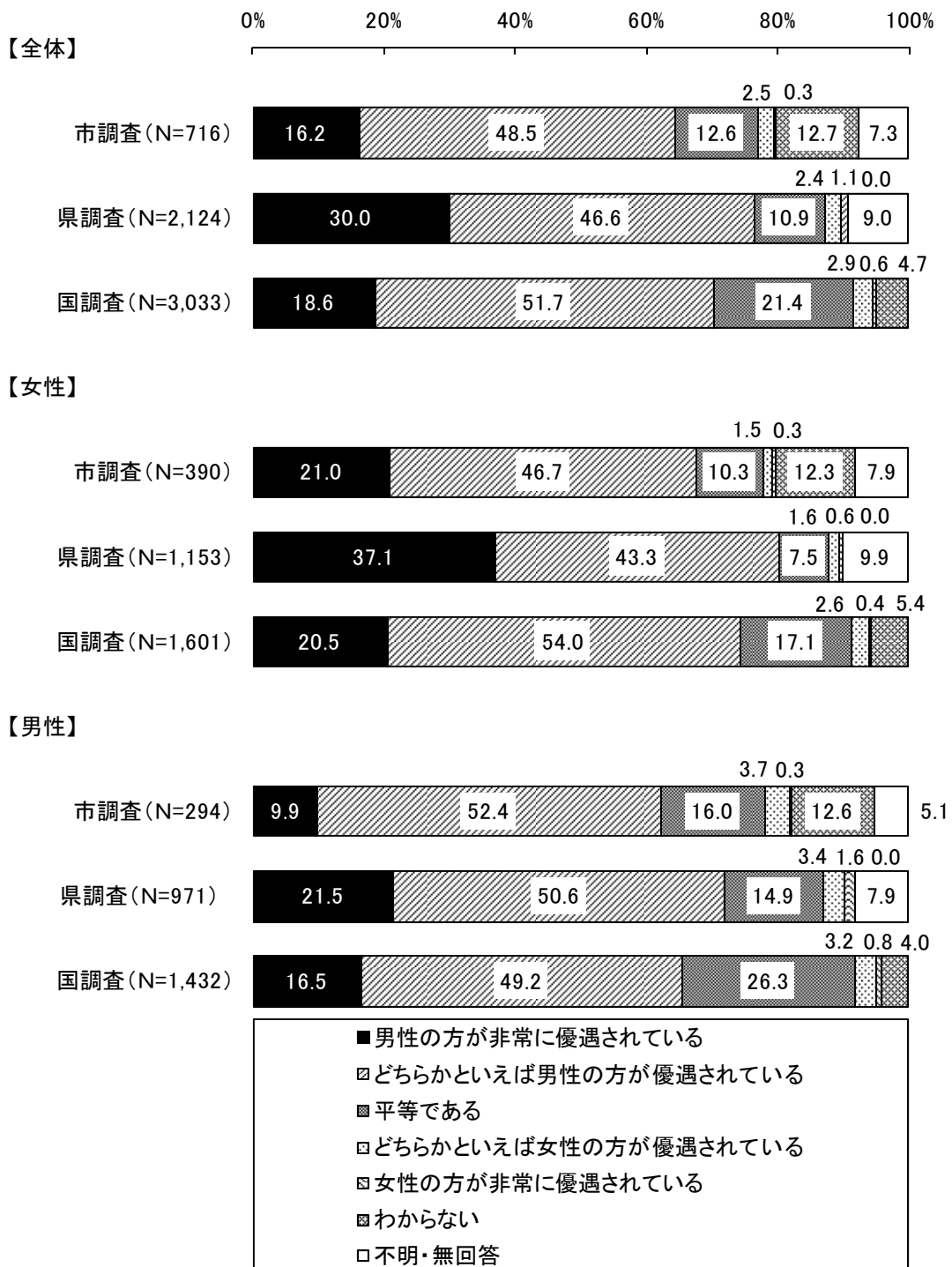
県調査及び国調査との比較

(G) 社会通念・慣習・しきたりなど

県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は全体、女性及び男性いずれも低くなっており、特に女性で12.7ポイント差となっています。一方、全体、女性及び男性いずれも『平等』は市調査が高くなっています。

国調査と比較すると、市調査の『男性優遇』、『平等』は全体、女性及び男性いずれも低くなっています。

〈単数回答〉



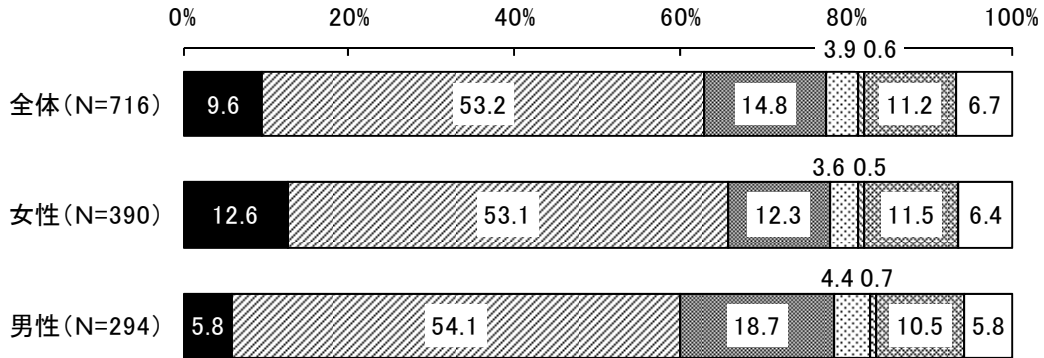
※国調査は、不明・無回答なし

(H) 社会全体として

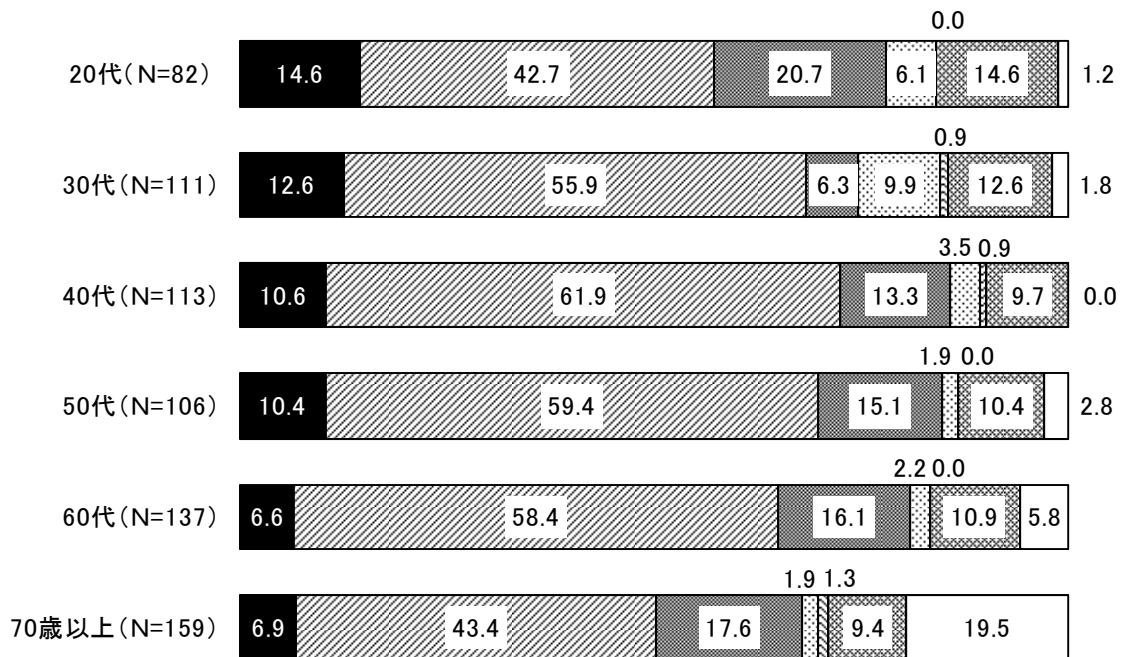
男女の地位が平等になっていると思うか

社会全体としての地位について、全体では『男性優遇』が62.8%と最も高くなっています。
男女別では、男女ともに『男性優遇』が女性で65.7%、男性で59.9%と最も高くなっています。
年齢別では、特に30代で『平等』が低くなっています。

<単数回答>



【年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- ▨ わからない
- 不明・無回答

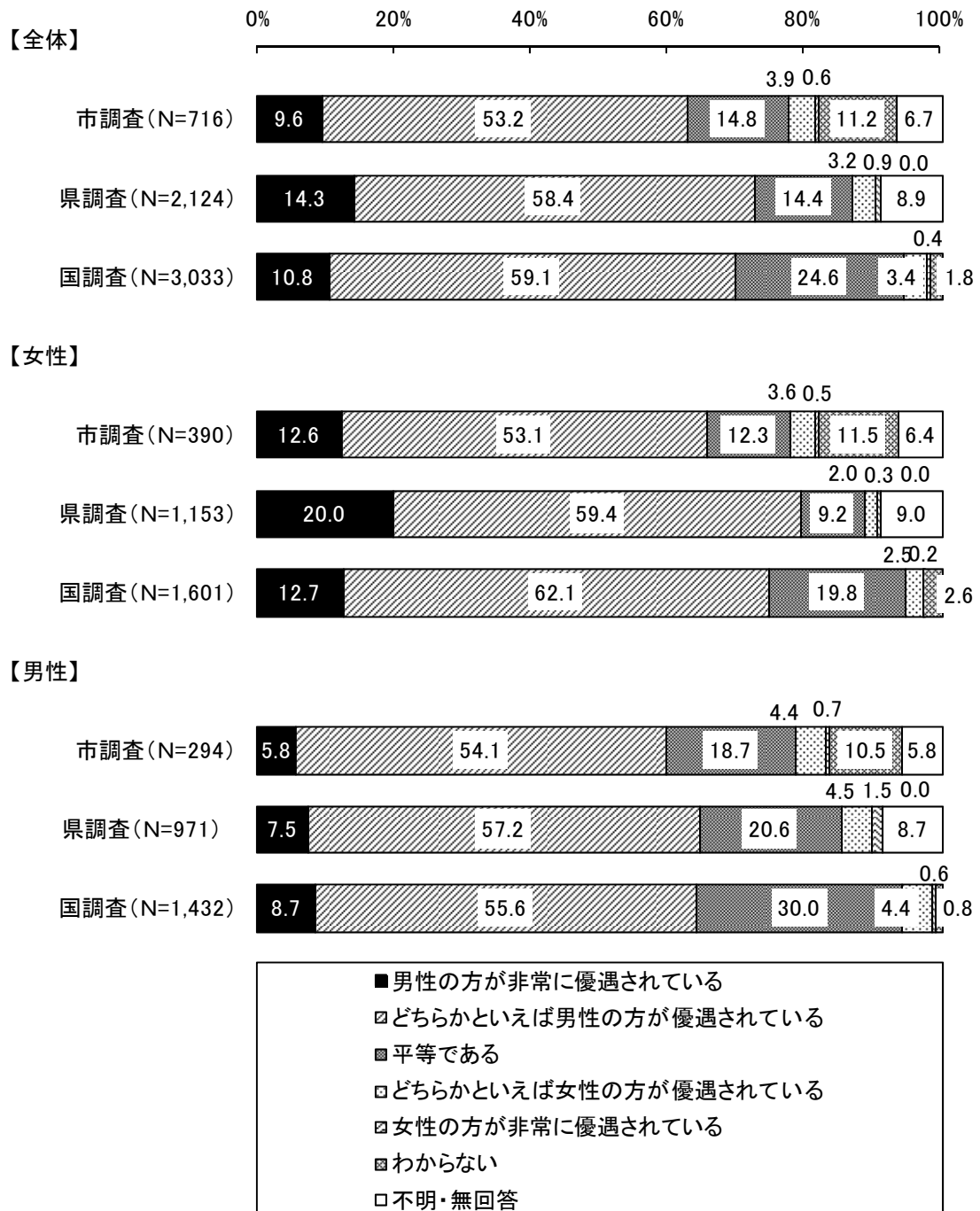
県調査及び国調査との比較

(H) 社会全体として

県調査と比較すると、市調査の『男性優遇』は全体、女性及び男性いずれも低くなっており、特に女性で13.7ポイント差となっています。一方、全体と女性で『平等』は市調査が高くなっています。

国調査と比較すると、国調査の『男性優遇』、『平等』は全体、女性及び男性いずれも低くなっています。

〈単数回答〉



※国調査は、設問なし

3 仕事と家庭生活、地域生活について

【問9 A】あなたは、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方についてどう思いますか。

*『賛成する』 = 「賛成」 + 「どちらかといえば賛成」

*『反対する』 = 「反対」 + 「どちらかといえば反対」

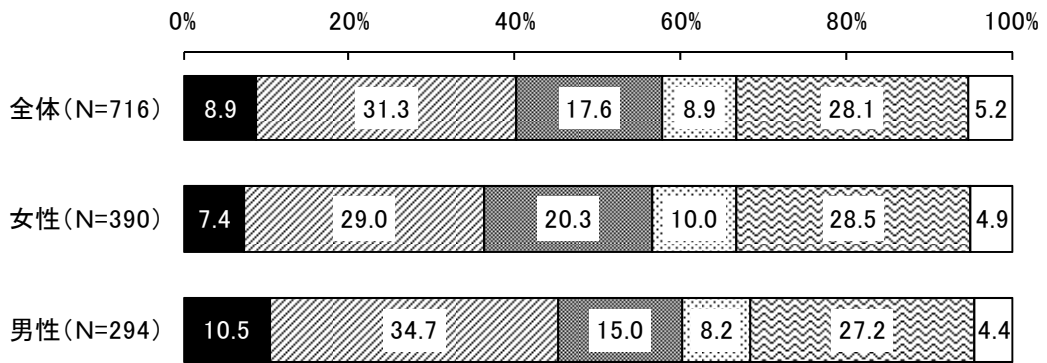
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、全体では『賛成する』が40.2%と『反対する』が26.5%となっています。

男女別では、『賛成する』が男性で45.2%、女性で36.4%と、女性が男性を8.8ポイント上回っており、男女間で認識の差がみられます。

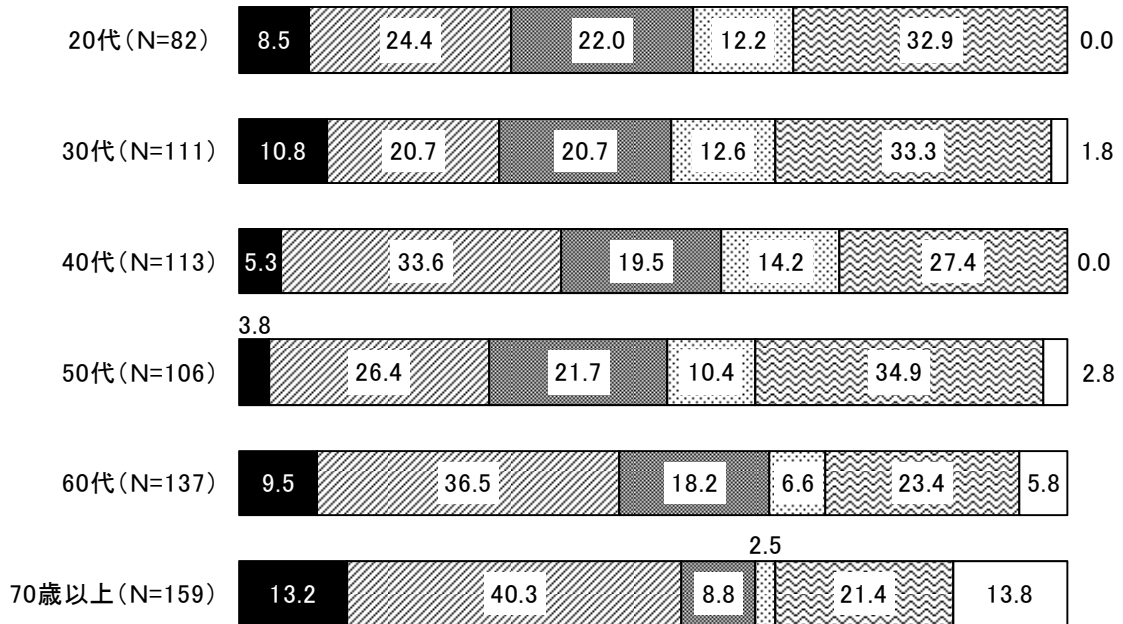
年齢別では、60代、70歳以上の『賛成する』が約半数を占めている一方で、20代から50代では『反対する』が3割前後に留まっています。

〈単数回答〉

※グラフは次ページに掲載



【年齢別】



■ 賛成	▨ どちらかといえば賛成
▩ どちらかといえば反対	□ 反対
▧ どちらともいえない・わからない	□ 不明・無回答

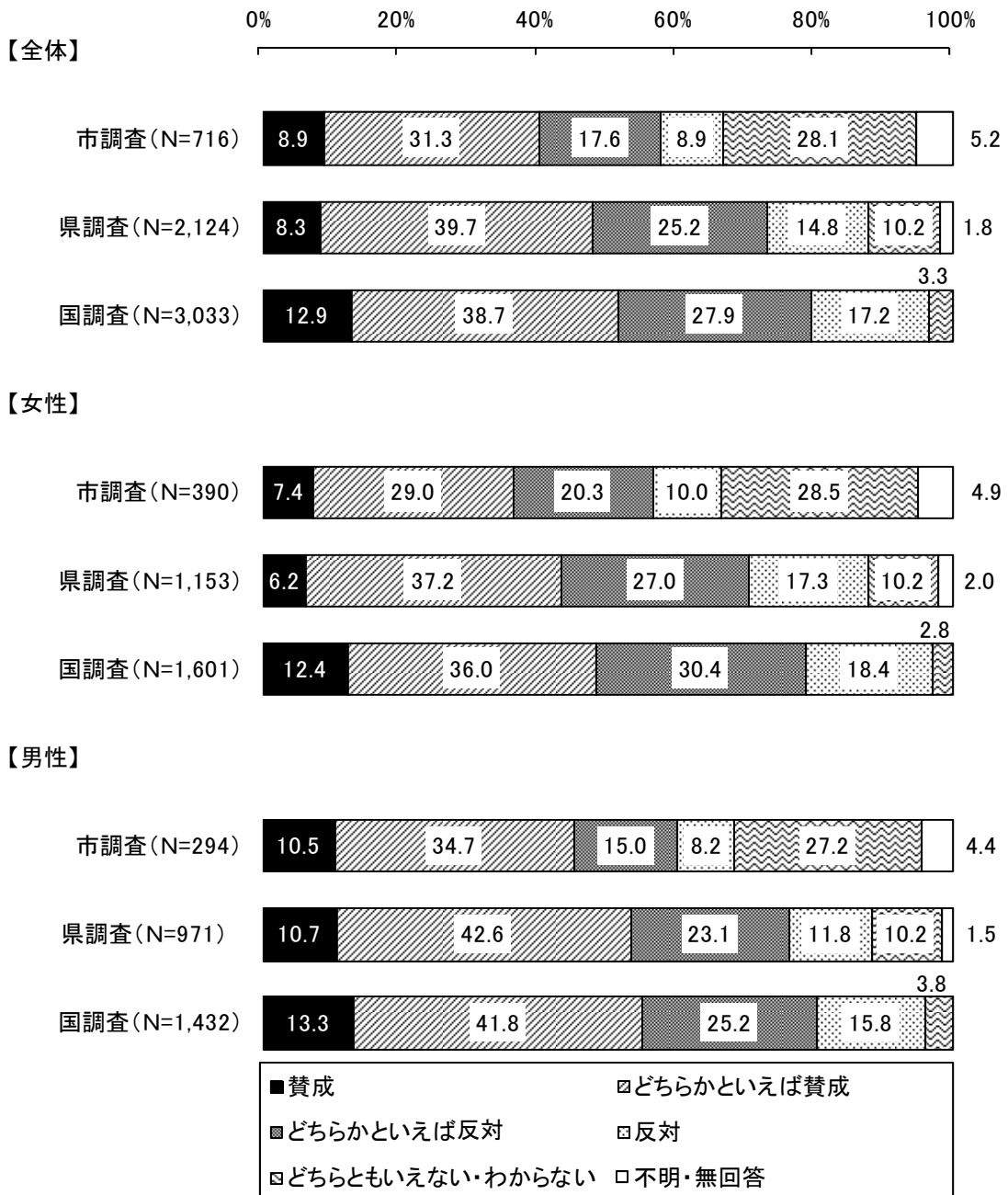
県調査及び国調査との比較

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」

県調査と比較すると、市調査の『賛成する』は全体、女性及び男性いずれも低くなっています。また、全体、女性及び男性いずれも『反対する』は市調査が低くなっており、特に女性で14.0ポイント差になっています。

国調査と比較すると、市調査の『賛成する』は全体、女性及び男性いずれも低くなっており、特に女性で12.0ポイント差になっています。

〈単数回答〉



【問9 B】あなたは、男性はもっと地域活動や家庭生活における活動に参画する必要があるという考え方についてどう思いますか。

*『賛成する』 = 「賛成」 + 「どちらかといえば賛成」

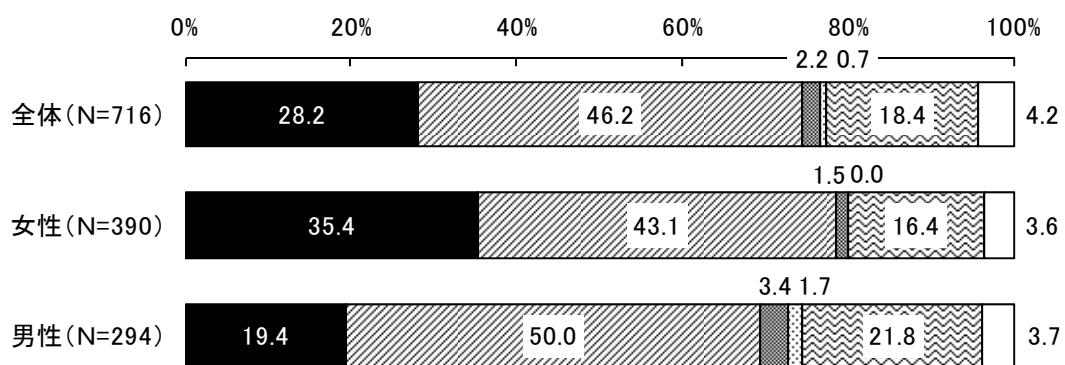
*『反対する』 = 「反対」 + 「どちらかといえば反対」

「男性はもっと地域活動や家庭生活における活動に参画する必要がある」という考え方について、全体では『賛成する』が74.4%、『反対する』が2.9%となっています。

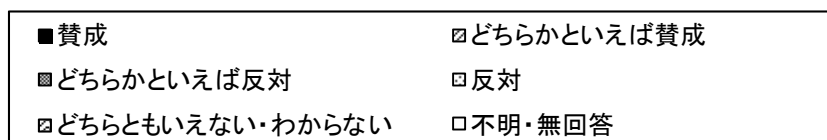
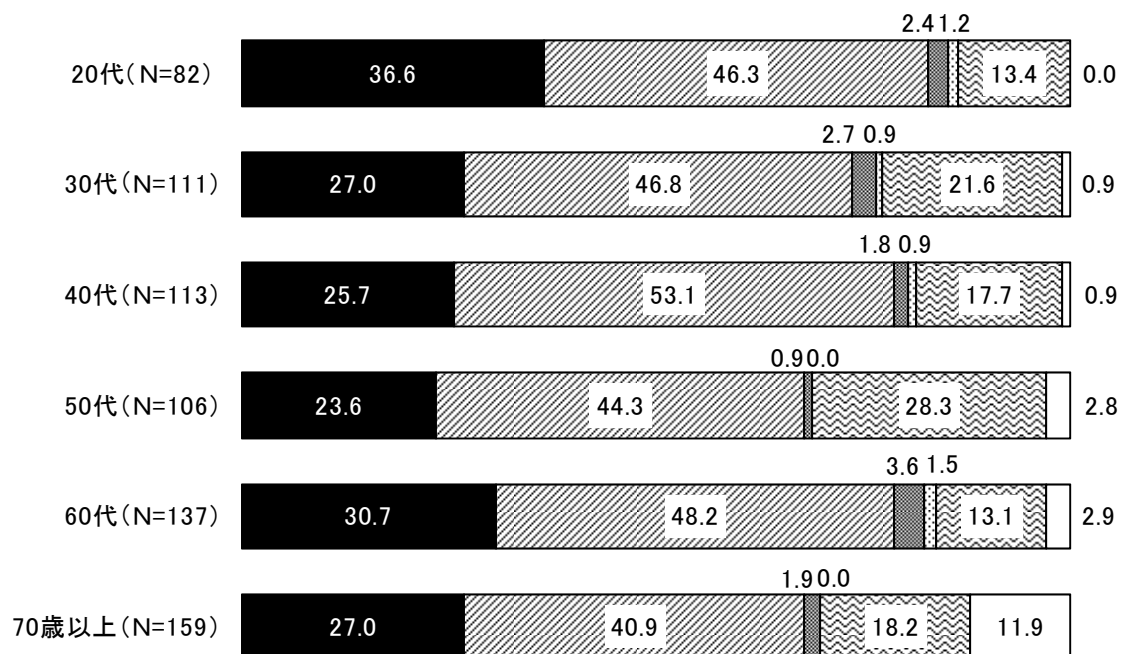
男女別では、『賛成する』が女性で78.5%、男性で69.4%と、女性が男性を9.1ポイント上回っており、男女間で認識の差がみられます。

年齢別では、いずれの年代でも『賛成する』が高く、特に20代では8割を超えています。

〈単数回答〉



【年齢別】



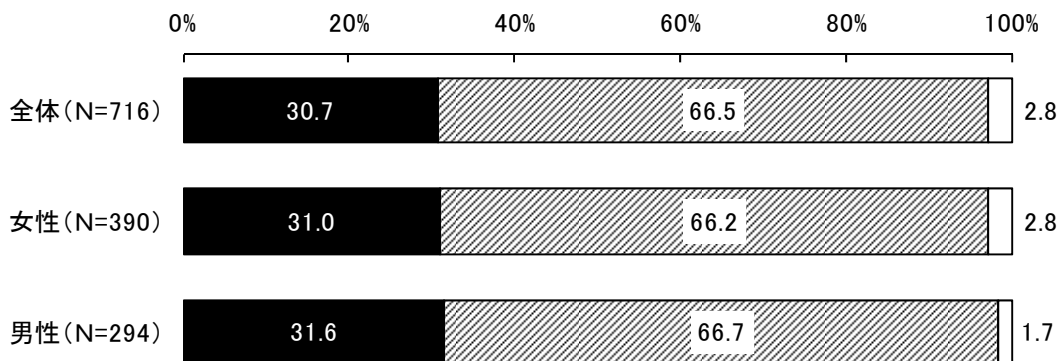
【問 10】 あなたは、地域活動に参加していますか。

地域活動に参加しているかについて、全体では「していない」が66.5%、「している」が30.7%となっています。

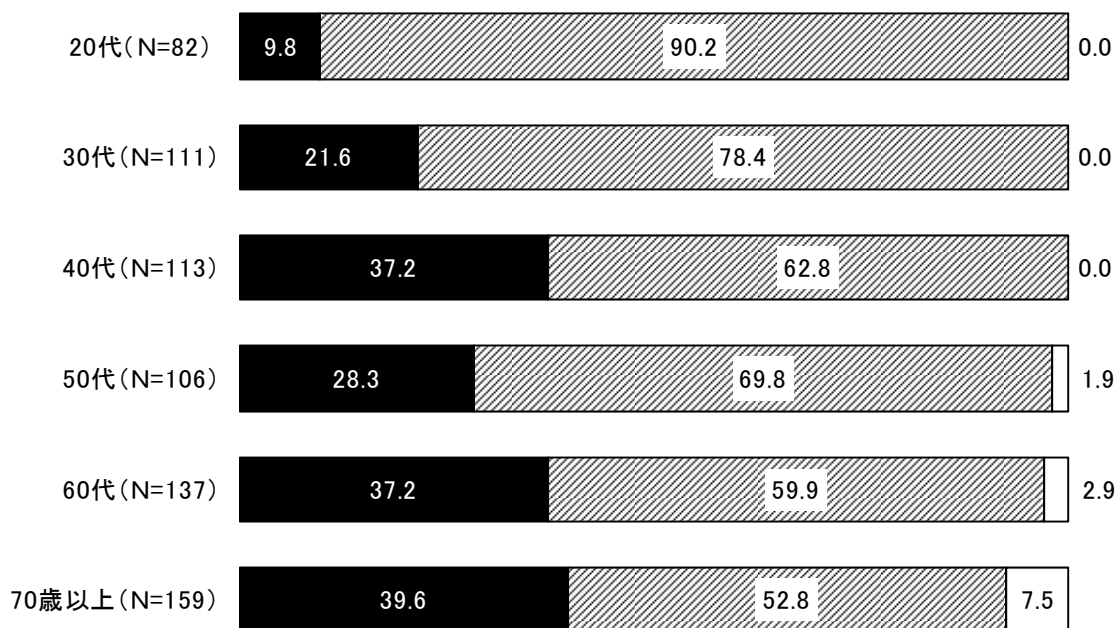
男女別では、「していない」が女性で66.2%、男性で66.7%と性別による差はみられません。

年齢別では、20代で「していない」が90.2%と、他の年代と比較して高くなっています。

〈単数回答〉



【年齢別】



■している ▨していない □不明・無回答

<問 10 で「1 している」と答えた方におたずねします>

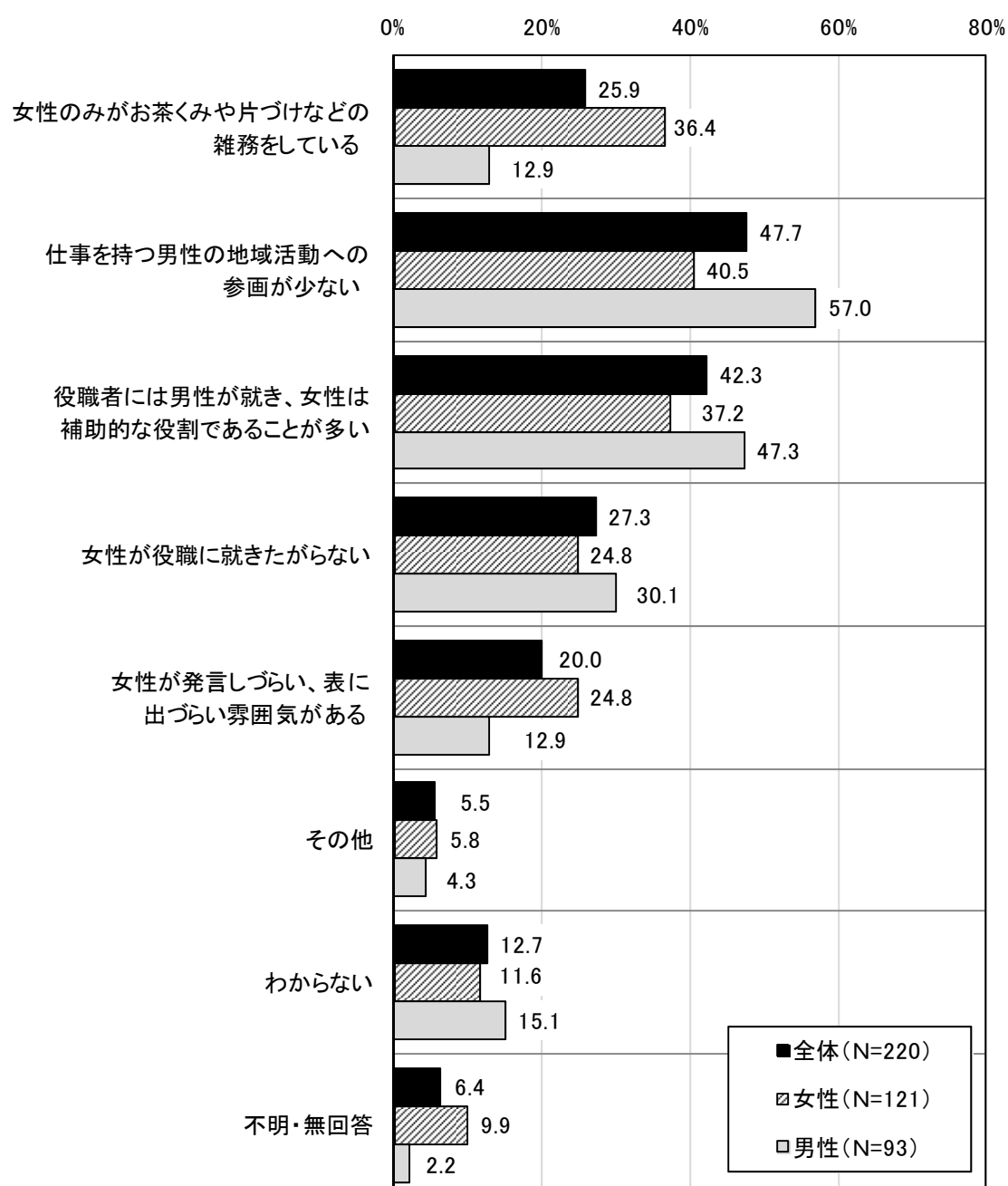
【問 10-1】地域活動の中で、男女が不平等であると感じることはありますか。

地域活動の中で男女が不平等であると感じることはあるかについて、全体では「仕事を持つ男性の地域活動への参画が少ない」が47.7%と高くなっています。

男女別では、男女ともに「仕事を持つ男性の地域活動への参画が少ない」が最も高くなっています。男女差に着目すると、女性では「女性のみがお茶くみや片づけなどの雑務をしている」で23.5ポイント差、男性では「仕事を持つ男性の地域活動への参画が少ない」で16.5ポイント差と、それぞれ顕著な差があらわれています。

年齢別では、30代から50代で「仕事を持つ男性の地域活動への参画が少ない」が4割を超えており、特に50代で56.7%と高くなっています。

<複数回答>



■問10-1のクロス集計（年齢別）

単位：%

	女性のみがお茶くみや片づけなどの雑務をしている	仕事を持つ男性の地域活動への参加が少ない	役職者には男性が就き、女性は補助的な役割であることが多い	女性が役職に就きたがらない	女性が発言しづらい、表に出づらい雰囲気がある	その他	わからない	不明・無回答
【年齢別】								
20代(N=8)	12.5	25.0	37.5	12.5	12.5	-	37.5	-
30代(N=24)	29.2	45.8	20.8	12.5	8.3	12.5	20.8	4.2
40代(N=42)	31.0	42.9	40.5	19.0	21.4	7.1	7.1	11.9
50代(N=30)	36.7	56.7	30.0	26.7	23.3	3.3	10.0	10.0
60代(N=51)	19.6	47.1	52.9	39.2	13.7	2.0	15.7	2.0
70歳以上(N=63)	23.8	52.4	49.2	31.7	27.0	6.3	7.9	6.3

<問 10 で「2 していない」と答えた方におたずねします>

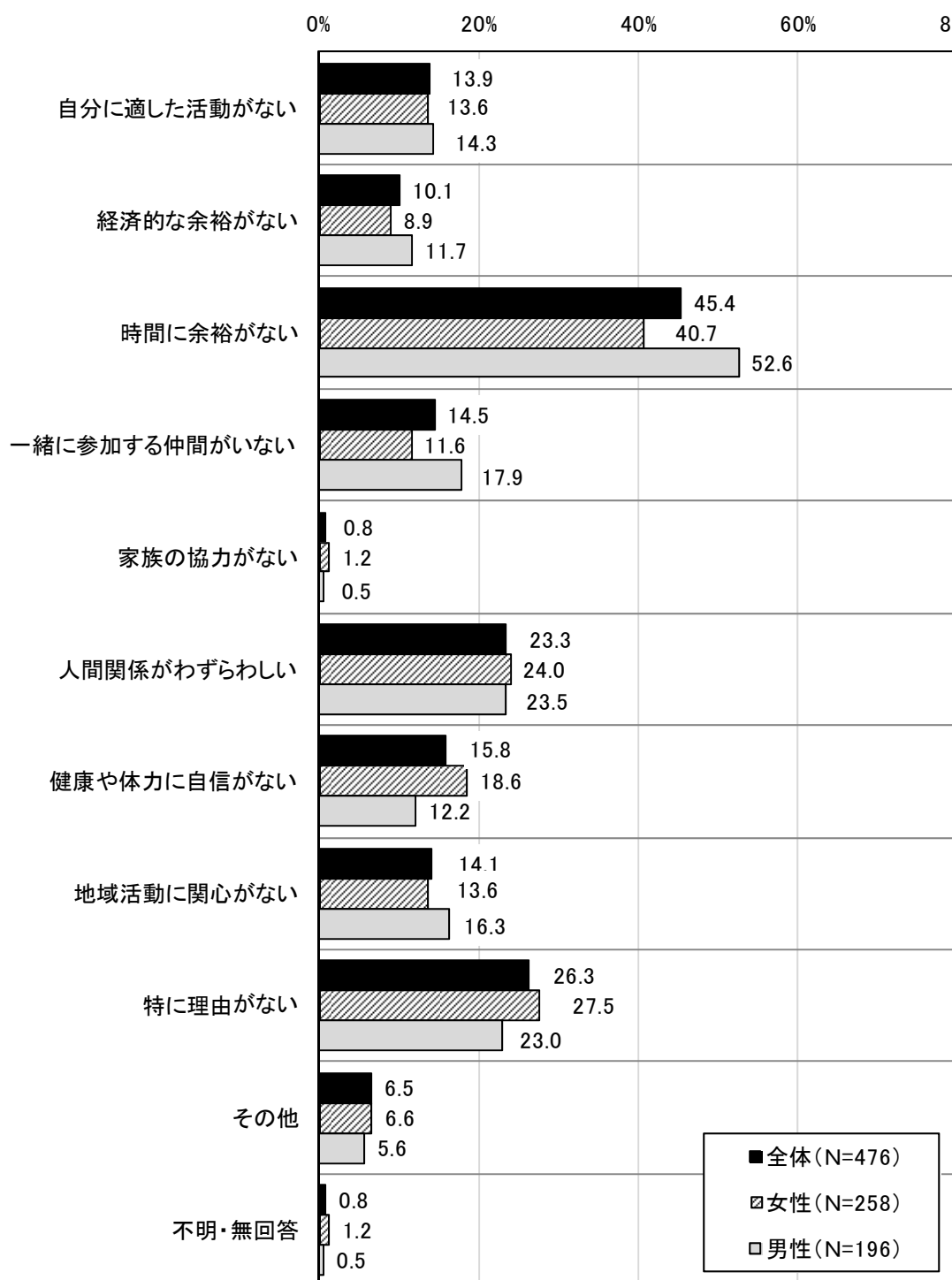
【問 10-2】地域活動に参加していない理由は何ですか。

地域活動に参加していない理由について、全体では「時間に余裕がない」が45.4%と高くなっています。

男女別では、男女ともに「時間に余裕がない」が女性で40.7%、男性で52.6%と最も高くなっており、男性が女性を11.9ポイント上回っています。

年齢別では、20代から50代で「時間に余裕がない」が5割を超えており、特に30代、40代で高くなっています。

<複数回答>



■問 10-2 のクロス集計 (年齢別)

単位: %

	自分に適した活動がない	経済的な余裕がない	時間に余裕がない	一緒に参加する仲間がない	家族の協力ががない	人間関係がわずらわしい	健康や体力に自信がない
【年齢別】							
20代(N=74)	16.2	13.5	52.7	21.6	-	14.9	1.4
30代(N=87)	8.0	14.9	56.3	17.2	-	19.5	5.7
40代(N=71)	16.9	11.3	57.7	9.9	-	19.7	5.6
50代(N=74)	13.5	8.1	52.7	14.9	-	29.7	9.5
60代(N=82)	15.9	4.9	36.6	13.4	2.4	41.5	20.7
70歳以上(N=84)	14.3	7.1	19.0	10.7	2.4	13.1	47.6

	地域活動に関心がない	特に理由がない	その他	不明・無回答
【年齢別】				
20代(N=74)	21.6	32.4	8.1	-
30代(N=87)	12.6	23.0	11.5	1.1
40代(N=71)	19.7	25.4	5.6	-
50代(N=74)	14.9	24.3	2.7	1.4
60代(N=82)	13.4	28.0	4.9	-
70歳以上(N=84)	4.8	26.2	6.0	2.4

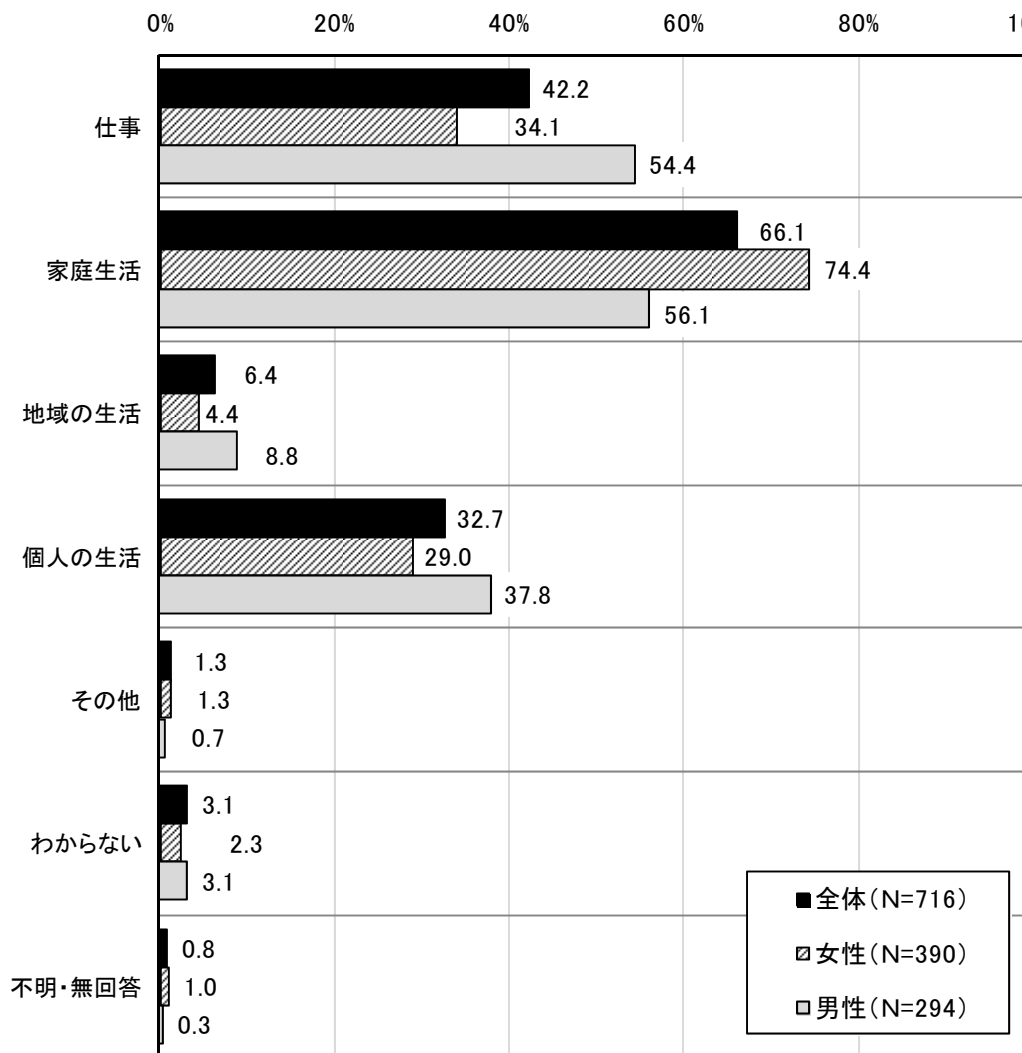
【問 11】 あなたの生活の中で、実際に優先しているものは次のどれですか。

実際に優先しているものについて、全体では「家庭生活」が66.1%と高くなっています。

男女別では、男女ともに「家庭生活」が最も高くなっている一方、女性で74.4%、男性で56.1%と、女性が男性を18.3ポイント上回っています。また「仕事」では、女性で34.1%、男性で54.4%と、男性が女性を20.3ポイント上回っています。

年齢別では、30代以上で「家庭生活」が6割を超えており、特に40代、60代で高くなっています。

〈複数回答〉



■問 11 のクロス集計（年齢別）

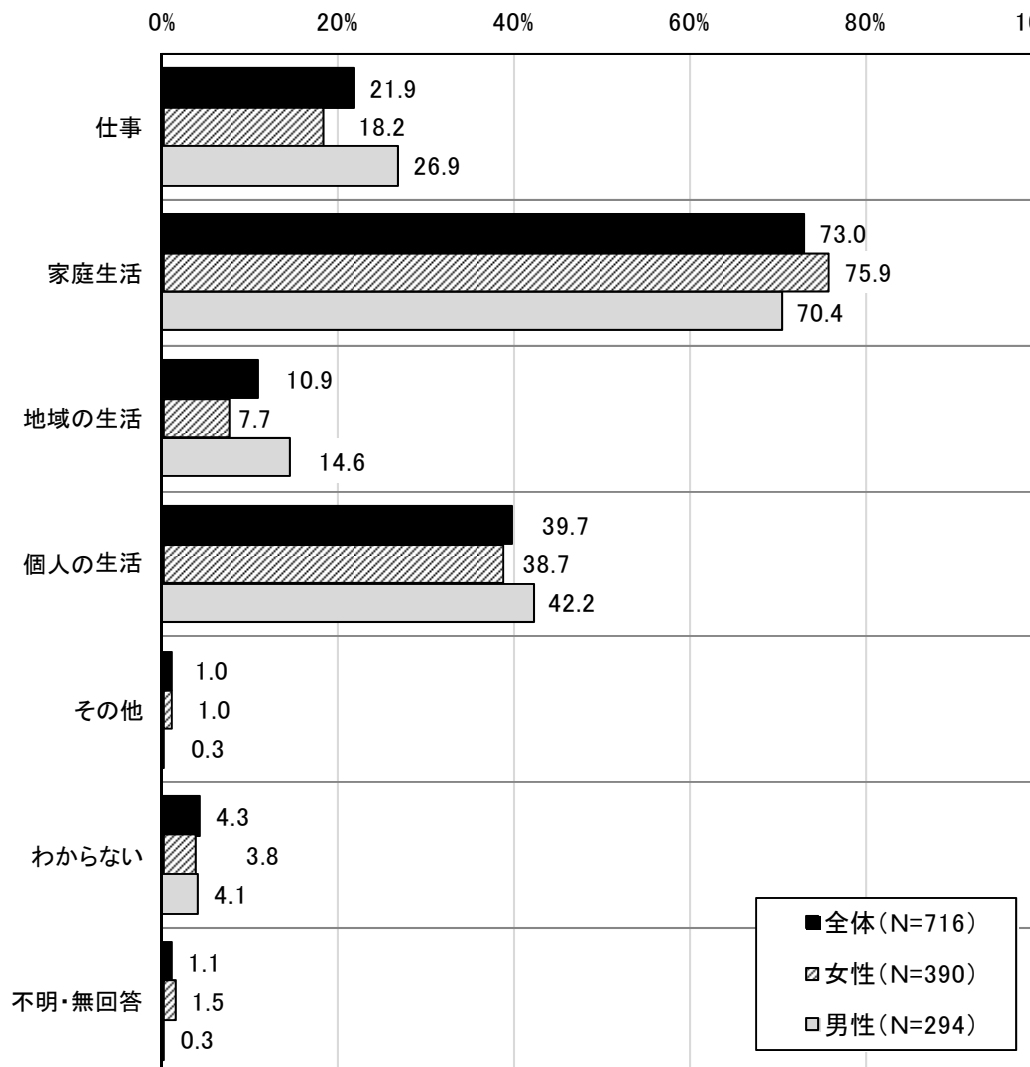
単位：%

	仕事	家庭生活	地域の生活	個人の生活	その他	わからない	不明・無回答
【年齢別】							
20代(N=82)	53.7	36.6	1.2	47.6	2.4	2.4	-
30代(N=111)	46.8	67.6	2.7	25.2	-	4.5	-
40代(N=113)	64.6	77.9	1.8	20.4	-	-	-
50代(N=106)	58.5	63.2	0.9	30.2	-	5.7	-
60代(N=137)	32.8	73.0	10.9	39.4	2.2	0.7	0.7
70歳以上(N=159)	16.4	67.9	15.1	34.6	2.5	4.4	2.5

【問 12】 あなたの生活の中で、理想として優先したいものは次のどれですか。

理想として優先したいものについて、全体では「家庭生活」が73.0%と最も高くなっています。
男女別では、男女ともに「家庭生活」が最も高くなっています。

〈複数回答〉



現実と理想との比較

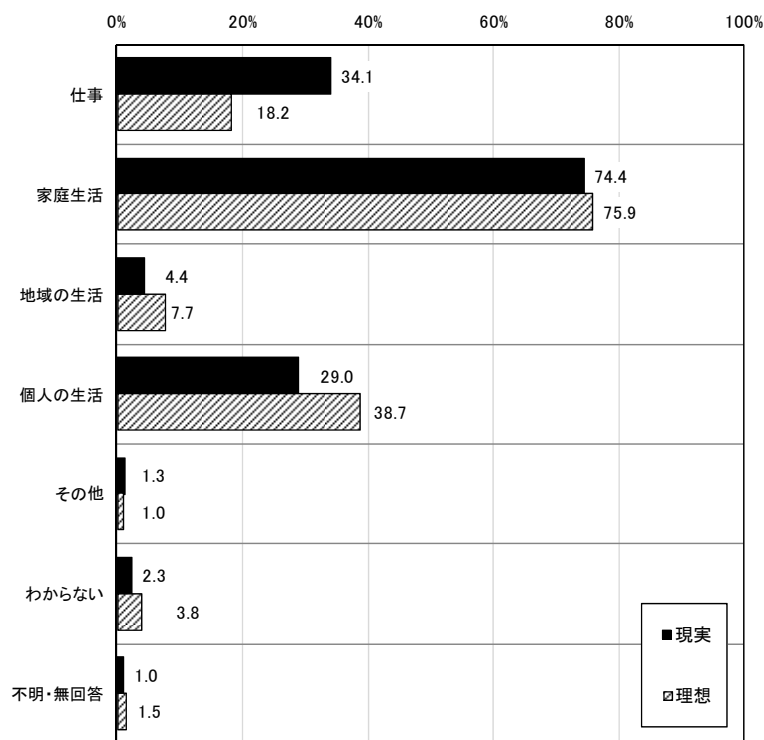
生活の中で優先したいもの

現実と理想を比較すると、女性では「仕事」で現実が理想を15.9ポイント上回っている一方、「個人の生活」では理想が現実を9.7ポイント上回っています。また、「家庭生活」では理想・現実ともに高くなっています。

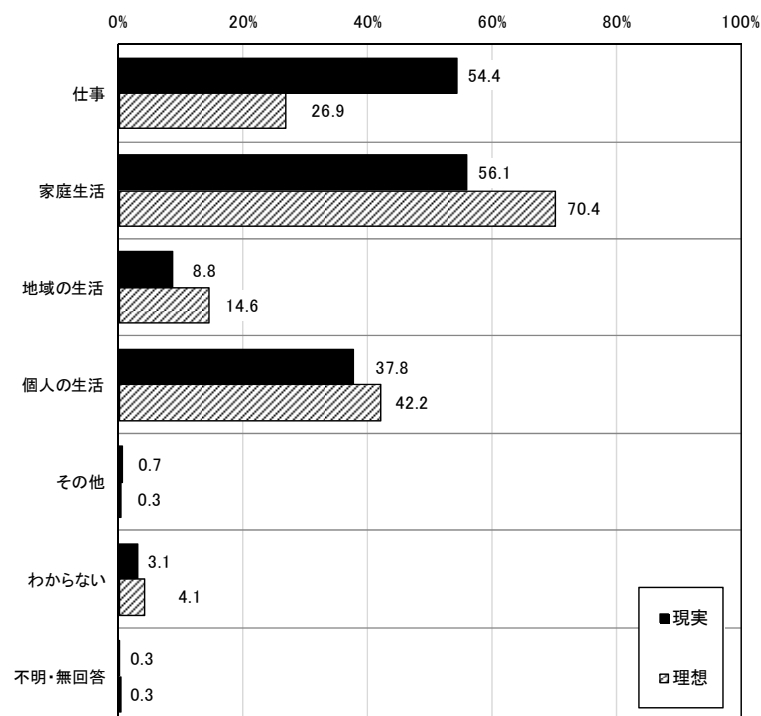
男性では、「仕事」で現実が理想を27.5ポイントと大きく上回っている一方、「家庭生活」では理想が現実を14.3ポイント上回っています。

<複数回答>

【女性】



【男性】



【問 13】 次にあげる、仕事と家庭生活を両立するための制度を知っていますか。

(A) 育児休業制度

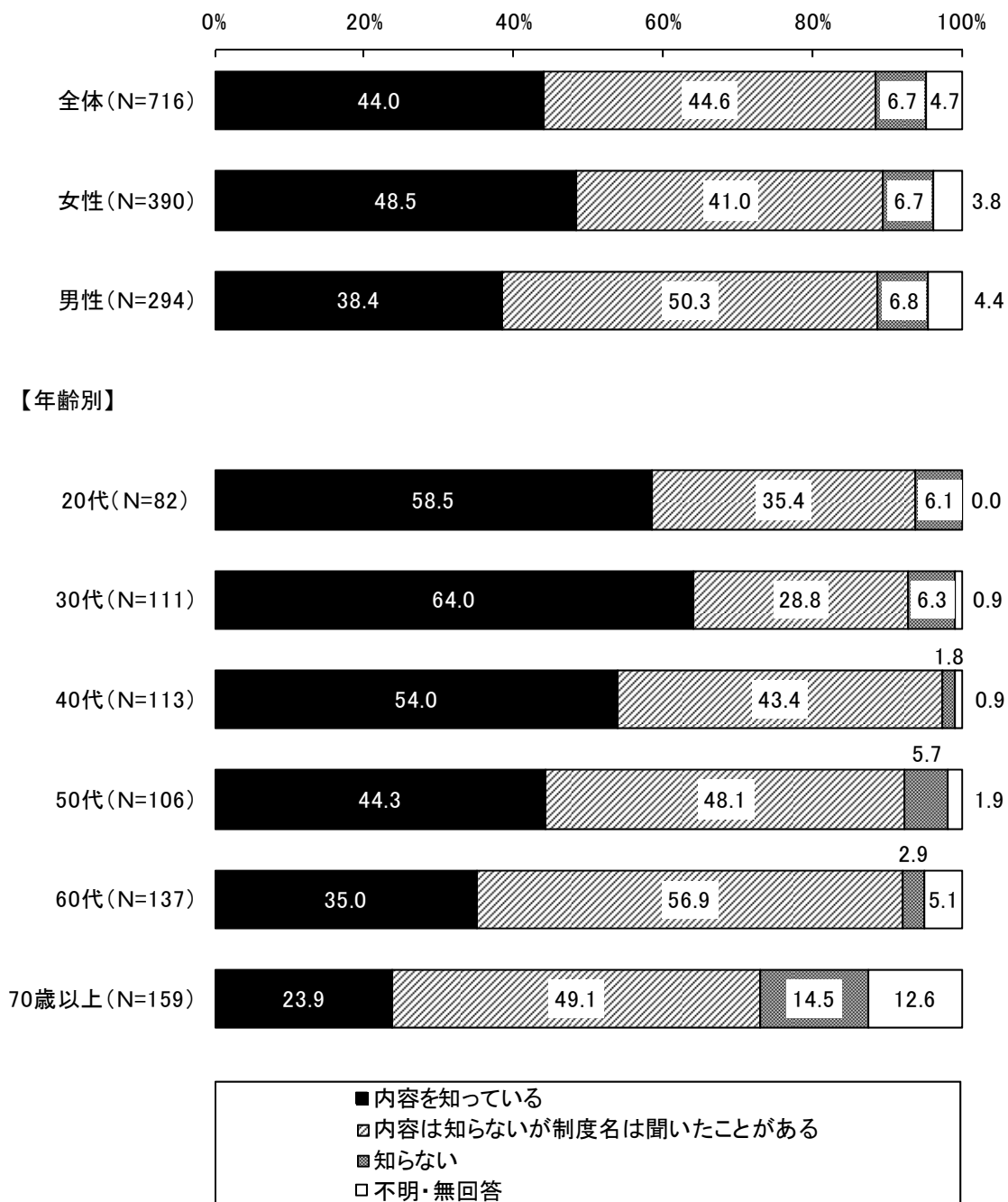
仕事と家庭生活を両立するための制度

育児休業制度について、全体では「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」が 44.6%と最も高く、次いで「内容を知っている」が 44.0%となっています。

男女別では、「内容を知っている」が女性で 48.5%と、男性の 38.4%を 10.1 ポイント上回っています。

年齢別では、特に 30 代で「内容を知っている」が 64.0%と高くなっています。

〈単数回答〉



(B) 子の看護休暇制度

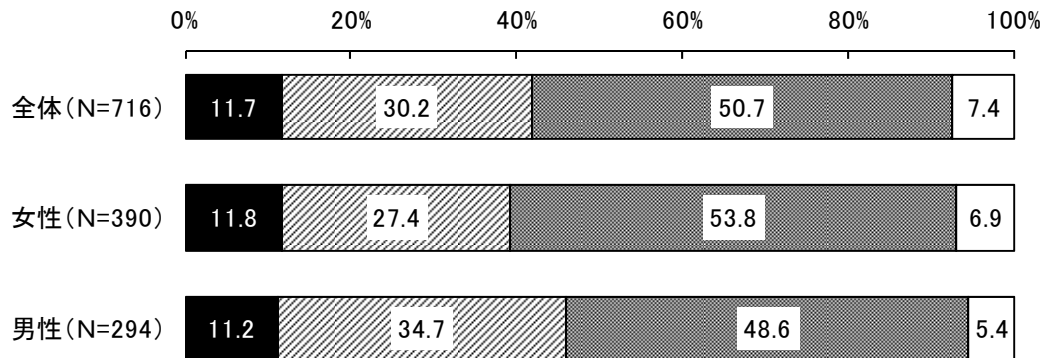
仕事と家庭生活を両立するための制度

子の看護休暇制度について、全体では「知らない」が50.7%と最も高くなっています。

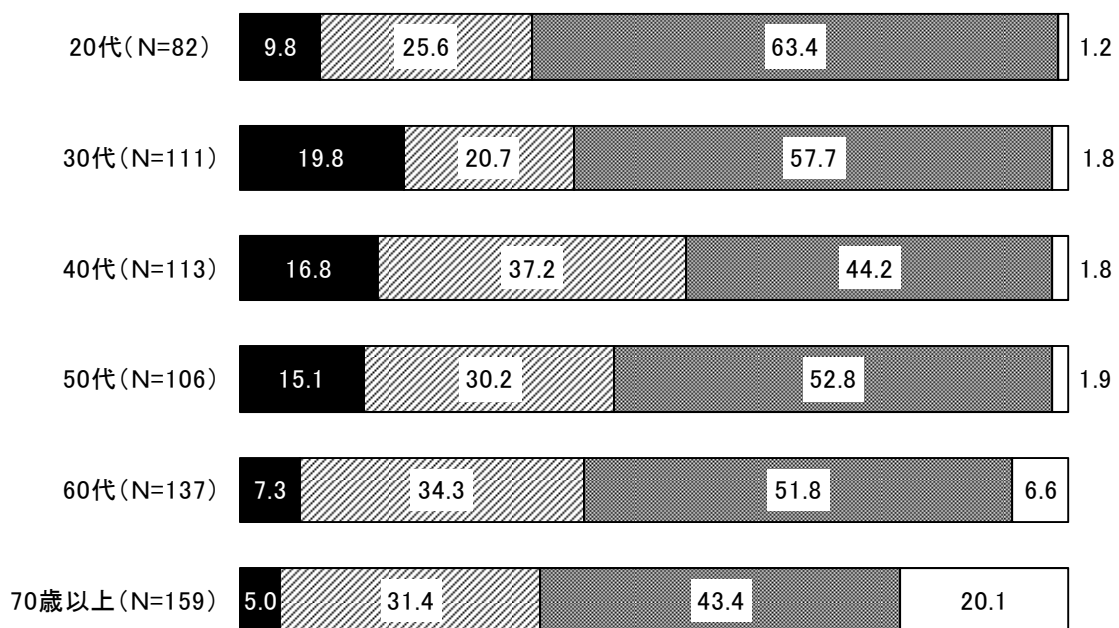
男女別では、「知らない」が女性で53.8%、男性で48.6%と高くなっています。

年齢別では、特に20代で「知らない」が63.4%と高くなっています。

<単数回答>



【年齢別】



- 内容を知っている
- ▨ 内容は知らないが制度名は聞いたことがある
- 知らない
- 不明・無回答

(C) 介護休業制度

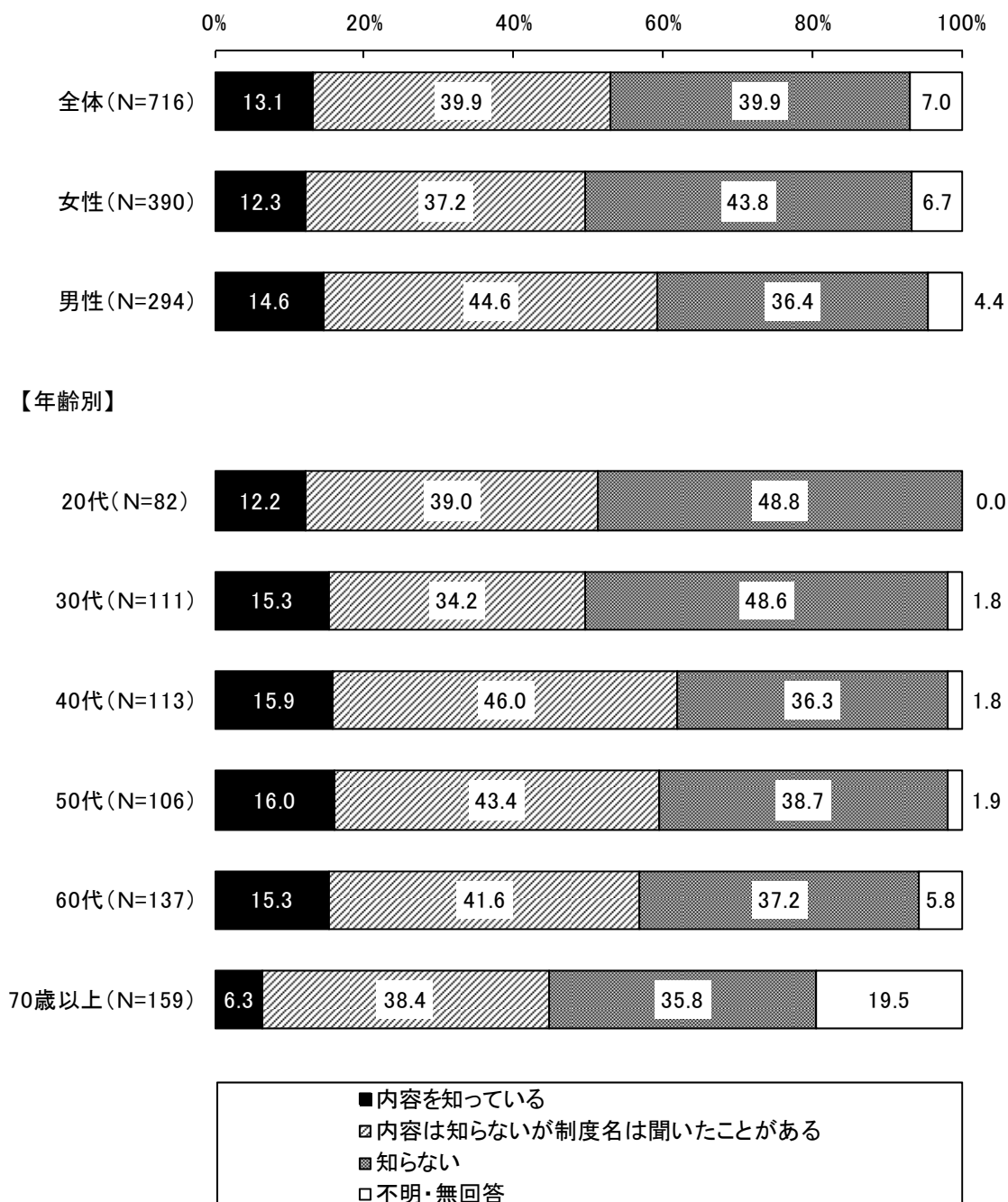
仕事と家庭生活を両立するための制度

介護休業制度について、全体では「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」「知らない」がそれぞれ39.9%となっています。

男女別では、「知らない」が女性で43.8%、「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」が男性で44.6%と最も高くなっています。

年齢別では、特に20代、30代で「知らない」が5割近くと高くなっています。

〈単数回答〉



(D) 介護休暇制度

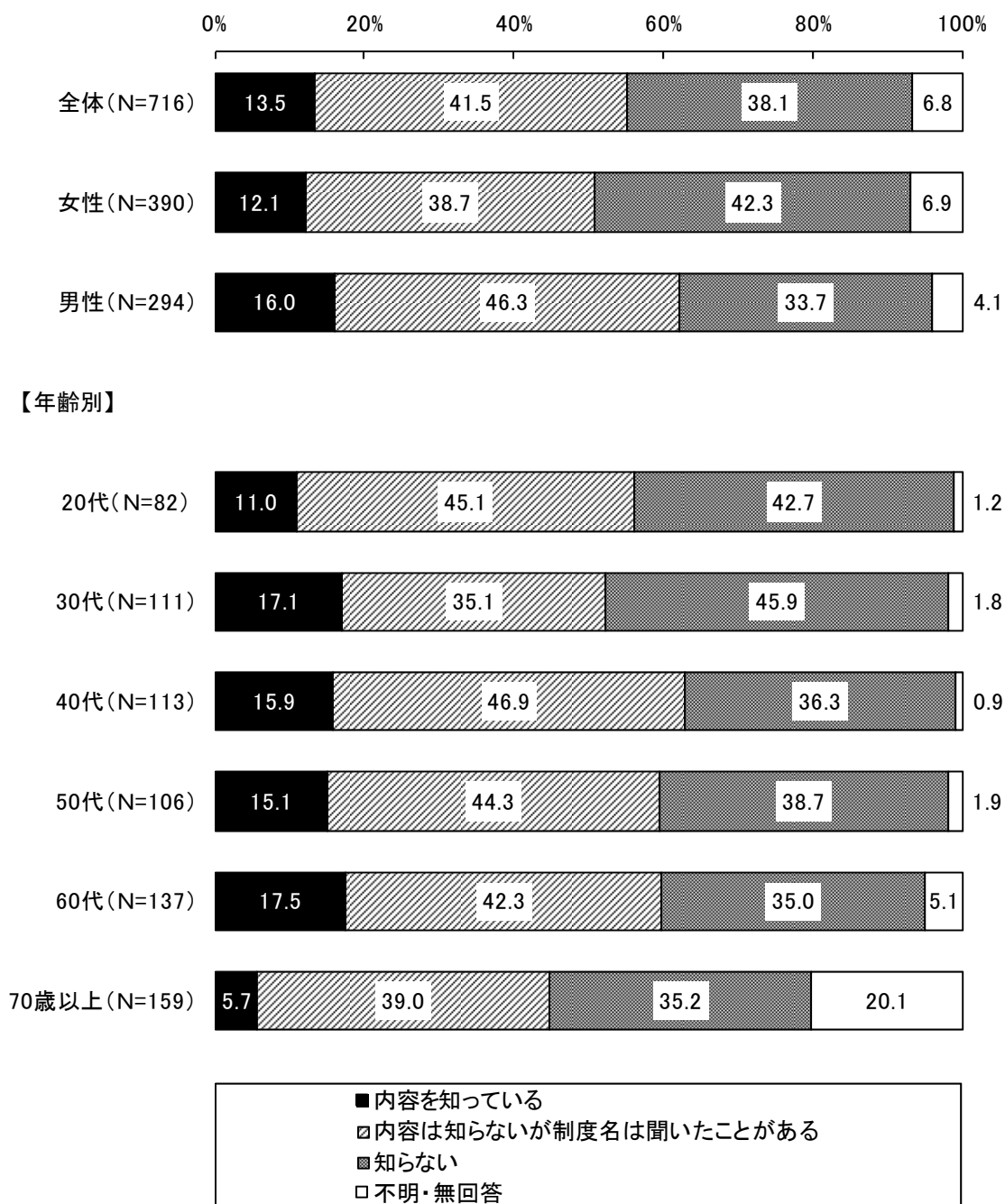
仕事と家庭生活を両立するための制度

介護休暇制度について、全体では「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」が41.5%と最も高く、次いで「知らない」が38.1%となっています。

男女別では、「知らない」が女性で42.3%、「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」が男性で46.3%と最も高くなっています。

年齢別では、特に40代で「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」が46.9%と高くなっています。一方、20代、30代では「知らない」がそれぞれ42.7%、45.9%と高くなっています。

〈単数回答〉



<問3で「1」~「5」と答えた方(現在働いている方)におたずねします>

【問 14】あなたは、職場で以下のような制度を使って休暇等を取ったことがありますか。

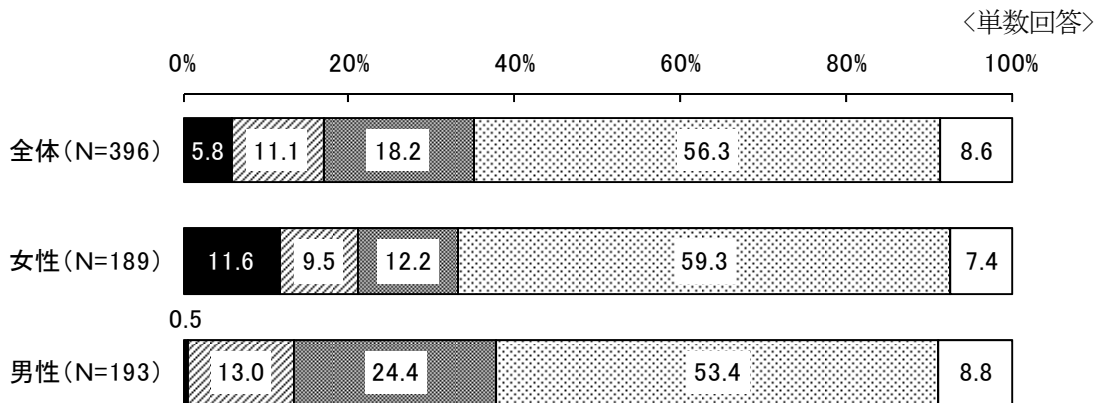
(A) 育児休業(育児のために一定期間休業できる制度)

制度を使って休暇等を取ったことがあるか

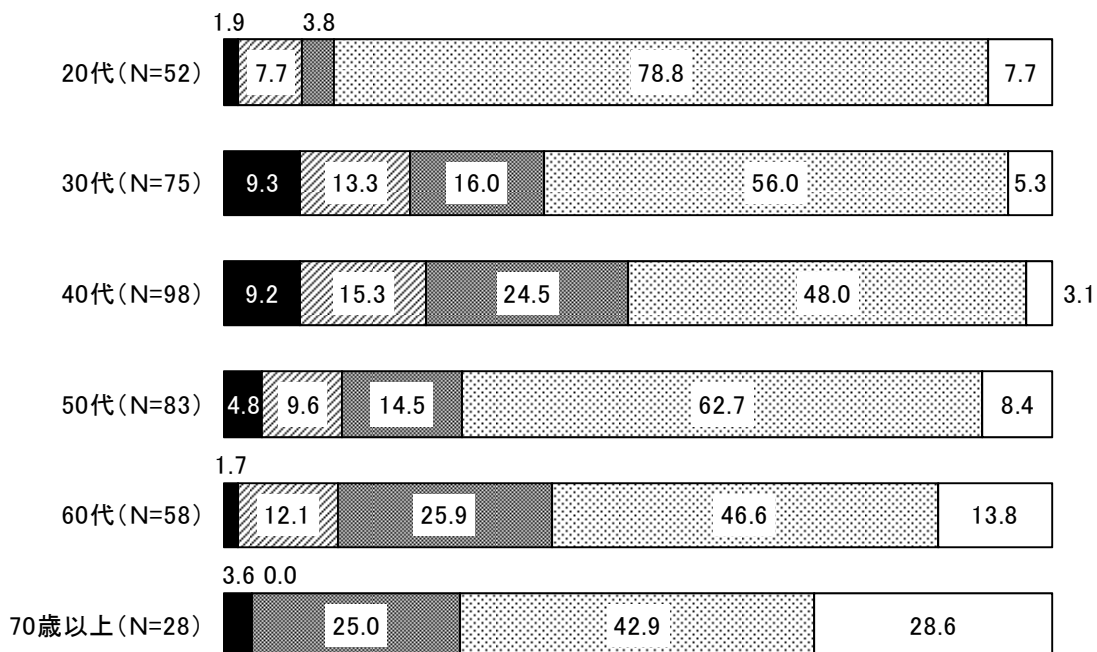
育児休業について、全体では「取ったことがある」が5.8%、「取りたかったが、取ったことはない」が11.1%となっています。

男女別では、「取ったことがある」が女性で11.6%と男性の0.5%を11.1ポイント上回っています。

年齢別では、特に30代、40代で「取ったことがある」「取りたかったが、取ったことはない」が高くなっています。



【年齢別】



取ったことがある 取りたかったが、取ったことはない
 取る希望がなく、取ったことはない 今まで必要となったことがない
 不明・無回答

(B) 子の看護休暇（病気等の子どもを看護するための年5日程度の休暇）

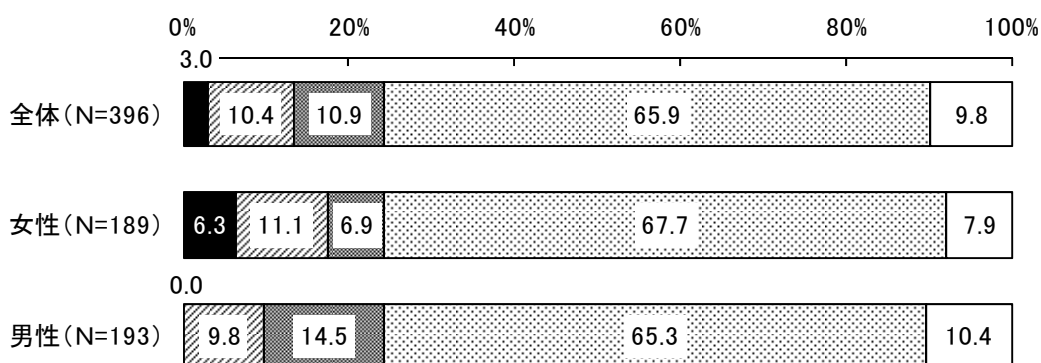
制度を使って休暇等を取ったことがあるか

子の看護休暇について、全体では「取ったことがある」が3.0%、「取りたかったが、取ったことはない」が10.4%となっています。

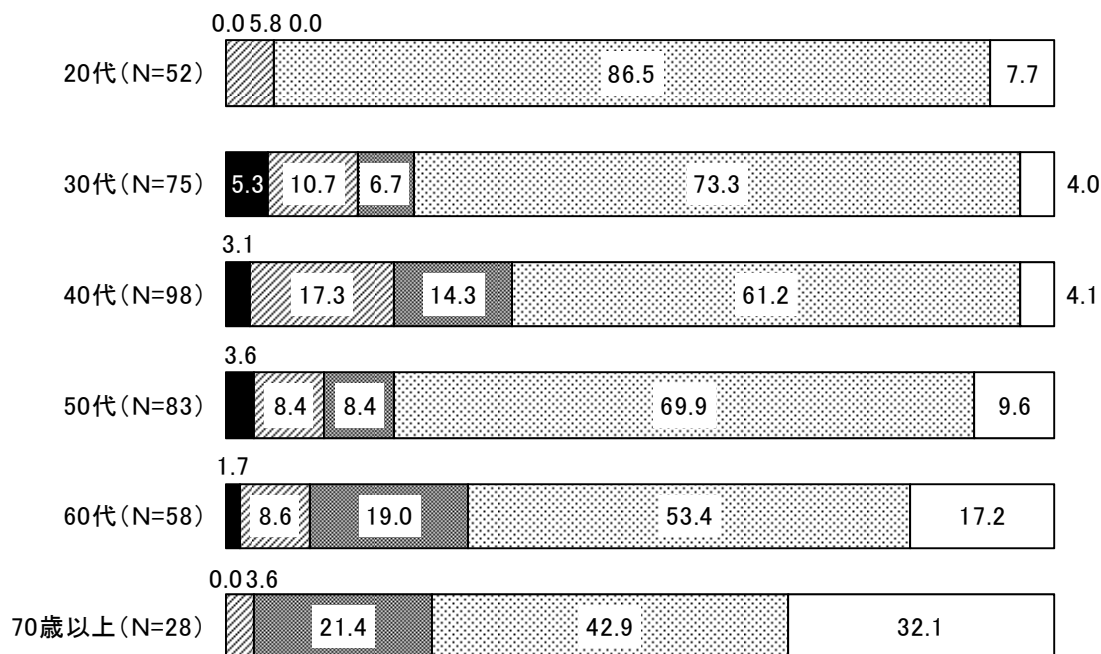
男女別では、「取ったことがある」が女性で6.3%となっている一方、男性では0.0%となっています。

年齢別では、30代、40代で「取りたかったが、取ったことはない」が1割を超え、特に40代で17.3%と高くなっています。

〈単数回答〉



【年齢別】



取ったことがある 取りたかったが、取ったことはない
 取る希望がなく、取ったことはない 今まで必要となったことがない
 不明・無回答

(C) 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）

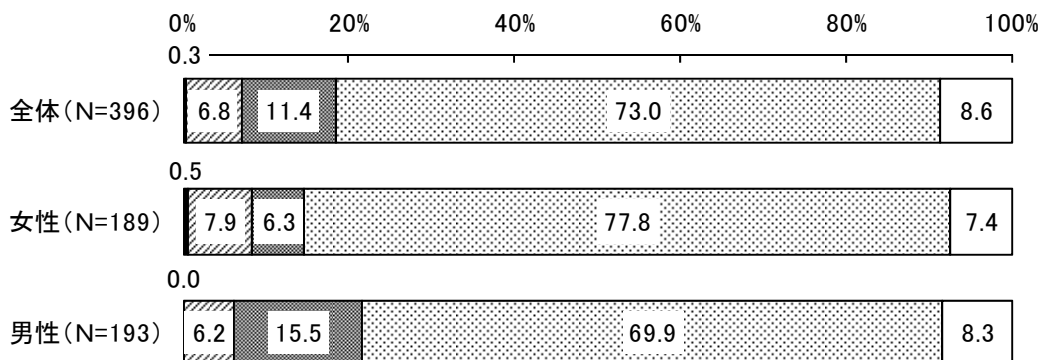
制度を使って休暇等を取ったことがあるか

介護休業について、全体では「取ったことがある」が0.3%、「取りたかったが、取ったことはない」が6.8%となっています。

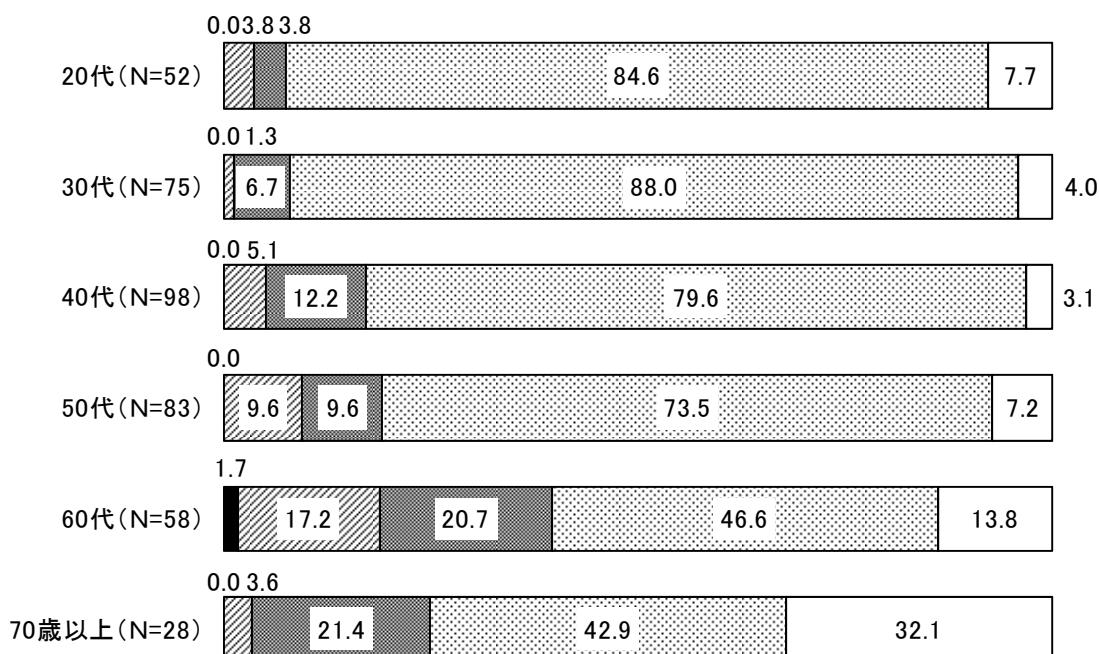
男女別では、「取りたかったが、取ったことはない」が女性で7.9%、男性で6.2%となっています。

年齢別では、特に60代で「取りたかったが、取ったことはない」が17.2%と高くなっています。

〈単数回答〉



【年齢別】



取ったことがある 取りたかったが、取ったことはない
 取る希望がなく、取ったことはない 今まで必要となったことがない
 不明・無回答

(D) 介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）

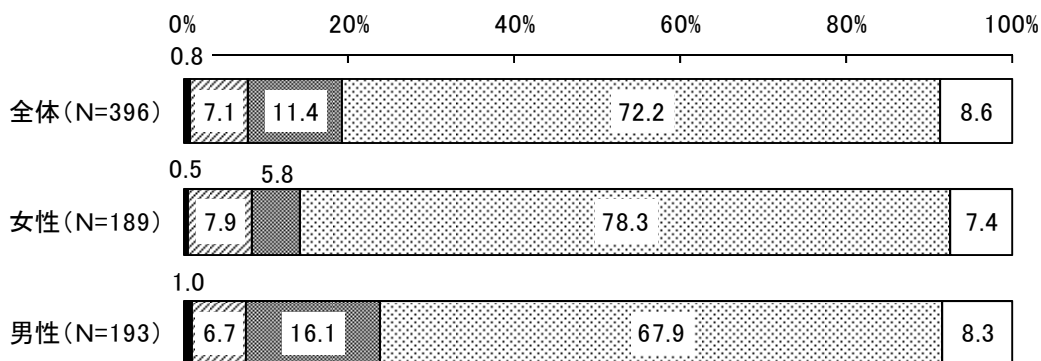
制度を使って休暇等を取ったことがあるか

介護休暇について、全体では「取ったことがある」が0.8%、「取りたかったが、取ったことはない」が7.1%となっています。

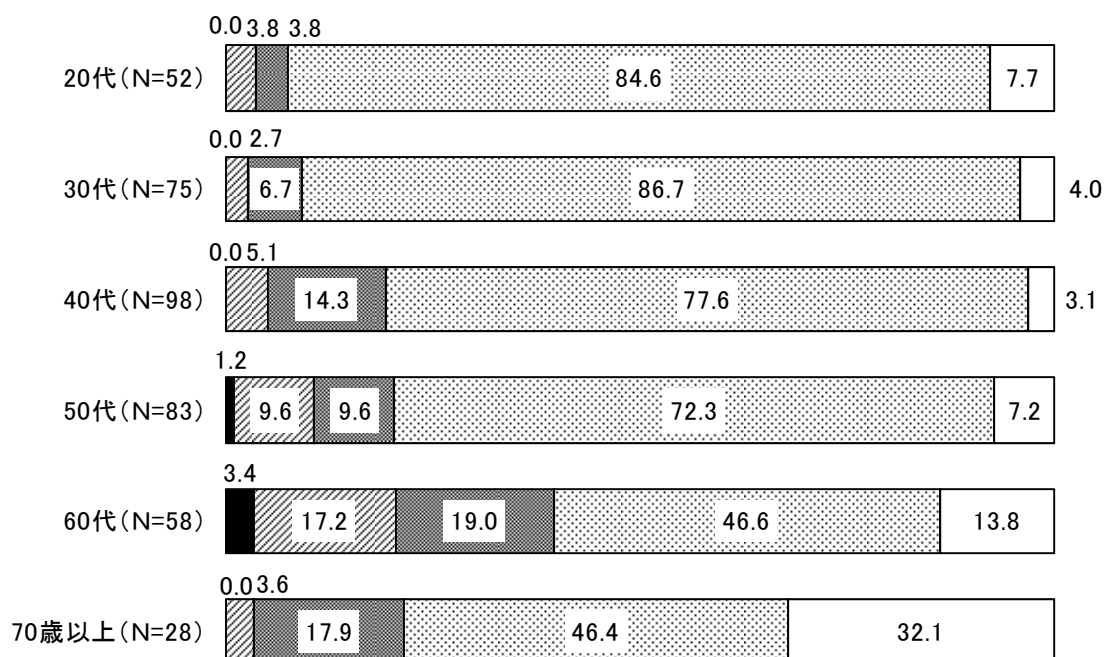
男女別では、「取りたかったが、取ったことはない」が女性で7.9%、男性で6.7%となっています。

年齢別では、特に60代で「取りたかったが、取ったことはない」が17.2%と高くなっています。

〈単数回答〉



【年齢別】



取ったことがある 取りたかったが、取ったことはない
 取る希望がなく、取ったことはない 今まで必要となったことがない
 不明・無回答

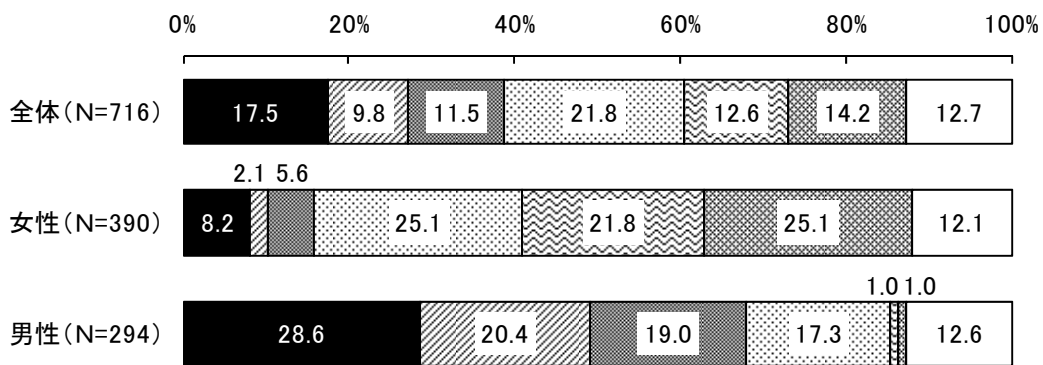
【問 15】 あなたが、平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間はどのくらいですか。

平日に家事などに携わる平均的な時間について、全体では「1時間～3時間未満」が21.8%と最も高く、次いで「まったく関わっていない」が17.5%となっています。

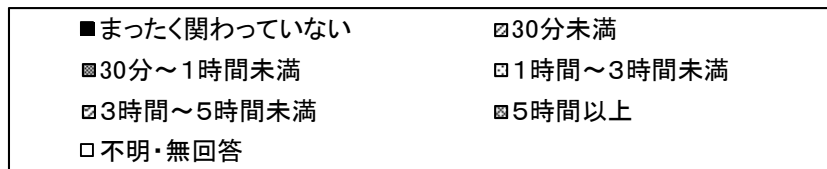
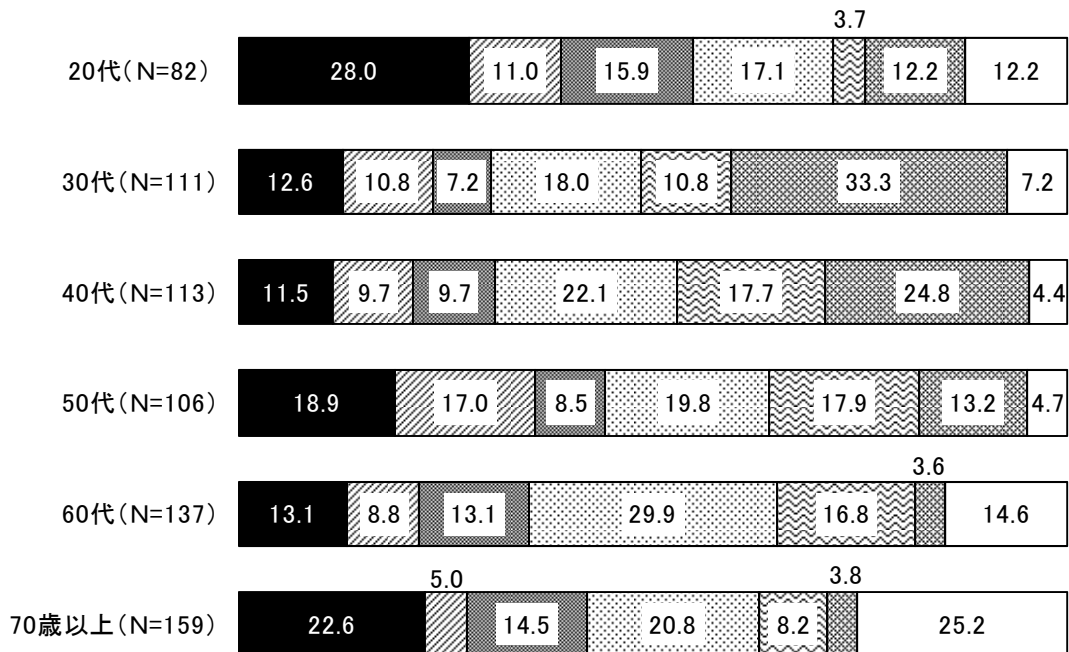
男女別では、「まったく関わっていない」が男性で28.6%と、女性の8.2%を20.4ポイント上回っています。

年齢別では、30代で「5時間以上」が33.3%と高くなっています。また、60代で「1時間～3時間未満」が29.9%と高くなっています。

〈単数回答〉



【年齢別】



4 女性の社会進出について

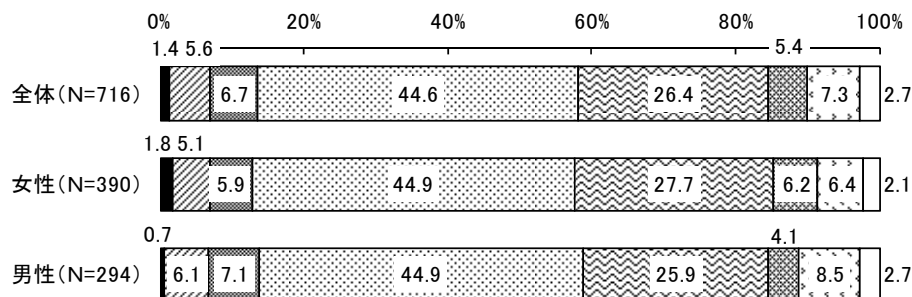
【問 16】女性が職業（仕事）をもつことについて、どう思いますか。

女性が職業をもつことについて、全体では「子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再びもつ方がよい」が44.6%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい」が26.4%となっています。

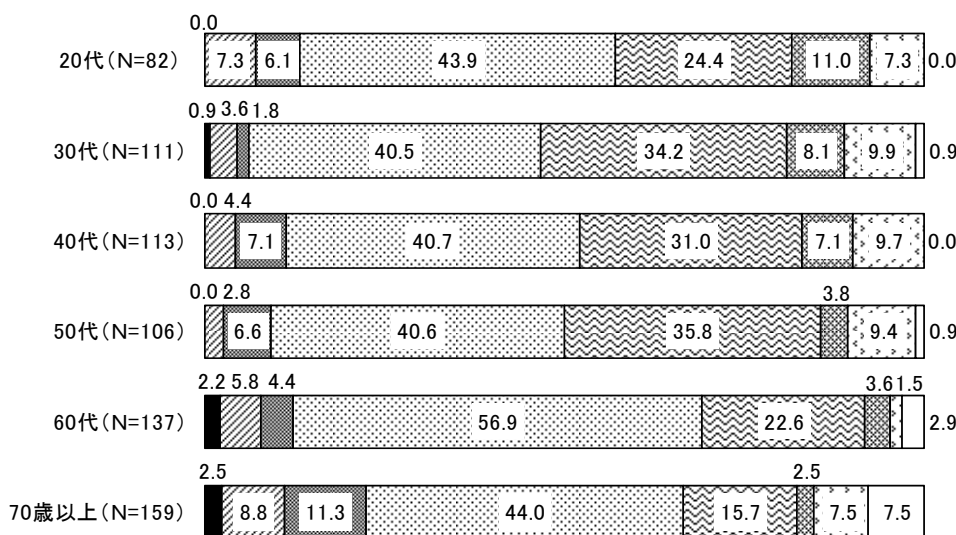
男女別では、男女ともに「子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再びもつ方がよい」がいずれも44.9%と最も高くなっています。

年齢別では、いずれの年代でも「子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再びもつ方がよい」が最も高くなっています。なお、20代、60代、70歳以上では「子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい」が他の年代と比較して低くなっています。

〈単数回答〉



【年齢別】



- 女性は職業（仕事）をもたない方がよい
- 結婚するまでは、職業（仕事）をもつ方がよい
- ▣ 子どもができるまでは、職業（仕事）をもつ方がよい
- 子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再びもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい
- ▣ その他
- わからない
- 不明・無回答

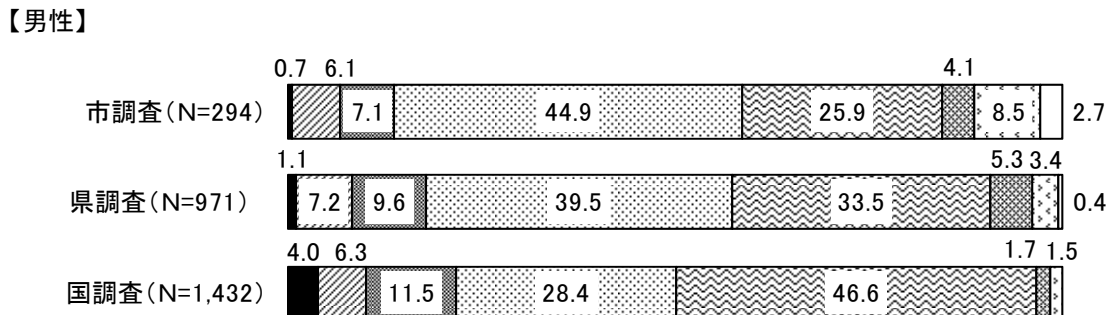
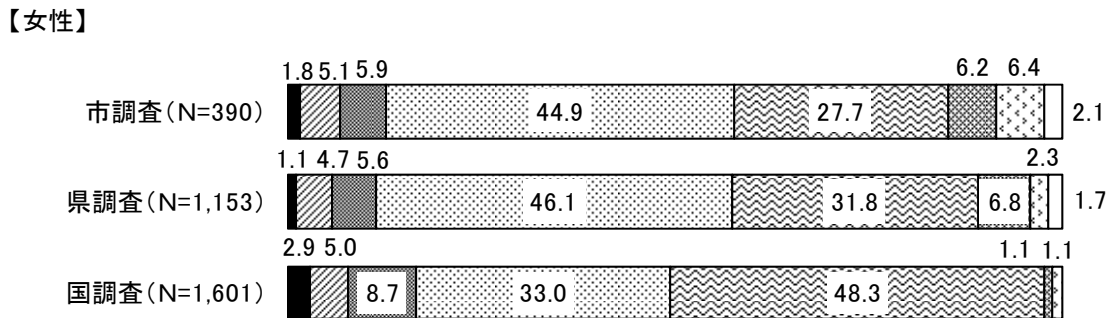
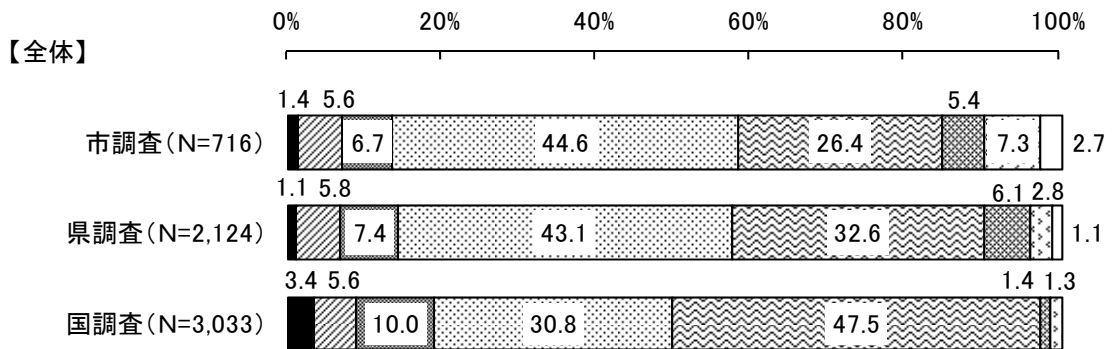
県調査及び国調査との比較

「女性が職業(仕事)をもつこと」

県調査と比較すると、市調査の「子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再びもつ方がよい」は全体と男性で高くなっています。一方、全体、女性及び男性いずれも「子どもができて、ずっと職業(仕事)を続ける方がよい」は市調査が低くなっています。

国調査と比較すると、市調査の「子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再びもつ方がよい」は全体、女性及び男性いずれも高くなっています。一方、全体、女性及び男性いずれも「子どもができて、ずっと職業(仕事)を続ける方がよい」は市調査が低くなっています。

〈単数回答〉



- 女性に職業(仕事)をもたない方がよい
- 結婚するまでは、職業(仕事)をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業(仕事)をもつ方がよい
- 子どもができたらやめ、その後、子どもが大きくなったら再びもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業(仕事)を続ける方がよい
- その他
- わからない
- 不明・無回答

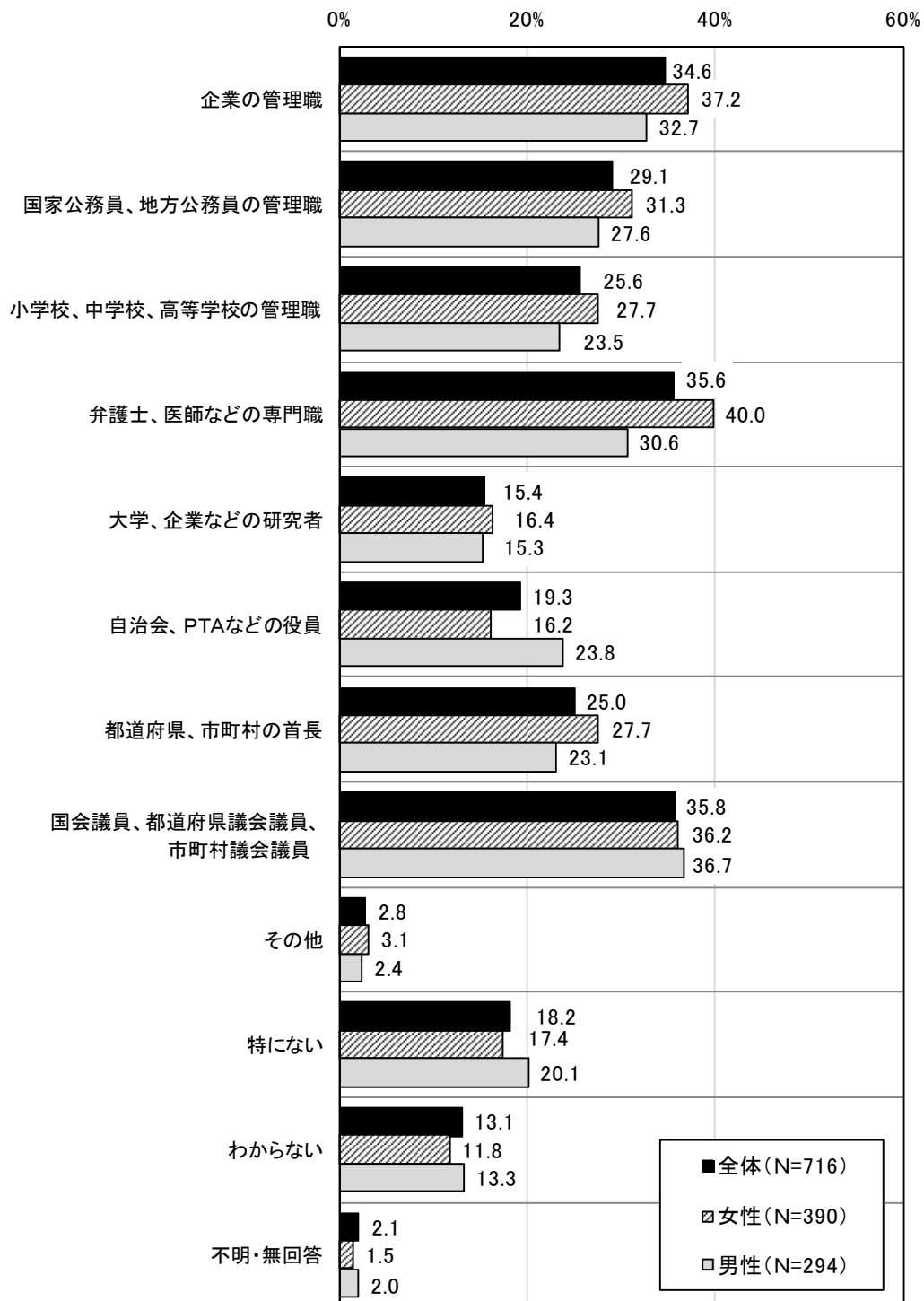
※国調査は、不明・無回答なし

【問 17】 女性が増える方がよいと思う職業や役職は何ですか。

女性が増える方がよいと思う職業や役職について、全体では「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」が35.8%と最も高く、次いで「弁護士、医師などの専門職」が35.6%、「企業の管理職」が34.6%となっています。

男女別では、「弁護士、医師などの専門職」が女性で40.0%、「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」が男性で36.7%と最も高くなっています。

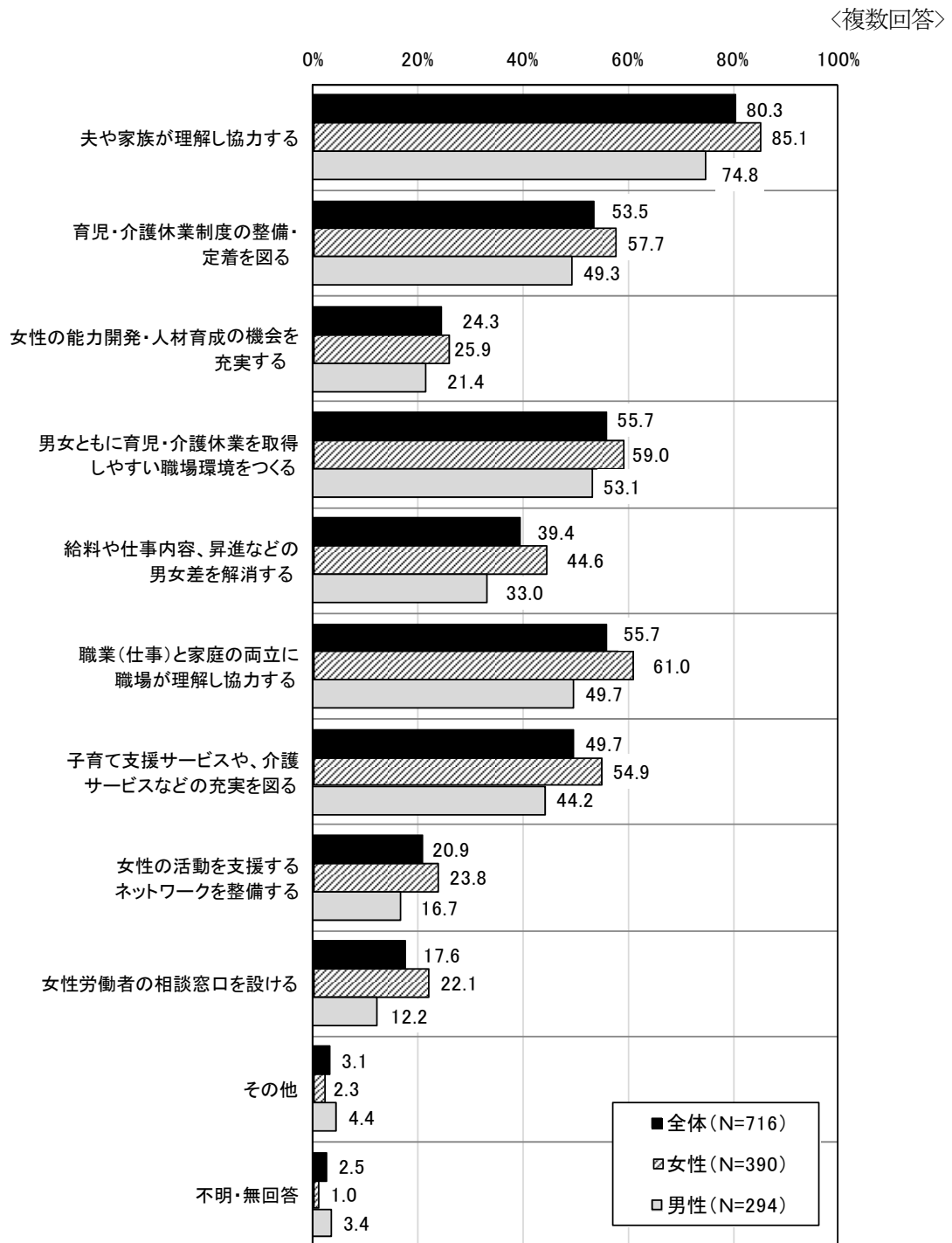
<複数回答>



【問 18】女性が安心して働き続ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。

女性が安心して働き続ける環境をつくるために必要なことについて、全体では「夫や家族が理解し協力する」が80.3%と高くなっています。

男女別では、男女ともに「夫や家族が理解し協力する」が最も高くなっています。

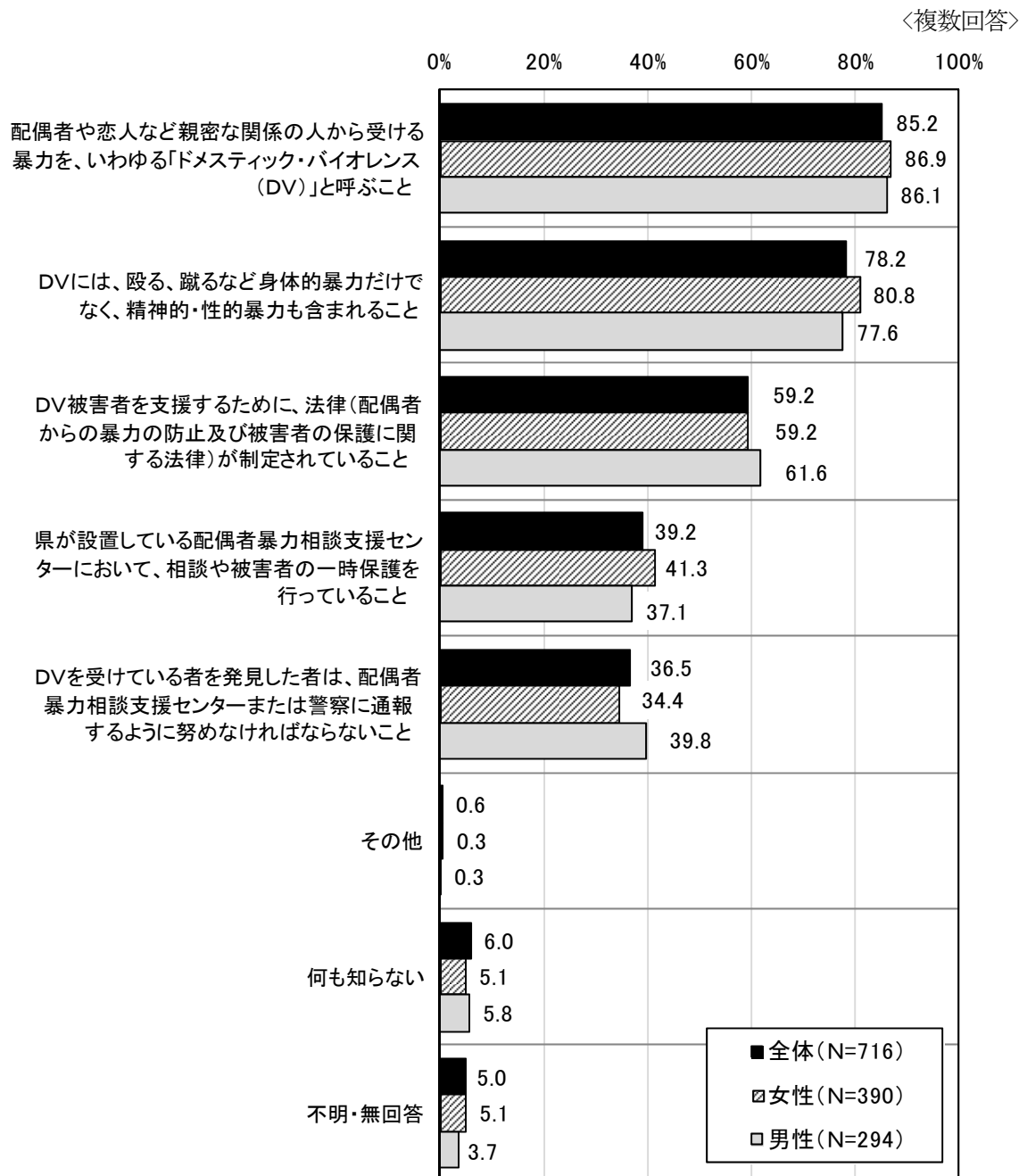


5 配偶者や恋人からの暴力について

【問 19】 あなたは、DVに関する次のことについて知っていますか。

DVに関することについて、全体では「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」と呼ぶこと」が85.2%と最も高く、次いで「DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」が78.2%となっています。

男女別では、男女ともに「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」と呼ぶこと」が最も高くなっています。



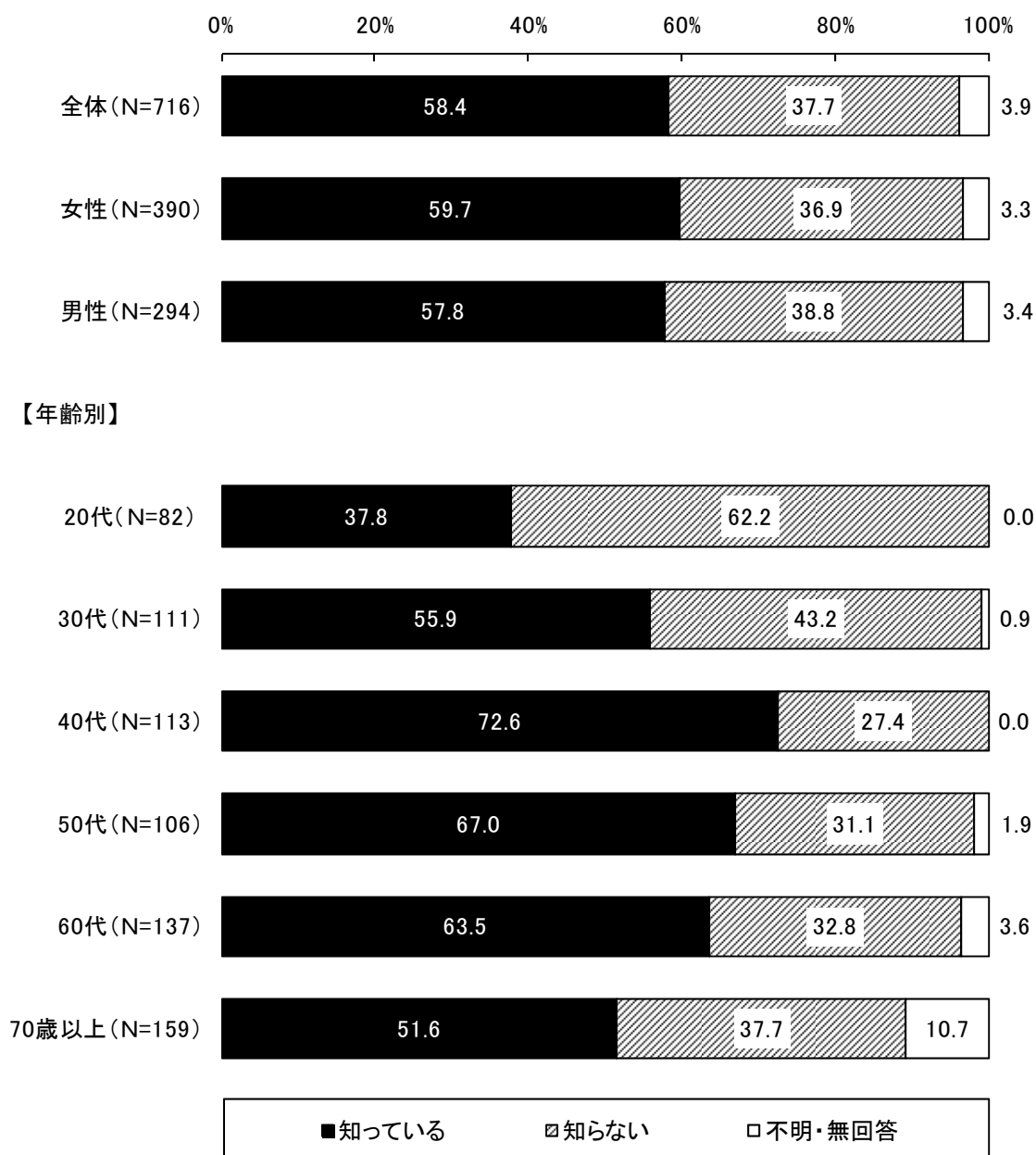
【問 20】 あなたは、DVについて相談できる窓口があることを知っていますか。

DVについて相談できる窓口があることについて、全体では「知っている」が 58.4%と、「知らない」が 37.7%となっています。

男女別では、「知っている」が女性で 59.7%、男性が 57.8%となっています。

年齢別では、40代で「知っている」が 72.6%と、他の年代と比較して高くなっています。

〈単数回答〉



<問 20 で「1 知っている」と答えた方におたずねします>

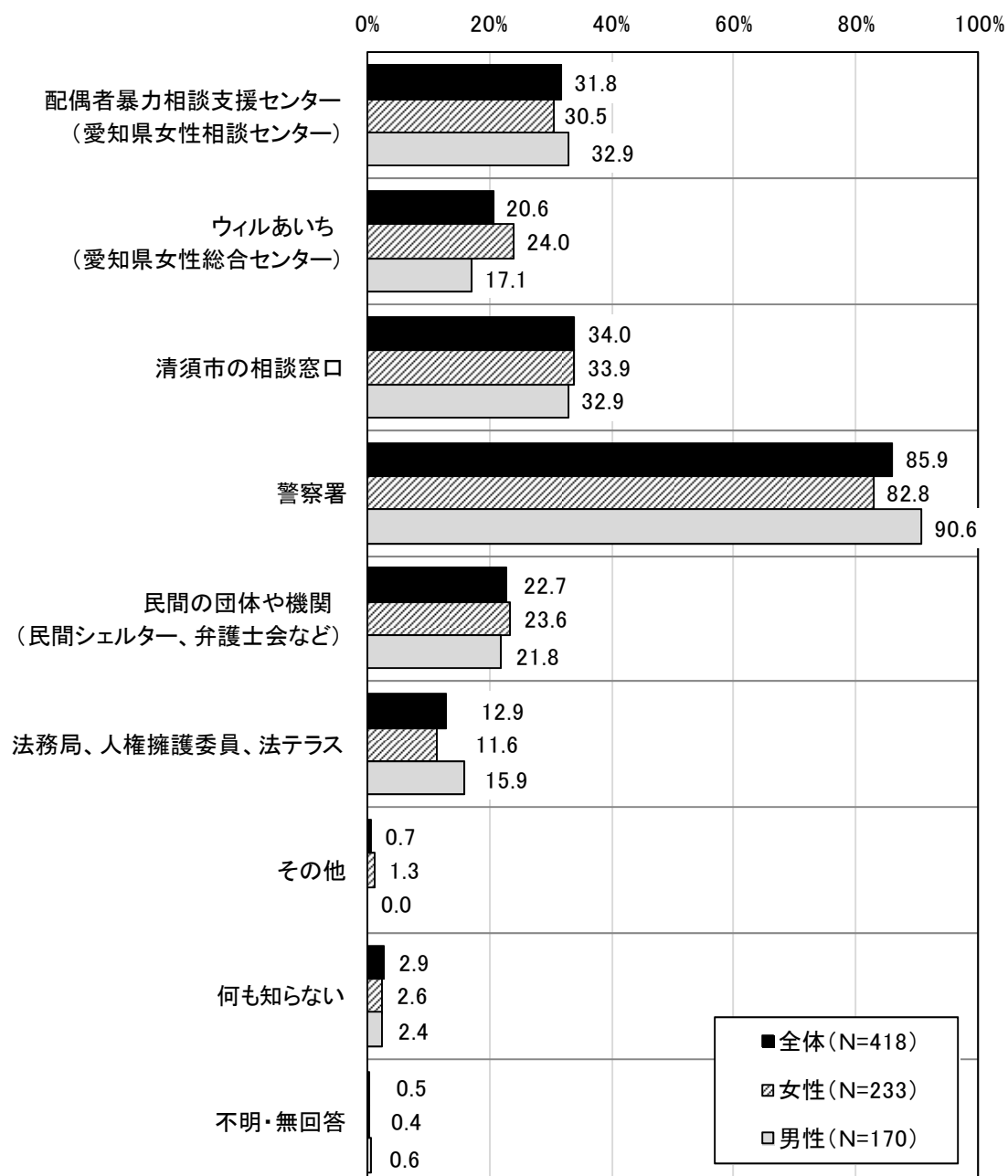
【問 20-1】 相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。

相談できる窓口について、全体では「警察署」が 85.9%と最も高くなっています。

男女別では、「警察署」が男性で 90.6%、女性で 82.8%と高くなっています。

年齢別では、すべての年代で「警察署」が 8 割を超えています。

<複数回答>



■問 20-1 のクロス集計 (年齢別)

単位:%

	配偶者暴力相談支援センター (愛知県女性相談センター)	ウイルあいち (愛知県女性総合センター)	清須市の相談窓口	警察署	民間の団体や機関 (民間シェルター、弁護士会など)	法務局、人権擁護委員、法テラス	その他	何も知らない	不明・無回答
【年齢別】									
20代(N=31)	12.9	16.1	25.8	87.1	25.8	6.5	-	3.2	-
30代(N=62)	25.8	19.4	29	87.1	21	6.5	3.2	3.2	-
40代(N=82)	18.3	15.9	29.3	87.8	32.9	8.5	1.2	3.7	-
50代(N=71)	35.2	22.5	29.6	85.9	28.2	11.3	-	1.4	-
60代(N=87)	43.7	29.9	40.2	87.4	19.5	16.1	-	1.1	-
70歳以上(N=82)	40.2	15.9	43.9	82.9	9.8	20.7	-	3.7	2.4

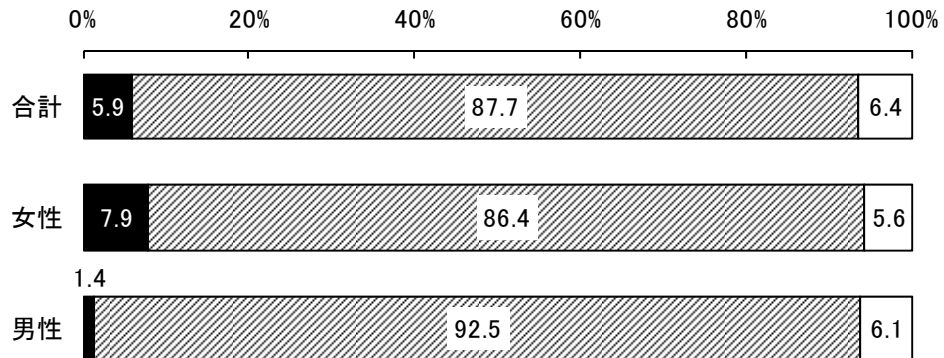
【問21】あなたは、配偶者や恋人からの暴力の経験がありますか。

配偶者や恋人からの暴力の経験について、全体では「ない」が87.7%、「ある」が5.9%となっています。

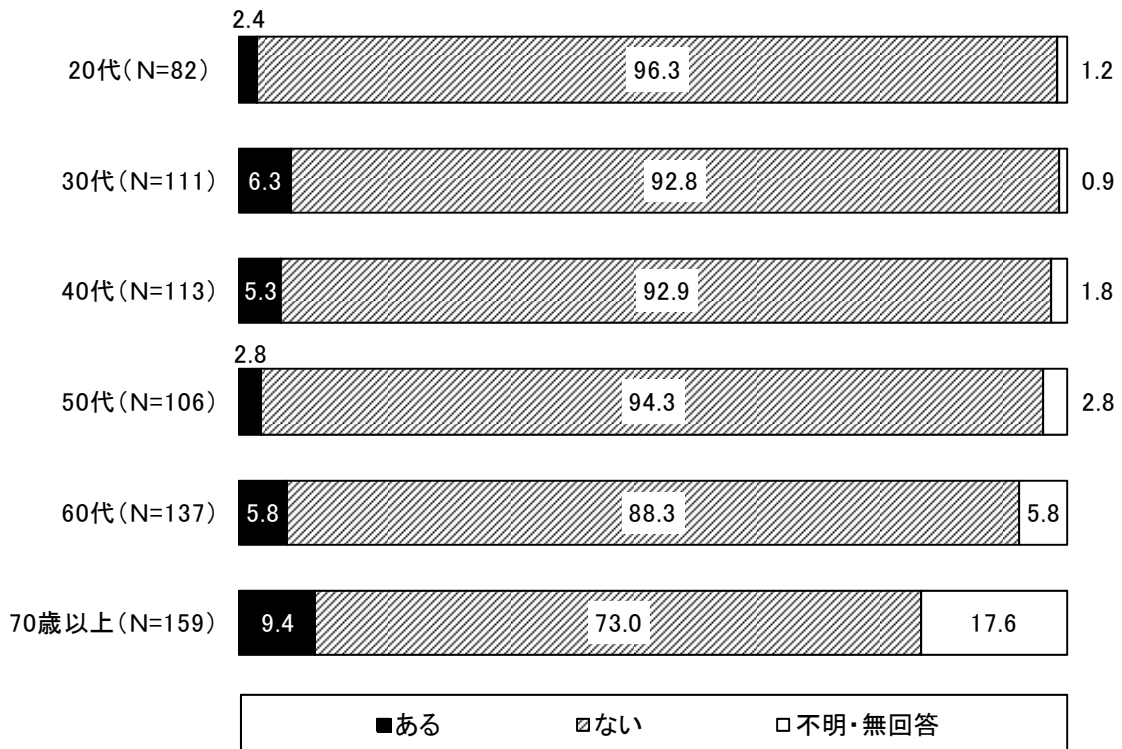
男女別では、「ある」が女性で7.9%と、男性が1.4%となっています。

年齢別では、70歳以上で「ある」が9.4%と、他の年代と比較して高くなっています。

〈単数回答〉



【年齢別】

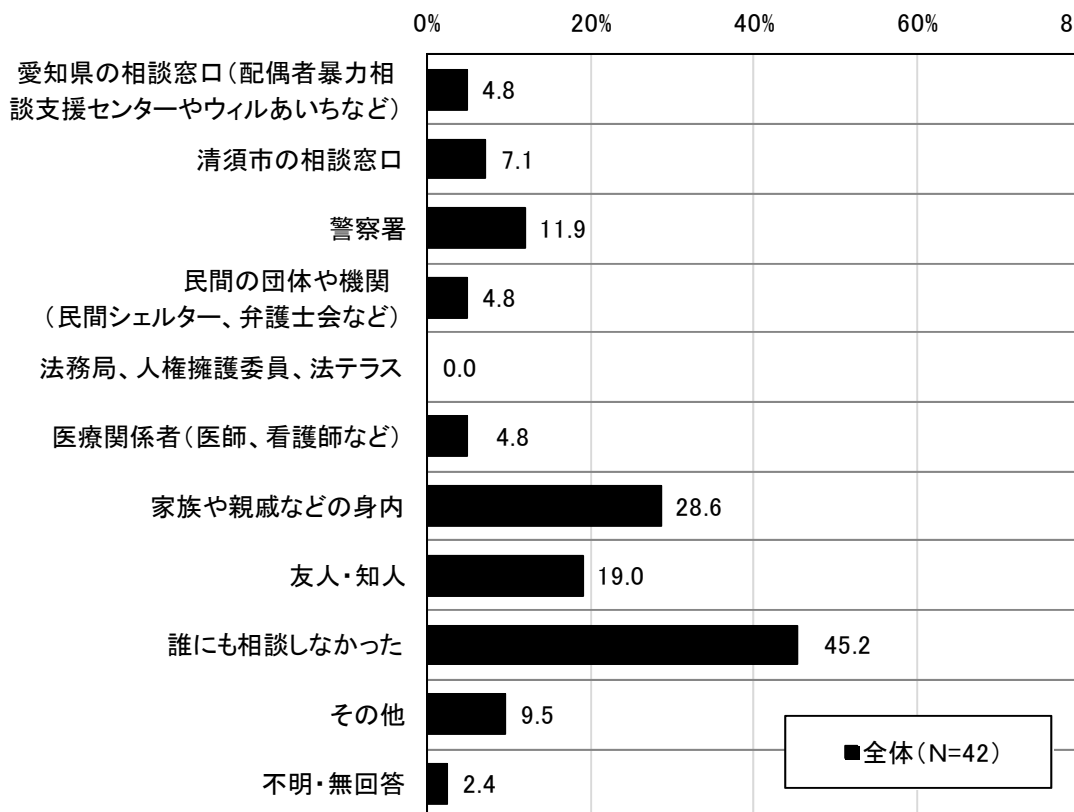


<問 21 で「1 ある」と答えた方におたずねします>

【問 21-1】暴力を受けた場合に誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

暴力を受けた場合の相談について、全体では「誰にも相談しなかった」が45.2%と最も高く、次いで「家族や親戚などの身内」が28.6%となっています。

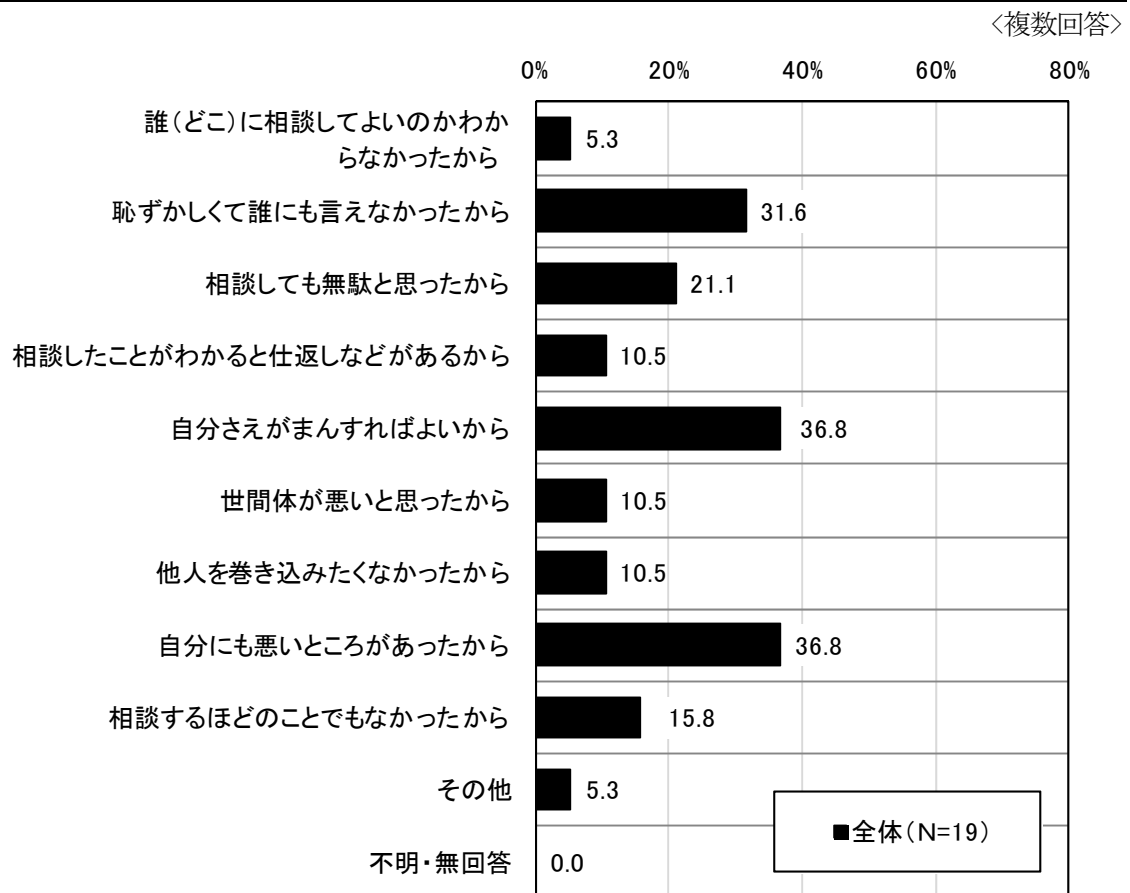
<複数回答>



<問 21-1で「9 誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします>

【問 21-2】相談しなかった理由は何ですか。

相談しなかった理由について、全体では「自分さえがまんすればよいから」「自分にも悪いところがあったから」がそれぞれ 36.8%と最も高くなっています。



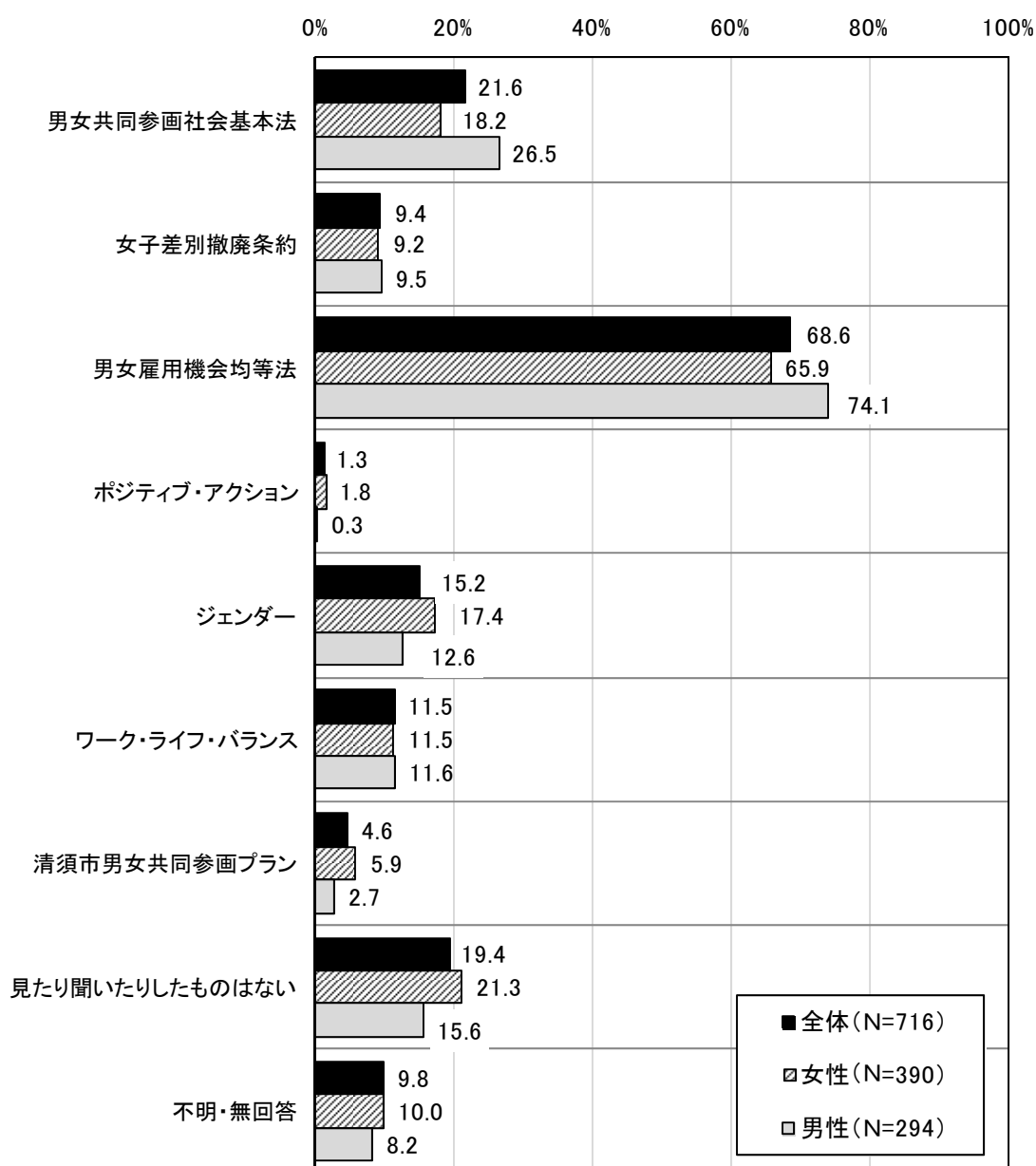
6 男女共同参画全般について

【問 22】 次にあげる男女共同参画社会に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはありますか。

男女共同参画社会に関する言葉の認知度について、全体では「男女雇用機会均等法」が68.6%と最も高くなっています。

男女別では、男女ともに「男女雇用機会均等法」が最も高くなっています。

〈複数回答〉

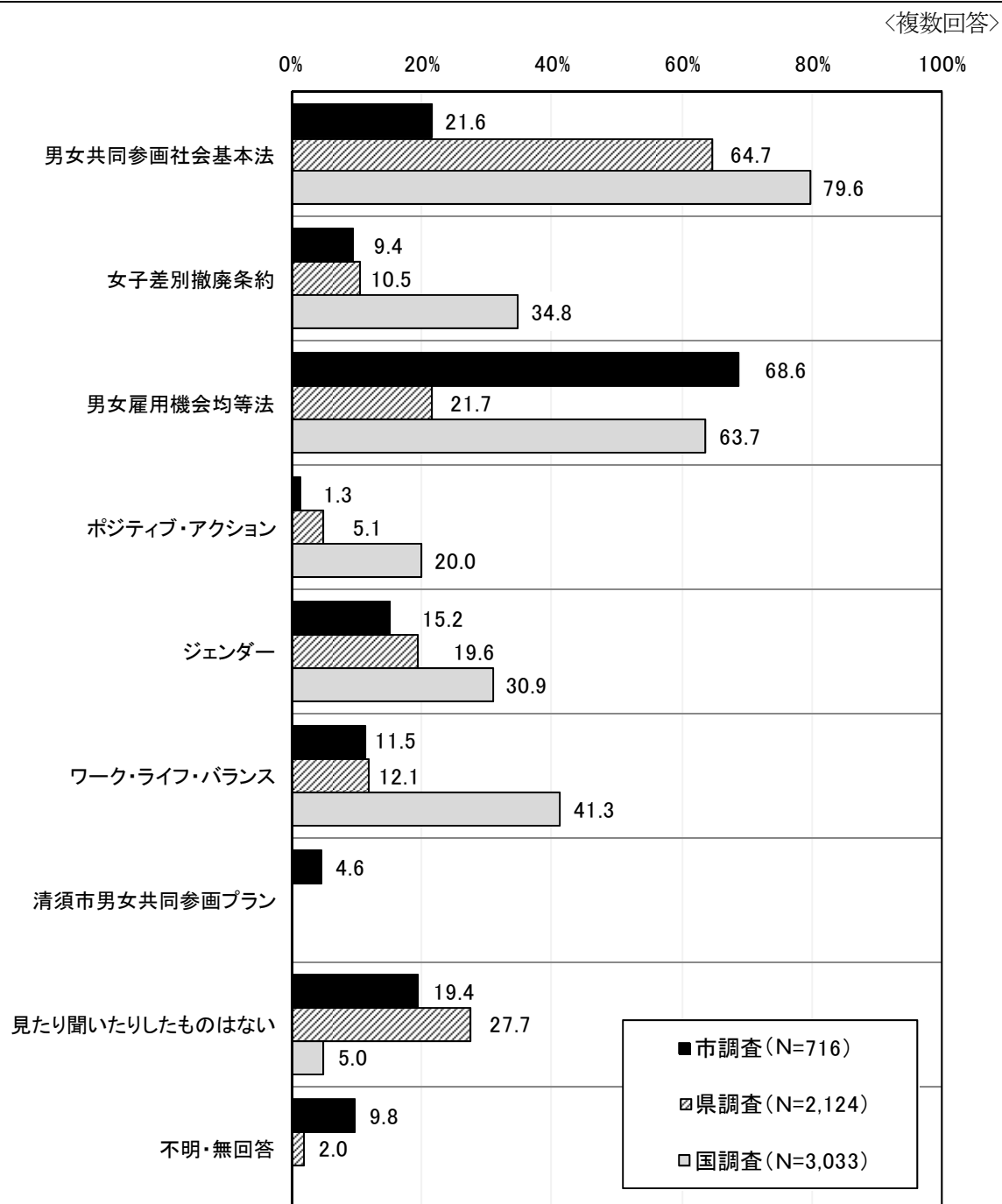


県調査及び国調査との比較

「男女共同参画社会に関する言葉の認知度」

県調査と比較すると、市調査の「男女共同参画社会基本法」が43.1ポイント低く、「男女雇用機会均等法」が46.9ポイント高くなっています。

国調査と比較すると、市調査の「男女共同参画社会基本法」が58.0ポイント低くなっています。



※県、国調査は「清須市男女共同参画プラン」の選択肢なし

※国調査は、不明・無回答なし

【問 23】あなたは、男女共同参画社会を実現するために、清須市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

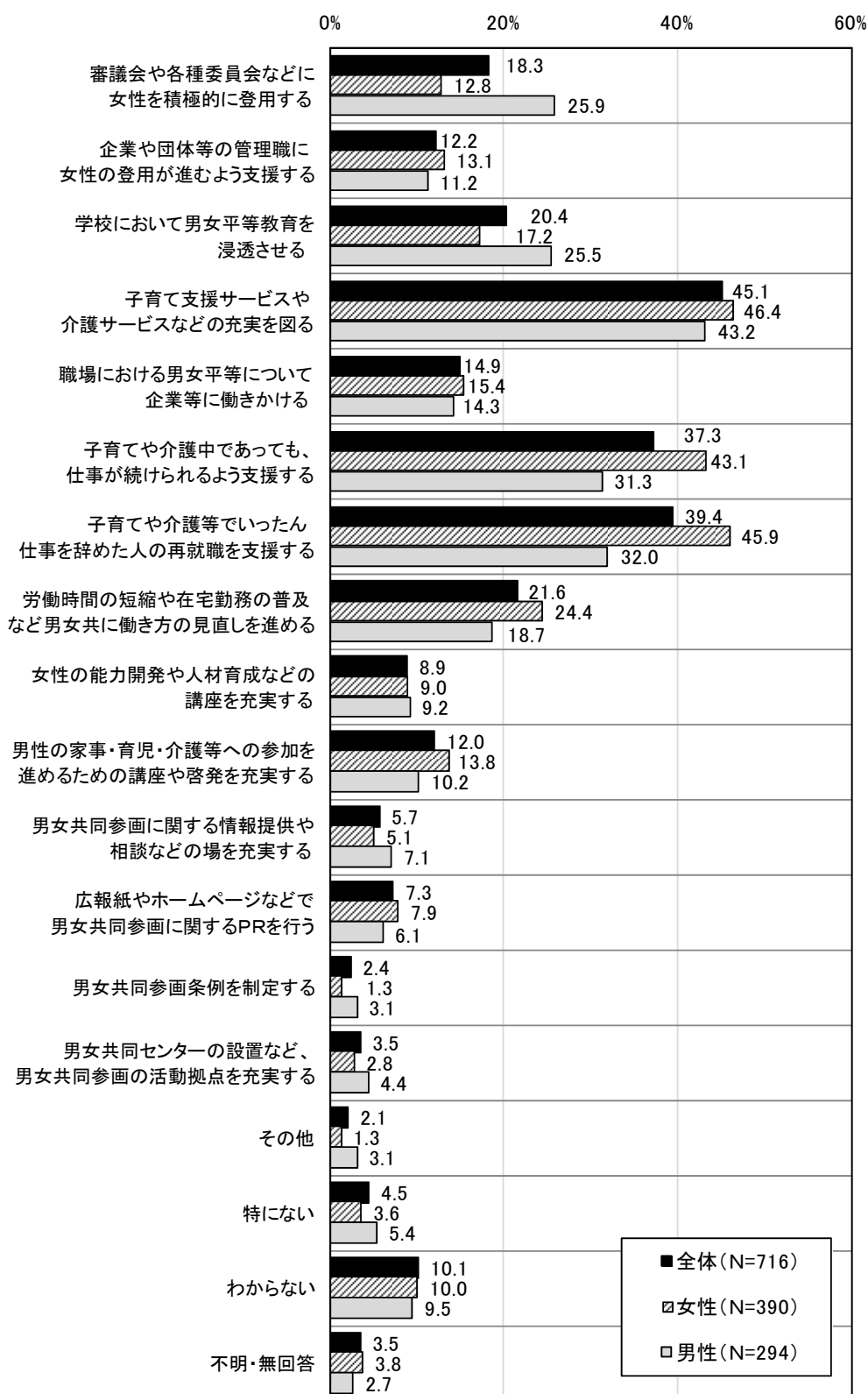
男女共同参画社会を推進していくために、清須市は今後どのようなことに力を入れていくべきかについて、全体では「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が45.1%と最も高く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が39.4%となっています。

男女別では、「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が女性で46.4%、男性で43.2%と最も高くなっています。なお、男女間での差に着目すると、特に女性で「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が13.9ポイント差、「審議会や各種委員会などに女性を積極的に登用する」が13.1ポイント差、「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する」が11.8ポイント差と、顕著な差があらわれています。

年齢別では、20代から40代で「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が高くなっています。

〈複数回答〉

※グラフは次ページに掲載



■問 23 のクロス集計（年齢別）

単位：%

	女性の能力開発や人材育成などの講座を充実する	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する	職場における男女平等について企業等に働きかける	子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る	学校において男女平等教育を浸透させる	企業や団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	審議会や各種委員会などに女性を積極的に登用する
【年齢別】									
20代(N=82)	13.4	19.5	25.6	43.9	19.5	37.8	50.0	18.3	6.1
30代(N=111)	10.8	10.8	11.7	46.8	18.9	49.5	43.2	39.6	5.4
40代(N=113)	11.5	9.7	20.4	45.1	16.8	50.4	42.5	26.5	9.7
50代(N=106)	17.0	8.5	21.7	53.8	13.2	51.9	43.4	24.5	7.5
60代(N=137)	26.3	14.6	22.6	46.7	11.7	27.7	39.4	16.1	9.5
70歳以上(N=159)	25.2	11.3	22.0	38.4	12.6	18.9	26.4	10.7	12.6

	男性の家事・育児・介護等への参加を進めるための講座や啓発を充実する	男女共同参画に関する情報提供や相談などの場を充実する	広報紙やホームページなどで男女共同参画に関するPRを行う	男女共同参画条例を制定する	男女共同センターの設置など、男女共同参画の活動拠点を充実する	その他	特になし	わからない	不明・無回答
【年齢別】									
20代(N=82)	18.3	6.1	8.5	1.2	3.7	-	1.2	13.4	-
30代(N=111)	13.5	4.5	5.4	1.8	2.7	5.4	5.4	8.1	-
40代(N=113)	15.0	1.8	5.3	-	-	1.8	2.7	8.8	-
50代(N=106)	6.6	8.5	9.4	3.8	3.8	1.9	4.7	9.4	-
60代(N=137)	11.7	7.3	10.9	3.6	5.1	1.5	3.6	8.0	5.1
70歳以上(N=159)	9.4	5.7	4.4	2.5	4.4	1.9	6.3	13.2	9.4

IV 自由回答

問3 職業

内 容	件数
職員	1
嘱託職員	1
看護師	1
幼稚園教諭	1
保育士	1
調理員	1
不動産貸付	1
管理人	1
内職	1
障害者施設通所生	1
シルバー人材センターにて就労している	1
シルバー	1
SOHO	1
年金生活者・年金生活	1
高齢	1
後期高齢者	1
夫婦と子	1
一場 144-1	1

問6 家族構成

内 容	件数
4 世代世帯	1
夫婦と夫婦の親	1
夫婦と妹	1
親 2 人子ども 2 人	1
夫婦と子	1
夫婦と世帯主の妹	1
夫婦と孫 1 人	1
祖父母と孫 2 人	1
祖父母と同居	1
祖母と孫	1
嫁と孫	1
単身の 51 歳の息子は病気で結婚しないので	1
兄妹 2 人	1
元夫と共同生活	1
養子	1

問7 お住まいの小学校区

内 容	件数
清須	3
西枇杷島町	2
清須市土田	2
大嶋	1
新清須	1
下新	1
寺野元町	1
熊本県	1
愛西市開治小学校	1
土器野	1
西田中松本	1
枇杷島駅前東	1
土田二丁目	1
春日寺廻り	1
西枇杷島町下新	1
朝日	1
清須市清須 1511-1	1
一場	1
土器野 453	1
須ヶ口	1
清須田中町	1
花水木	1

(仕事と家庭生活、地域生活について)

問 10-1 地域活動の中で、男女が不平等であると感じることはありますか。

内 容	件数
できる人ができる活動をすべきなので不平等と感じない	1
孤立化・個別化する人間性を社会が創出している (能力・成果主義)	1
もっと積極的に参加すべき	1
皆、平等にしている	1
私が参加した活動の中では不平等は特に感じなかった	1
女性は地域活動に参加したがる	1
女性が働きやすい制度ができていない	1
地域活動は、女性が働いていないという前提のもと (もしくは時間勤務) 平日の行事が多い。今、増えている共働き勤務体系に即していない	1
言葉の端々に女性を下に見る感じがある	1

問 10-2 地域活動に参加していない理由は何ですか。

内容	件数
仕事の都合	3
子どもが小さい	2
引っ越しして来たばかり	2
健康でないため活動できない	2
老人で（85歳）お役に立てない	2
何をしているのかわからない	2
育児で手が回らない	1
時間が合わない	1
息子に委ねている	1
親がしている	1
他の家族が行っている	1
今年の4月に引っ越しして来たばかりで地域活動自体よくわからない	1
病気で入院中	1
病人の世話、介護	1
後期高齢者でも地域活動に参加している	1
まだやりたいが体力に自信がない	1
不定休と夜勤もあるため	1
休日が土曜・日曜でないため参加できない	1
家族とともに過ごしているため個人の活動はない	1
体操をしている	1
きっかけがない	1
情報があまりなかった	1
地域活動の日に予定があった	1
地域活動があることを知らなかった	1

問 11 あなたの生活の中で、実際に優先しているものは次のどれですか。

内容	件数
デイサービス	1
兄弟	1
精神状態	1
妊娠しているのでお腹の子どものこと	1
実家に月2回行くこと	1
老夫婦が働いているので家のことをやる	1
特別意識しているものはない	1

問12 あなたの生活の中で、理想として優先したいものは次のどれですか。

内容	件数
健康のこと	1
地域活動していれば友だちが多い	1
娘	1

(女性の社会進出)

問16 女性が職業(仕事)をもつことについて、どう思いますか。

内容	件数
個人の自由	5
本人の希望による	1
本人次第。決めつけるべきでない	1
本人の希望する人がすれば良い。経済的に必要であれば止むを得ない。男だけで生計でできるのが理想	1
人それぞれだと思う	1
時と場合による。その人による	1
日々の生活が大丈夫なら本人の自由	1
それぞれの環境、考え方によって違うので、決められないが、条件を整えば仕事を持った方が良い	1
向き不向きの問題だと思う	1
個人の判断すること、その人に合った生活が一番。私にとっては④番だった	1
個人の資質によるところで仕事をするしないを決めてよいと思う	1
個人が考え、決めることである	1
人それぞれであり、仕事によって難しい仕事もあると思う	1
家族の意向、意志による	1
続けても良いとは思う	1
結婚、子どもができるという区切りで仕事量(時間)を減らせるとよい。家庭生活と両立できるよう、働きたい時に働けるとよい	1
選択肢①～⑤のどれを選んでも、女性とその家族に不自由のない状況がよい	1
女性・男性問わず必要と思う仕事をしたら良いと思う	1
女性でも職業を持った方が良い	1
子どもが小さくても無理なく働く方が良い	1
昔のように親子がそばにいて協力して生活するのが孫にとっても良いと思う	1
個人の自由であり、女性が望む選択をすればよい	1
持ちたければ持てばよく、持ちたくなければ持たなければよく、強制してはいけない	1
各々の経済状況や生活環境によって職をもつ・もたないを選択できるとよい(特に結婚や出産後)	1
職業を持つ方が良い	1
価値観、経済状況により変わると思うのでわからない	1

問 17 女性が増える方がよいと思う職業や役職は何ですか。

内容	件数
すべて	9
一般企業	1
神・主・伝統職人	1
事務職	1
能力があれば	1
やりたい仕事をすればよい	1
男女にこだわらず、適材適所	1
職業にかかわらず色々な分野で活躍できる場が増えるとよい	1
どこでもそうだが女性がお世話になる機関、産婦人科や皮膚科に限らず、どこでも女性がいたほうがクッション的存在になる場合もあるのでは	1

問 18 女性が安心して働き続ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。

内容	件数
いくら環境を整えても本人のやる気だと思う	1
個人の問題	1
働き続ける環境をつくらないと働けないのなら、女性を無理に使う必要もない	1
男女とも残業をしない。子育て中（入学前まで）の時短勤務	1
女性は自分が子どもを産み育てる。男性にはできない命をつなぐ大きな役目を担っていることにもっと気付き、仕事や環境ではなく子どもの命が一番のを知ることを知る。鍵っ子にさせてはいけないと思う。「ただいま」⇔「おかえり」のやり取りの重要性を知る	1
専業主婦に賛成	1
女性は働き続けるべきではないと思う	1
女性は子育て中に働くべきではない	1
職場に育児スペースをつくる	1
三世帯の同居、または近くに支援者（身内）がいる	1
①保育園でも幼稚園同様、勉強・スポーツに力を入れるべきだと思う。勉強させたいために子どもを幼稚園に入れる人もいて、仕事するには難しい（預かり時間が短く、長期休暇、行事が多いため） ②土・日・長期休暇の時にも、安価に子どもを預けるところがあるといい	1
保育園の拡充	1
いいラインの法制定	1
社会進出と言われているが、何%の人が本当に望んでいるのか、家庭にいたいと思っている女性が多くいるのではと考えている	1
すべての制度において、制度をつくる際に、9割女性、1割男性の中で制度やルールや企画を行なう	1
夫の安定した収入	1
特になし	1
わからない	1

(配偶者や恋人からの暴力)

問 19 あなたは、DVに関する次のことについて知っていますか。

内容	件数
かたちを整えても、踏み込んだことをできない。やってない	1
テレビで放送するので知っているけど、現実的なことはわからない	1
近頃、我が家で軽DV発生	1

問 20-1 相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。

内容	件数
幸いにも、DVを受けているような方は周りにはいない	1
電話番号など具体的には知らない	1
窓口があるとは思いますが、実際どこに相談すればよいかわからない	1

問 21-1 暴力を受けた場合に誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

内容	件数
暴力を受けたことはない	2
酒が入るとある	1
夫婦げんかの仲裁はしませんよ、で終わった。夫婦ではなかったが	1

問 21-2 相談しなかった理由は何ですか。

内容	件数
現在まで、何事もなく無事に過ごしてきたことを感謝している	1

(男女共同参画全般)

問23 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、清須市では今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

内容	件数
市の職員が地域に入り積極的に指導・教育するとよい	1
市の選任方法か選任基準、現況の各種委員を含め明確化を	1
子どものうちから意識づけ、親の意識が変わらなければ子どもは変わらない	1
能力とやる気の問題	1
⑥と学童を小3以上でも利用できると良し	1
まずは平等な教育・育成が欲しい	1
1つの会社に子どもも見てもらえる場をつくるべきだ	1
幼稚園・保育園の普及（清須は1つ幼稚園がなくなると聞いた）	1
交通事故、病死（父親）した家庭が生活ができるように面倒をみてあげる。離婚は自分の理由で考えさせられる	1
自治体が男女共同参画の社会の実現というスローガンを掲げること自体がどうかと思う	1
男女共同参画の会議は、女性中心のものが多く、違和感がある。男女半々の組み合わせをした方がよい。一部強い女性のみ発言で終わっている。それらの女性が属する組織は女性のみ会となっていることが多い	1
市民税を下げるインセンティブを与える。市民税が高いから協力したくない	1
近くの保育園の定員確保	1
男性がつくってきた制度やルールは時代遅れで発展せず、安心、安全、平和、生命を本当に語るの女性のため、とにかく女性の意見をよく聞き、取り入れる	1

(その他・自由意見)

行政・施策	件数
市の施設の場所がよくわからない。駐車場や道順、一方通行などもだが、車以外の交通の便が悪い	1
税金を使ってやることではないと思う	1
図書館の本の種類や数の充実を期待している	1
今の制度で結構だ	1
まったく意味がわからない。市民にわかりやすく説明してほしい	1
このようなアンケートを実施するのであればかたちだけでなく、きちんと市民の意見を汲み取り、良い方向へ発展していくよう活動していただくことを望む	1
市の（男女共同参画・生涯学習について）HPに特設コーナーをつくるとか、公共施設（市役所・公民館・図書館など）にお知らせPR掲示を貼るなど、積極的にPRしていけばgoodかと思う	1
タブレット教室の申し込みをしたが、不採用だった。もっと回数など増やしてほしい	1
清須市役所の職員をもっと教育してほしい。役所の中をあっちこっちうろついている	1

行政・施策	件数
ネットで調べて説明を聞けば「ああ、あのことか。知っている」と思うかも知れない。男女共同参画も生涯学習も正直わからない。ニュースで大々的に取り上げているわけでもないし、ではどうすればもっと知られて盛んになるかと考えても思い浮かばない。わかりやすくマンガ風にして、大きなイベント（西枇まつりなど）で配ったりしてはどうか	1
魅力を感じるものも少ない。他市と比べてもやや劣っているように思う	1
今年4月に引っ越ししてきて、清須市に産婦人科やハローワークがないことに驚いた。今まで自分の市に施設があったので、上記2つが清須にできるのにあたり、女性の意見がなかったのであれば女性の役員を増員してみてもと思う。生涯学習はやってみたいと思ってもらうきっかけづくりと、初めて参加したいと思った人向けへの開けた情報提供が必要なのではと思った	1
清須市に住み5年以上過ぎたが、特に何も恩恵を受けたことはない。感じたことがない。毎年住民税は何に使われるのというくらいいっぱい取られる。納め損にならないように充実した貴市の発展を望む	1
4町合併したが、以前と何も変わらず清須市の負債が増えており、男女共同参画・生涯学習をテーマとしていても市の行政には期待が持てない。清須市の公務員が、市を改善して良くしていくために、日々何をしているのか、まったく伝わってこない	1
民間への委託事業にしたらいではないか。国の予算で使うなら、世界経済での競争力が高まることはあるか。意味のないことにお金を使うから、行政財政が悪くなるのではないか。投資した予算は、税収でリターンがあるか。このアンケートの予算も使って何になるのか。税金の無駄遣いを止めよ	1
こんなにたくさんの項目に答えるのはとても疲れた。こんなことにお金を使って。市長さんしっかりして下さい	1
広報清須・市ホームページを有効活用して情報発信をして下さい	1
公民館、ホールでのコンサート（名フィルやプロのアーティストによるもの）を増やし、音楽関連のサークルやグループの活動を充実させるよう、働きかけてほしい	1
何も求めるものはない	1
清須市に住むことを自慢できる“まち”にしたい。住むのに良い環境があれば、そういったことに前向きになれると思う。市政として他の市町村にない、もしくは抜き出ているものを目指して頑張ってください	1
女性の共同参画に対しては、保育園利用のしやすさなど、働くために助けになる施設の充実が必要だと思う。聞いた話では、保育園の駐車場がないため、夏の月曜日“お昼寝布団”など、たくさんの荷物を自転車で運ぶのが大変だから駐車場を！！という母からの意見に対して、“1時間前に家を出たらいいだろう”と市長が言われたとのこと。こんなアンケートを取る前に、市長は考えを改めてはどうか！！	1
きれいで衛生的なまちづくりに励んで下さい	1
現在のままでよいと思う	1
生涯学習を利用しているのは僅かだと思う。市民の税金を使うなら、税金の支払いで四苦八苦している我々の固定資産税、市民税、健康保険を安くしてほしい	1

男女共同参画について	件数
何でもかんでも男女平等にする必要はない。男女の差はあるのだから平等とするのは無理があるものもある	1
完全に男女共同参画が実現するのはまだまだ先のことだと思うが、優れた女性があきらめなくてもよい。実現に向けて決して歩みを止めないで少しずつでも前進してほしい。それがよりよい社会実現へとつながっていると思う。日本は男女平等においても世界の先進国になるべきだ	1
男女共同参画について、子育てはどうしても母親の方に負担がかかりがちで共働きの場合、子育て支援サービスをもっともっと充実させていただけると、もっと女性が社会で活躍できると思う。今は、来年4月からの仕事復帰がとても怖い。夫婦共に両親が近くにいないため、子どもに何かあった時などに急に頼るところがなく困る。ファミサポだけではフォローできず。結局、母親（女性）が仕事を休まないといけなくなり、女性が社会に参加できる機会がどんどん減っていく。難しいとは思いますが、よろしくお願ひしたい。期待して清須市内で家を建てる	1
男女の平等と適正（役割分担）の質問には困った。体力や趣味の違いは人それぞれだ	1
男女が社会で平等で働くのは生活での役割が違う場合が多く難しいと思う（特に結婚をしていたり、子どもがいる場合など）ので、ワーク・ライフ・バランスがとれるような制度を強化してほしいと思う。確かにキャリアウーマン、バリバリ働ける方のためにも男女共同参画は必要だと思うので、市がいろいろ考えてくれるのは嬉しい。企業にいろいろ求めることも必要だが、多くの企業も生き残りに大変なので、制度だけ整えるのではなく働く人々やパートナーの意識改革も大切だと思う	1
日常生活における男女平等。頭で理解できていても実践できていない。この間を埋めるものを生涯学習に挙げてみてはどうか	1
社会も会社も男性への力の入れ具合が強い。社会に出た時から、既に教育などの面で格差をつけられたので、この歳になって今さら取り戻せない。参画の運動を組合活動を通じてしたことがあるが、皆がすべてそれを望んでいない	1
男女とわけて考えていること自体が疑問だ	1
男女が結婚して良い家族をつくること。そして一人一人が生きることに意欲を持って前進する	1
特に家庭生活において、男女の体力差、性別の役割の違いなどがあるために父（夫）にしかできないこと、母（妻）にしかできないこともあるように感じる。シングルで子育てされていらっしゃる方もあるので一概には言えないが、男女がまったく同じようにできるわけではないのに、かたちだけ“平等”を訴えるのも少し解せない。男女の平等感に対する答えは「わからない」に丸したところが多くなった。市として、男女共同参画、生涯学習の点に目を向けて下さるのは好感が持てる。今後に期待する	1
男女共同参画について、公務員に対しては、何の障害もなく実施できるものではないのか。まずは、公務員から実施目標を作成し、達成に向けて行動を起こして下さい。生涯学習に係わる大きな団体が「清須市女性の会」として活動している。年々、活動資金が厳しく、運営が大変なことを耳にした。歴史ある婦人会をぜひ応援してほしい	1
「平等」や「均等」という言葉が前に出過ぎな感じがある。機会は均等にすべきだが、内容まで平等と言うのはおかしい話だと思う	1
まだまだ男女平等とはいかない世の中であり、学校生活の中など小さい頃からそのような教育をしていくべきで、女性の声は大事にしていかなければならないと思う	1
男女がまったくの平等となる社会は難しいと考えるため、個人の考えや能力を理解し認め合うことのできる社会づくりをしてほしい。	1

女性に対して	件数
男女の能力の差がはなから違うのに、女性が男女平等を主張する意味がわからない。男女平等を主張するくせに自分の立場が危うくなったら「女」を使うことは矛盾しているし、そういう女性が多い。男女平等なら女性を守る法律が必要か。結局、女性の都合良い世の中になっている。そこらへんをもっと女性が理解すべきだ	1
女性が出産後も退職せずに働きやすいような、時短勤務の義務化。男女とも残業しない←日本人は働き過ぎ！Workシェアしよう。早く日本社会が変わることを願う	1
女性が会社などで働くことだけが社会進出ではなく、本当に役職者になることを望んでいる女性が多いとは思えない。育児の補助だけではなく、自信をもって仕事をしてもらえる活動が必要だと思う	1
男性の意見は時代遅れであり、10歳代～90歳代の独身女性や子育て世代、共働きの女性等、それぞれの立場の方々の意見を聞くべきである	1

子育て・保育	件数
育休が終わって、いざ職場復帰のため子どもを保育園に預けようと思っても、西柞小学校区に住む私は、西柞保育園ではなく新川地区の保育園を勧められた。仕事後、できるだけ早く迎えに行くためにも、地元の保育園に通えるように早くしてほしい。男女共同参画と言っても、やはり母に育児の負担が大きくなる。子育て支援にもっと力を入れてほしい。現在妊娠中で、夫に風疹予防接種を受けてもらうにも、市の補助はこれから妊娠する人のみ。子育て支援というなら妊娠中の人も対象にするべきじゃないのか。清須市は何かと対応が遅れがちという印象が強い	1
0～2歳児の保育の受け入れ先をもっと増やしてほしい。妻が働けなくて困っている	1
どちらにおいても、小さな子がいる身としては時間の自由がきかない。子育てに関するサービスを充実していただけると助かる	1
出産したばかりなので、保育園に関する情報をもう少し詳しくHPに載せてほしい。こちらに引っ越ししてきて、まだ1年未満なので、近所に情報交換できる友人はいない。昨年は何歳の子がどれだけ待機になったのか、倍率はどれくらいかなど、参考データがほしい。4月から入園した方がいいのか、1歳になってからの方がいいのか、職場復帰するにあたって判断材料が入手しづらい	1
赤ちゃん先生など親子でできるものがあるのに、取り組みがない。子どもも一緒に地域参加できるものがあると「子育てしていても仕事してないから」と言われることが減ると思う	1
西柞地区では、保育園の定員が一杯で希望しても入れないため、定員の増員や保育園の増設等の対応を至急してほしい。男女共同参画のためには、子どもを預けて働ける環境づくりが大切だと思う。生涯学習について、図書館が春日にひとつだけとなり不便を感じるため、常時開設されている分室等をつくってほしい	1
女性のことは、その人の立場で行政におどらされ、働くことを望まない人まで小さな子を保育園に預けるような風潮は、とても許せない気持ちである。その人たちが働かなくてもよい市にしてもらえれば、働かない人も多いはずである。もっと自由な考えで子育てだけをできるような社会になるとよい	1

思い	件数
昨年暮れ、父が他界し10年に及ぶ介護が終わった。それ以前は積極的に生涯学習やカルチャーセンター、図書館、美術館を利用していた。今、改めてこの調査に回答しながら思ったことは、ここ5年以上、男女共同参画、生涯学習に参加できなかった。それ以上に介護で大変な時、市の障害者自立支援法のガイドを見て相談に行ったが、何の力になってもらえず、とても情けない思いをした。生涯学習、カルチャーも大切なことだが、それ以上に精神的にも体力的にもなかなか助けてけない問題を少しでも解決していただけて、初めて男女共同参画、生涯学習を思うことができるのではないかと	1
身体づくりが男女とも同じなら男女平等と言えるが、事実それは無いので、それぞれの立場を理解し、世直しをしていかなければ、ただのエゴになってしまうと思う。どうせなら男性に月経と妊娠・出産ができるようになれば良いと思う。それでこそ男女平等で同じ生活が送れるというもの。所詮、すべて人間のエゴだ	1
生活にゆとりがある人に参加を求める。私は69歳になるが、現役で働いているため時間がない	1
H22年頸椎骨折後、現在に至って家庭で地域の皆さまにお世話になっている。回答が全部できなく申し訳なく思う。今後皆さまの活躍を心よりお祈り申し上げます	1
あまりお役に立てなくて申し訳ない	1
時間と気持ちに余裕がなく毎日が過ぎていく。このアンケートを受けて自分の無知、ゆとりの無さに恥ずかしい気持ちになる。少しずつ勉強して、少しでも関わることができたらと思った	1
生涯学習に関心はあるが、高齢なので無理だと思う。主人の介護が優先だから。認知の夫、今日も無事でと祈る朝	1
高齢者に対しての思いやりが欠けているため、ますます居場所がなくなっている	1

アンケート	件数
このアンケートにおいて言葉の解説をしなくてはならないような浸透度では、何をやっても絵に描いた餅に終わると思う	1
アンケートの項目が多過ぎる(負担になる)	1
アンケートをやってくうちに、いったい何が目的で聞いているのかよくわからない。途中で間を読むのがつまらなくなり、やめようかと思った。非常に役所的な考え方も知れないが、このアンケートをすることにより何がしたいのかまったくわからない。質問の内容も非常にわかりにくくつまらない	1
アンケートの主旨がわからない	1
いつも何かのアンケートが市から来るが、送付される基準は何か	1
アンケートの項目が多過ぎる。似たような設問もあったので、もっと簡潔にするべきだ。郵送で送られるよりも庁舎などで簡単に答えてもらうようなアンケートにした方が良いのでは。途中から答えるのにも疲れてしまうぐらいの量だったので、もっと中身の検討と半分ぐらいの質問にして下さい	1
このような設問で市民の意識調査ができるかどうか非常に疑問である。行政の労力と予算を使っていると思うが、もっとわかりやすい設問をつくるべきだ	1
アンケートの人選方法がわからない。	1
このアンケートの作り方(設問と回答)に該当しない、選択に困るようなものがあった。住民視線でアンケートもつくってほしい	1
アンケート内容に答えられない。質問形式の見直しをしてほしい	1

アンケートの宛名本人があまりにも高年齢につき、内容が難しいと思われる	1
アンケートの内容にわからない点がある。男女共同参画と生涯学習の共通性はあるのか疑問で、無駄な調査もあり、もう少し内容を吟味した方がよい	1

V 調査票

清須市 男女共同参画に関する市民意識調査
【結果報告書】

発行：清須市 生涯学習課
〒452-0942
愛知県清須市清洲弁天 96 番地の 1
TEL 052-409-6471
FAX 052-409-8882

発行年月日 : 平成 25 年 12 月
